

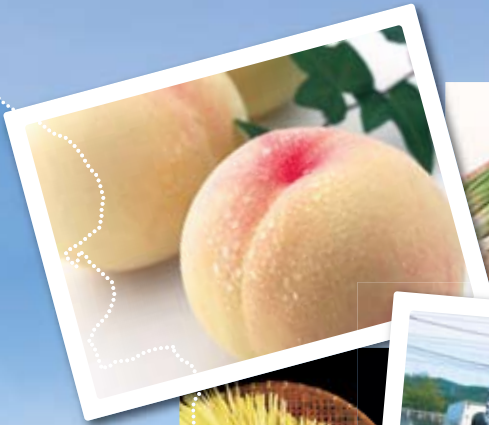


JA岡山営農振興計画

—農家に愛され地域に貢献するJA事業の展開—

第1部 JA岡山営農振興計画（全体計画）

第2部 営農経済センター別営農振興計画



平成21年3月



(地域に密着し、
地域に根ざし、
地域とともに歩む)

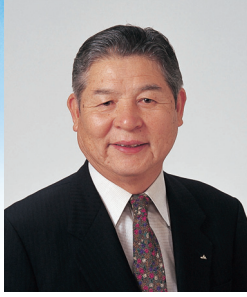
.....

為せば成る

為さねば成らぬ何事も

成らぬは人の為さぬなりけり。

上杉 鷹山



岡山市農業協同組合
経営管理委員会会長
堀川 進



岡山市農業協同組合
代表理事理事長
藤田 新二

ごあいさつ

組合員の皆様方には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素からJA岡山の運営及び事業活動の各般にわたり、格別のご理解とご協力を賜り深く感謝申し上げます。

JA岡山管内では、古くから、多島美を誇る瀬戸内沿岸から緑豊かな吉備高原に至る自然条件と都市近郊の社会・経済条件を活かし、農産、園芸、畜産にわたり多彩な農畜産物の生産が営まれています。

現在のJA岡山は、経営基盤の強化を図るため、平成12年に岡山市内14JAの合併に続き、平成15年、17年及び平成20年10月の合併を経て、組合員(正・准)4万7千余人の国内有数規模のJAになりました。

農業、農協を取り巻く環境は、農産物価格の低迷、農業者の高齢化、担い手不足による農業就業者の減少、耕作放棄地の増加、さらには肥料農薬、生産資材の高騰等厳しい状況にあり、今後の地域農業の振興やJAの運営に対し、大きな課題となっています。

こうした状況の中で、JA岡山では、各地域の特色を活かした農業生産の振興を大きな目標として、16カ所に営農経済センターを設置したところであります。そして、このセンターを拠点として、営農経済専任渉外員、営農指導員等が連携しながら「出向く営農指導」体制の強化を目指すとともに、営農振興に係る課題と目標を整理し、「JA岡山営農振興計画」として取りまとめました。

本計画が、組合員の皆様の元気ある農業の実践と農家に愛され地域に貢献するJA事業の展開の道標として活用され、各営農経済センターを軸とした営農指導活動や農畜産物販売高の増加、各生産部会の活性化と地産地消の推進などに大いに役立つことを期待しております。

終わりに、限りない地域農業の発展と皆様方のご健勝をご祈念いたしますとともに、策定に当たり、地域座談会等での貴重なご意見、ご提言をいただきましたことに対し厚くお礼申し上げます。

平成21年3月

目次

第1部 JA岡山営農振興計画(全体計画)

I 計画策定の考え方

- 1 計画策定の趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
- 2 計画の構成と期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
- 3 重点目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9

II JA岡山管内の概要と農業構造

1 管内の概要

- (1) 地域の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
- (2) 組合員・役員・職員数・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
- (3) JA岡山の機構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
- (4) 営農経済センター・・・・・・・・・・・・・・・・・・15

2 管内の農業構造

- (1) 専業・兼業別農家数等の推移・・・・・・・・・・15
- (2) 耕地面積・耕作放棄地面積の推移・・・・・・・・15
- (3) 経営規模別農家数の推移(販売農家)・・・・・・・・16
- (4) 管内の主な作目の作付面積・・・・・・・・・・17
- (5) 品目別販売高等・・・・・・・・・・・・・・・・・・17

III 営農振興計画の基本方針

1 農業所得の向上

- (1) エリア別農業生産・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
- (2) 主な営農類型の推進地域・・・・・・・・・・19
- (3) 経営体別の目標所得・時間・・・・・・・・・・20
- (4) 土地利用・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
- (5) コスト削減・・・・・・・・・・・・・・・・・・21

2 多彩な農畜産物の生産振興

- (1) 高品質な農産物の生産振興・・・・・・・・・・21
- (2) 安全・安心な農産物の生産と品質保証システムの確立・・25
- (3) 生産者組織の整備と機能強化・・・・・・・・・・26
- (4) 直売に向けた農産物の生産振興・・・・・・・・・・26
- (5) 温暖化に対応した農産物の生産振興・・・・・・・・27

3 マーケティング戦略の強化

- (1) 流通・販売戦略の強化と体制の整備・・・・・・・・27
- (2) 「地産地消」の推進と「農産物直売所」の整備・・28
- (3) 農産加工品の開発・販売と食品産業との連携強化・・29

4 意欲ある担い手の育成・確保

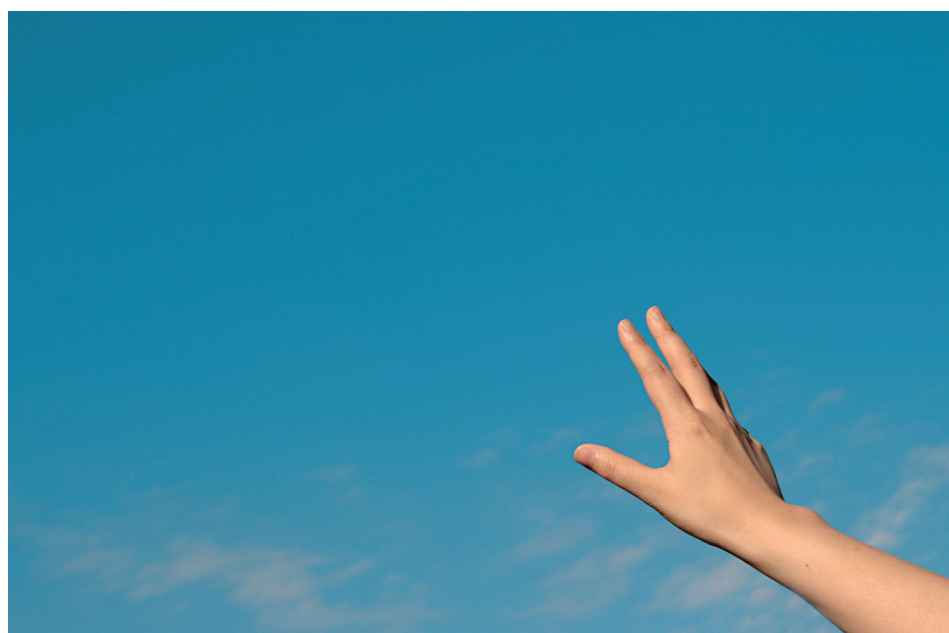
- (1) 認定農業者等の確保30
- (2) 新規就農者の育成確保31
- (3) 集落営農組織の育成と法人化の推進32
- (4) 多様な(女性・高齢者等)担い手の育成確保32

5 優良農地の確保と生産基盤の整備・強化

- (1) 農地流動化の推進と耕作放棄地の解消推進33
- (2) 水田経営所得安定対策の確立34

6 JAの役割と活動

- (1) 「出向く営農指導」体制の強化35
- (2) 生産資材の調達と供給体制の整備・充実35
- (3) 農作業受委託事業の強化36
- (4) 「食農」教育活動の展開37
- (5) CE等共同利用施設の運営改善37
- (6) 生活支援事業の整備・充実39



第2部 営農経済センター別営農振興計画

ステップ1(出向く営農指導)	42
ステップ2(営農振興の拠点づくり)	43
ステップ3(農家所得の向上のために)	44
1 中部第1営農経済センター	45
“消費者のより近くへ!”	
(1) 現状と課題	
(2) 目標と方策	
2 中部第2営農経済センター	47
“地元の I LOVE 農産物をアピールしよう!”	
(1) 現状と課題	
(2) 目標と方策	
3 中部第3営農経済センター	50
“みんなで一緒に元気な“たね”をまこう!”	
(1) 現状と課題	
(2) 目標と方策	
4 中部第4営農経済センター	52
“気候も人も温暖な児島半島から微笑みのある農業を”	
(1) 現状と課題	
(2) 目標と方策	
5 東部第1営農経済センター	55
“はだか祭りの活気を農業につなげよう!”	
(1) 現状と課題	
(2) 目標と方策	
6 東部第2営農経済センター	58
“規模拡大ばかりが農(能)じゃない”	
(1) 現状と課題	
(2) 目標と方策	
7 東部第3営農経済センター	61
“つなげよう!ひろげよう!地域農業の裾野”	
(1) 現状と課題	
(2) 目標と方策	
8 東部第4営農経済センター	64
“夢と希望のもてる農業の推進”	
(1) 現状と課題	
(2) 目標と方策	
9 南部第1営農経済センター	68
“未来農業をチョイス(選択)”	
(1) 現状と課題	
(2) 目標と方策	

10 南部第2営農経済センター	73
“人と大地のコミュニケーション!!”	
(1) 現状と課題	
(2) 目標と方策	
11 南部第3営農経済センター	76
“「産地ブランド拡大」大作戦”	
(1) 現状と課題	
(2) 目標と方策	
12 西部第1営農経済センター	80
“くだもの王国”から楽しさプラスワン	
(1) 現状と課題	
(2) 目標と方策	
13 西部第2営農経済センター	86
“吉備の郷で「がっちり」農業!”	
(1) 現状と課題	
(2) 目標と方策	
14 北部第1営農経済センター	89
“未来に続く“やまびこ農業”を目指して!”	
(1) 現状と課題	
(2) 目標と方策	
15 北部第2営農経済センター	92
“夢ふくらむ農業を目指して!”	
(1) 現状と課題	
(2) 目標と方策	
16 北部第3営農経済センター	96
“清流と元気な鮎の郷ではっほね農業”	
(1) 現状と課題	
(2) 目標と方策	

付属資料

1 岡山市農業協同組合合併の変遷	101
2 営農経済センター別組合員数(H20.10現在)	102
3 営農経済センター別年齢別農業従事者数・割合(販売農家)(2005農林業センサス 販売農家)	103
4 営農経済センター別取扱高(H19実績推計)	104
5 営農経済センター別農家数及び農業概要(2005農林業センサス 販売農家)	105
6 JA岡山米麦等生産及び青壮年部・女性部等部会概要(営農経済センター別)	108
7 JA岡山青果物生産部会概要(営農経済センター別)	109
8 JA岡山大型共同乾燥調製施設一覧	110
9 JA岡山農産加工施設一覧	111
10 JA岡山連絡先一覧	112

第1部

JA岡山営農振興計画 (全体計画)

-
- I 計画策定の考え方
 - II JA岡山管内の概要と農業構造
 - III 営農振興計画の基本方針
-

第1部

JA岡山営農振興計画（全体計画）

I 計画策定の考え方



1 計画策定の趣旨

JA岡山は、瀬戸内沿岸から吉備高原に至る自然条件と都市近郊という社会・経済的条件を活かし、農産・園芸等にわたる組合員の多様な営農を通じて、岡山の多彩で豊かな農畜産物を生み出してまいりました。

しかしながら、近年の農業と農政を取り巻く情勢は、農業者の高齢化や担い手不足、耕作放棄地の増加、輸入農畜産物の増大等、多くの課題を抱える中で、国は、水田経営所得安定対策や農地・水・環境対策等が実施されたものの十分な機能が発揮されておらず、大きな課題となっています。

このような中、JA岡山では、16カ所に営農経済センターを設置し、地域を拠点とした「出向く営農指導」体制の強化を図り、また、平成20年6月には、「経営管理委員会制度」を導入し、JA事業の経営管理の高度化を目指しているところであります。

さらに、平成20年10月には隣接する「JAせとうち」との合併を行い、組合員数、貯金高、販売高、耕地面積等、全国的にも大規模なJAとなりました。

このため、JA岡山には、全組合員とともに、先人からの蓄積された優れた技術、文化等を踏まえ、恵まれた自然と立地条件を活かして、JA岡山の大地から安全・安心な食料の安定供給をはじめ、国土・自然環境の保全や地域社会への貢献などの多様な役割を果たしていくことが求められています。

このような視点から、JA岡山では、今後の営農振興の指針となるべき「活いき元気印JA岡山営農振興計画」を策定し、その実現に向けて具体的な施策を実践していきます。

2 計画の構成と期間

この計画は、JA岡山が「営農振興」として、取り組むべき対策及び各営農経済センターの目標と方策を示したものであります。

計画期間は、平成21年度から25年度までの5カ年計画とします。

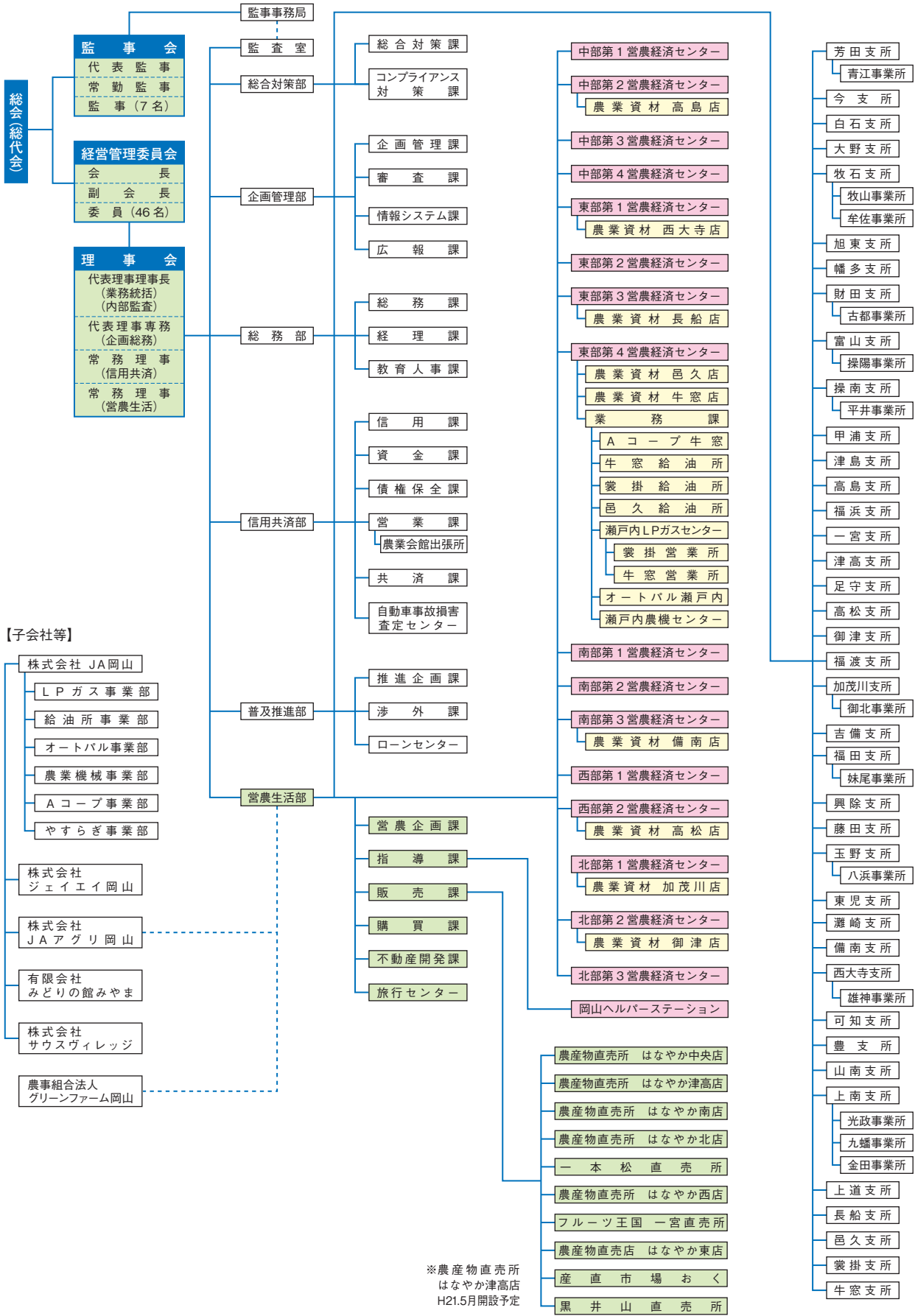
私たちはこの計画に沿って組合員の自主性と創意工夫を基本に、新たなJAづくりをすすめてまいります。

さらに、この計画は、単にJA岡山の「営農振興」目標であるだけでなく、組合員一人ひとりが地域で活動する際の指針となることも期待しております。

3 重点目標

- 「出向く営農指導」体制の確立を図ります。
- 農産物販売額150億円を目指します。
- 生産部会の活性化と地産地消の推進を図ります。

JA岡山の機構 (平成21年3月現在)



※農産物直売所
はなやか津高店
H21.5月開設予定

地域営農経済センターの概要

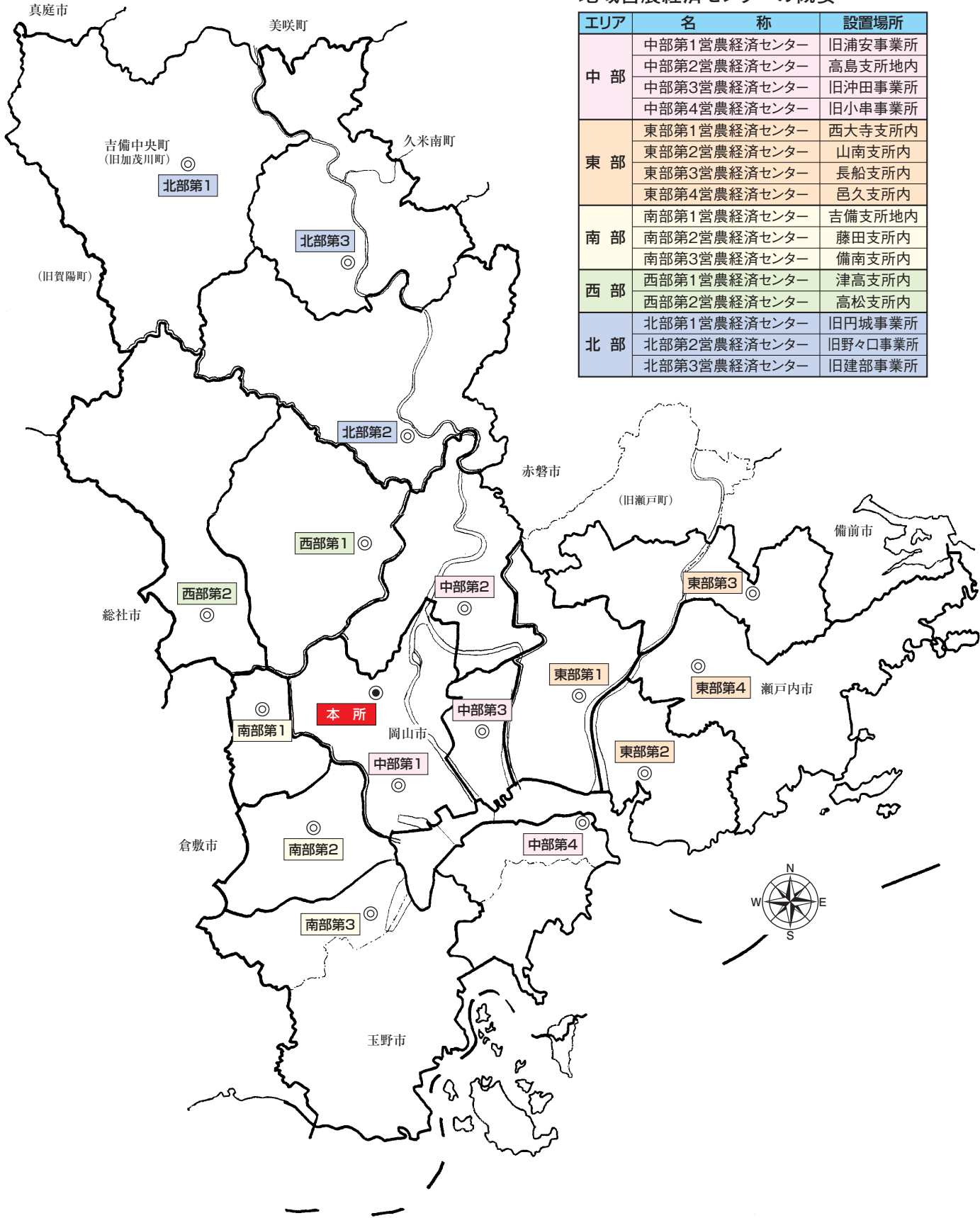
(単位：人)

No.	エリア	名称	設置場所	職員数	区域
No.1	中部	中部第1営農経済センター TEL.086-902-5007	旧浦安事業所 岡山市南区浦安本町27-5	10	本所、芳田支所(芳田・青江地区) 今支所、白石支所、大野支所 福浜支所(福浜・浦安地区)
No.2		中部第2営農経済センター TEL.086-207-6511	高島支所地内 岡山市中区国府市場32-3	20	牧石支所(牧石・牧山・牟佐地区) 旭東支所、幡多支所、財田支所、津島支所、高島支所
No.3		中部第3営農経済センター TEL.086-200-0150	旧沖田事業所 岡山市中区桑野291-6	8	富山支所(富山・操陽地区) 操南支所(三幡・沖田・平井地区)
No.4		中部第4営農経済センター TEL.086-269-9191	旧小串事業所 岡山市南区小串2417-2	11	甲浦支所(甲浦・小串地区) 東児支所(胸上・鉾立地区)
No.5	東部	東部第1営農経済センター TEL.086-944-6155	西大寺支所内 岡山市東区西大寺中野377-1	23	西大寺支所(西大寺・雄神地区) 可知支所(可知・古都地区) 上南支所(津田・光政・九幡・金田地区)
No.6		東部第2営農経済センター TEL.086-946-9003	山南支所内 岡山市東区水門町30-3	12	豊支所 山南支所(太伯、幸島、朝日、大宮地区)
No.7		東部第3営農経済センター TEL.0869-26-9577	長船支所内 瀬戸内市長船町土師1202-1	18	上道支所(上道・西祖・才崎・沼地区) 長船支所
No.8		東部第4営農経済センター TEL.0869-22-1212	邑久支所内 瀬戸内市邑久町豊原101-1	※1 85	邑久支所(邑久・福田・今城・豊原・本庄・笠加地区) 裳掛支所(玉津・裳掛地区) 牛窓支所(牛窓・長浜地区)
No.9	南部	南部第1営農経済センター TEL.086-903-3010	吉備支所地内 岡山市北区平野904-1	10	吉備支所(吉備・撫川・陵南・花尻地区) 福田支所(福田・妹尾地区)
No.10		南部第2営農経済センター TEL.086-296-0037	藤田支所内 岡山市南区藤田441	23	興除支所(興除・東畦・曾根地区) 藤田支所(藤田・大曲・錦・六区地区)
No.11		南部第3営農経済センター TEL.08636-3-5122	備南支所内 岡山市南区灘崎町北七区61-1	33	備南支所、灘崎支所(灘崎・彦崎地区) 玉野支所(玉野・荘内・荘内上・八浜・大崎・田井地区)
No.12	西部	西部第1営農経済センター TEL.086-294-6004	津高支所内 岡山市北区栢谷1057	18	一宮支所(一宮・尾上・大窪・佐山・上芳賀・楯津地区) 津高支所(津高・横井・馬屋上地区)
No.13		西部第2営農経済センター TEL.086-905-0710	高松支所内 岡山市北区高松141-1	18	高松支所(高松・加茂・生石・真金地区) 足守支所(足守中央・足守・日近・岩田・福谷地区)
No.14	北部	北部第1営農経済センター TEL.0867-34-9777	旧円城事業所 吉備中央町円城578-1	14	加茂川支所(加茂川・円城・津賀・御北地区)
No.15		北部第2営農経済センター TEL.0867-24-2000	旧野々口事業所 岡山市北区御津野々口1197	13	御津支所(御津・野々口・宇甘東・宇甘西・宇垣・五城・矢原・金川地区)
No.16		北部第3営農経済センター TEL.0867-22-9050	旧建部事業所 岡山市北区建部町中田83-3	11	福渡支所(福渡・鶴田・上建部・建部・竹枝地区)
営農経済センター 小計				327	
本 所				72	
合 計				399	

注) 職員数には農業資材店等を含む。

※1 農業資材店、Aコープ、給油所、LPガスセンター、オートパル、農機センターを含む。

JA岡山営農経済センター配置図



地域営農経済センターの概要

エリア	名 称	設置場所
中 部	中部第1営農経済センター	旧浦安事業所
	中部第2営農経済センター	高島支所内
	中部第3営農経済センター	旧沖田事業所
	中部第4営農経済センター	旧小串事業所
東 部	東部第1営農経済センター	西大寺支所内
	東部第2営農経済センター	山南支所内
	東部第3営農経済センター	長船支所内
	東部第4営農経済センター	邑久支所内
南 部	南部第1営農経済センター	吉備支所内
	南部第2営農経済センター	藤田支所内
	南部第3営農経済センター	備南支所内
西 部	西部第1営農経済センター	津高支所内
	西部第2営農経済センター	高松支所内
北 部	北部第1営農経済センター	旧円城事業所
	北部第2営農経済センター	旧野々口事業所
	北部第3営農経済センター	旧建部事業所

Ⅱ JA岡山管内の概要と農業構造

1 管内の概要

(1) 地域の概要

JA岡山は、平成12年に14JA（岡山市、岡山市三幡、高島、岡山一宮、足守町、津高、岡山市高松、吉備町、興除、妹尾町、岡山市福田、岡山市藤田、西大寺、上道町）が合併し、続いて平成15年1月に5JA（玉野灘崎、備南、みつ、加茂川町、長船町）と合併し、平成17年11月にJA福浜と、更に、平成20年10月にJAせとうちと合併し、岡山市（旧瀬戸町を除く）、玉野市、瀬戸内市、吉備中央町（旧賀陽町を除く）の3市1町を事業区域とする新生「岡山市農業協同組合」が発足しました。

当管内は、県の南部に位置し、岡山県の三大河川のうち旭川と吉井川が瀬戸内海に注いで開けた岡山平野を中心に、北は吉備高原から南は瀬戸内海に至る約55キロメートル、東は備前市、西は倉敷市に接するまで約40キロメートル、総面積1,118平方キロメートルで、岡山県面積の15.7%を占めています。

地形は、南部は沖積平野及び江戸時代から拓かれた広大な干拓地で、ほぼ平坦な地形からなっています。一方、北部はなだらかな丘陵地（標高200～300m）からなり、吉備高原につながっています。

気候は温暖で、年平均気温15～17℃、年間降雨量1,000～1,500mmであり、特に冬の降水量は少なく、降雪はまれであり、典型的な瀬戸内型気候であります。

交通は、山陽新幹線、JR山陽本線ほかJR 5支線、国道2号線の他4国道、高速道路は山陽自動車道、岡山自動車道がそれぞれ管内を走り、京阪神、四国、そして山陰への交通の要衝となっています。

(2) 組合員・役員・職員数

組合員数、役員数、正職員数は次のとおりです。

組合員数		役員数		正職員数
正組合員数 (正組合員数戸数)	34,278人 (27,233戸)	経営管理委員数	48人	983人 (内 営農指導員：50人)
准組合員数 (准組合員数戸数)	13,361人 (10,511戸)	理事	4人	
合計	47,639人 (37,744戸)	監事	9人	

(平成20年10月末現在)

(3) JA岡山の機構

JA岡山の機構は10ページの機構図のとおりであります。営農生活部は5課、1旅行センター、16営農経済センター、10農産物直売所、岡山ヘルパーステーション、及び農業資材店、米麦乾燥調製施設、農産加工施設、農業倉庫などを所管しています。

(注：東部第4営農経済センターでは、農業資材店の他、Aコープ、給油所、LPガスセンター、オートパル、農機センターも所管)

(4) 営農経済センター

「出向く営農指導」体制強化のため、JA岡山管内を「中部」「東部」「南部」「西部」「北部」の5エリアに拠点となる16の「営農経済センター」を設置しています。

営農経済センターには、営農経済専任渉外担当職員及び営農指導員並びに担い手育成対応班員等、約400名（注：東部第4センターの給油所、オートパルなどを含む。）の職員を配置し、農家に対する情報発信と営農指導の拠点を目指しています。



2 管内の農業構造

(1) 専業・兼業別農家数等の推移

JA岡山管内の総農家数は農林業センサスによると17,619戸で、その内販売農家は約7割の12,310戸であります。平成12年から平成17年の5年間にそれぞれ11.1%、18.9%減少しています。

専業農家は2.7%の増加をしていますが、第1種農家は26.3%、第2種農家は24.3%の減少となっています。また、自給的農家は5,286戸で、平成12年に比べて652戸、14.1%の増加であり、今後もこの傾向は続くものと考えられます。

専業・兼業別農家数等の推移

単位：戸

	総農家数	販 売 農 家				自給的農家数	自給的農家割合
		合計	専業農家数	第1種兼業農家数	第2種兼業農家数		
平成12年	19,820	15,186	3,137	1,444	10,605	4,634	23.4%
平成17年	17,619	12,310	3,223	1,064	8,023	5,286	30.0%
増 減	▲2,201 (▲11.1%)	▲2,876 (▲18.9%)	86 (2.7%)	▲380 (▲26.3%)	▲2,582 (▲24.3%)	652 (14.1%)	6.6%
岡山県 (H17)	81,786	51,709	12,301	4,116	35,292	30,077	36.8%
県全体に占める割合 (H17)	21.5%	23.8%	26.2%	25.9%	22.7%	17.6%	—

(2000年、2005年農林業センサス)

注) 農林業センサスにおける定義

「農 家」：経営耕地面積が10 a 以上又は年間農産物販売金額が15万円以上の世帯

「販売農家」：経営耕地面積が30 a 以上又は年間農産物販売金額が50万円以上の農家

(2) 耕地面積・耕作放棄地面積の推移

JA岡山管内の経営耕地面積（販売農家）は13,196haで、田が88.9%を占め、畑が7.1%、樹園地が4.0%となっており、耕作放棄地面積は14.6%を占めています。また、平成12年から平成17年の5年間の推移を見ると、経営耕地面積全体では、12.6%の減少となっておりますが、反面、耕作放棄地は1,927haと79.3%の大幅な増加となっております。

耕地面積・耕作放棄地面積の推移

単位：ha

	経営耕地面積（販売農家）				耕作放棄地面積
	計	田	畑	樹園地	
平成12年	15,095 (100.0%)	13,370 (88.6%)	1,091 (7.2%)	628 (4.2%)	1,075 (7.1%)
平成17年	13,196 (100.0%)	11,744 (88.9%)	938 (7.1%)	524 (4.0%)	1,927 (14.6%)
増減	▲1,899 (▲12.6%)	▲1,626 (▲12.2%)	▲153 (▲14.0%)	▲104 (▲16.6%)	852 (79.3%)
岡山県 (H17)	46,088	38,445	5,475	2,168	10,517
県全体に占める割合 (H17)	28.6%	30.5%	17.1%	24.2%	18.3%

(2000年、2005年農林業センサス)

(3) 経営規模別農家数の推移（販売農家）

JA岡山管内の経営耕地面積を見ると、1ha未満の農家が65.0%を占め、2ha以上の大規模農家は8.7%であります。JA岡山管内の1戸当たりの平均経営耕地面積は1.06haで、平成12年に比べて僅かではありますが拡大しています。又、規模別農家数の推移を見ると、2ha未満の農家の減少率が高く、特に、0.5ha未満の零細農家数の減少率が25%を超えています。反面、5ha以上の大規模農家の増加率は27.1%と高くなっています。

経営規模別農家数の推移（販売農家）

単位：戸

	農家係数	～0.3ha	0.3～0.5ha	0.5～1.0ha	1～2ha	2～5ha	5ha～	1戸当たり 平均経営 耕地面積 (a)
平成12年	15,186 (100.0%)	292 (1.9%)	3,854 (25.4%)	6,115 (40.3%)	3,831 (25.2%)	954 (6.3%)	140 (0.9%)	99
平成17年	12,310 (100.0%)	193 (1.6%)	2,882 (23.4%)	4,922 (40.0%)	3,238 (26.3%)	897 (7.3%)	178 (1.4%)	106
増減	▲2,876 (▲18.9%)	▲99 (▲33.9%)	▲972 (▲25.2%)	▲1,193 (▲19.5%)	▲593 (▲15.5%)	▲57 (▲6.0%)	38 (27.1%)	—
岡山県 (H17)	51,709	531	15,662	22,457	10,287	2,306	464	89
県全体に占める割合 (H17)	23.8%	36.3%	18.4%	21.9%	31.5%	38.9%	38.4%	—

(2000年、2005年農林業センサス)



(4) 管内の主な作目の作付面積

JA岡山管内の主な作目は、作付面積の大きい順に、耕種作物では、水稻、二条大麦、小麦、大豆の順、果実では、ぶどう、もも、みかんの順に、野菜では、はくさい、キャベツ、かぼちゃの順となっています。

管内の主な作目の作付面積（平成18年）

単位：ha

作 目	作付面積合計	内 訳			
		岡山市（旧瀬戸町を除く）	玉野市	瀬戸内市	吉備中央町（旧賀陽町を除く）
水 稻	10,884	8,594	474	1,390	426
二条大麦	1,844	1,540	121	183	—
小 麦	347	331	12	4	0
大 豆	342	217	36	46	43
ぶどう	338	291	2	41	4
も も	148	127	1	3	17
みかん	53	3	14	36	—
はくさい	185	50	1	127	7
キャベツ	154	53	6	90	5
かぼちゃ	122	44	3	74	1
ばれいしょ	104	37	4	60	3
レタス	80	75	2	3	0
な す	59	45	10	2	2
ね ぎ	58	54	1	2	1
れんこん	54	44	10	—	—
だいこん	49	39	3	4	3
たまねぎ	43	36	3	3	1
ほうれんそう	40	33	1	4	2
いちご	24	22	0	2	0
にんじん	19	16	1	1	1
きゅうり	18	15	1	1	1
トマト	16	6	2	7	1
ブロッコリー	13	4	2	6	1
花き花木	26	17	2	2	5

（岡山農林水産統計年報（平成17年～18年））

注）旧市町数字がH18でないと入手出来ないため、H18の数字としました。

(5) 品目別販売高等

JA岡山における農産物等の品目数は優に50品目を超え、まさに、総合農産物生産基地であります。平成19年度の総販売額は122億2千万円ではありますが、米価格の低下や畜産の低迷等により減少し、平成18年度の83.8%であります。作目別に見ると、米が近年の価格の下落により、平成18年の約50億円の販売額から平成19年には約41億円に低下し、全体に占める

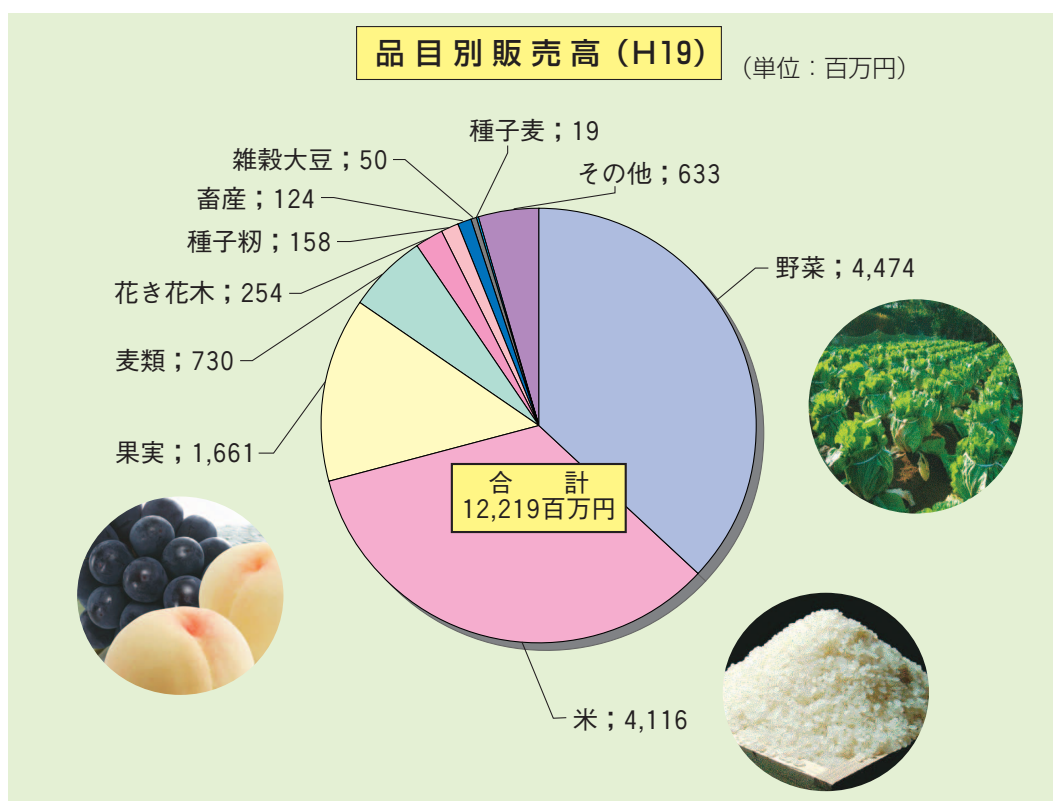
ウエイトは34.2%から33.6%に低下し、代わって落ち込みの少なかった野菜が約45億円となり、36.6%の1位のウエイトを占めております。次いで果実の13.7%、麦の6%となっております。

品目別販売高等

単位：千円、%

品目	販売高			割合			伸び率 (H19/H18)
	H17	H18	H19	H17	H18	H19	
米	5,079,455	4,992,088	4,116,322	38.3	34.2	33.6	82.4
麦類	770,149	767,601	729,336	5.8	5.3	6.0	95.0
雑穀・大豆	44,483	63,119	49,591	0.3	0.4	0.4	78.6
種子粉	161,772	163,580	157,587	1.2	1.1	1.3	96.3
種子麦	34,202	37,131	19,272	0.3	0.3	0.2	51.9
野菜	4,619,023	4,511,766	4,474,247	34.9	30.9	36.6	99.2
果実	1,684,138	1,744,884	1,660,844	12.7	12.0	13.7	95.2
花き花木	310,171	283,941	254,228	2.3	1.9	2.1	89.5
畜産	156,177	154,417	124,040	1.2	1.1	1.0	80.3
その他	392,412	1,868,627	633,244	3.0	12.8	5.2	33.9
合計	13,251,982	14,587,154	12,218,711	100.0	100.0	100.0	83.8

(平成20年度総代会資料)



Ⅲ 営農振興計画の基本方針

1 農業所得の向上

(1) エリア別農業生産

JA岡山管内は、中部、東部、南部、西部、北部のエリア別に区分され、それぞれの土地条件から、地域に適した多くの農作物が栽培されています。今後も、既存の作物を中心にした適地での特産物の産地化や周辺地域での産地拡大が望まれます。

エリア名	特 徴
中 部	岡山市の中心部を占め、市街化地域やその周辺地域でネギ、ほうれんそう、黄ニラ等の軟弱野菜の栽培が盛んであり、エリア北部と南部では花き、露地野菜、果樹等、地場市場向けを中心とした多品目の作物の栽培が行われ、南部水田地帯では水稲、麦、施設なす、レタス等が栽培されています。
東 部	エリア北部ではぶどう、なし等の果樹、東部では、キャベツ、白菜、冬瓜等の露地野菜や施設果樹、南部水田地帯では水稲、小麦、大豆等が栽培されています。又、酪農もこの地域に集中しています。
南 部	干拓地を含む整備された平坦水田地帯では水稲、麦、大豆等を主体に、レタス、タマネギ、レンコン等の露地野菜、施設なすの栽培が行われています。又、瀬戸内沿いでは、温暖な気候を利用した花き、露地野菜等が栽培されています。
西 部	エリア北部丘陵地帯では古くからのもも（白桃）、ぶどう（アレキ）の果樹の一大産地であります。また、南部の水田地帯では、水稲、転作作物としての有機無農薬野菜等が栽培されています。
北 部	吉備高原に含まれる北部丘陵地では、花きやぶどう等の果樹や白菜、ピーマン等の露地野菜等が栽培され、南部の旭川中流域では、転作作物として大豆やきゅうり、つぐね芋等が栽培されています。

(2) 主な営農類型の推進地域

今後の農業の中心となる経営体として「個別経営」「組織経営」「女性・高齢者」に区分し、それぞれのエリアにおいて営農類型を推進します。

営 農 類 型	中部	東部	南部	西部	北部
〈個別経営〉水稲・麦・大豆複合	○	△	○	△	
水稲・麦・野菜複合	○	△	○	△	
野菜専作①（黄ニラ、だいこん、にんじん）	○				
野菜専作②（ねぎ、レタス）	○				
野菜専作③（ほうれんそう、レタス）	○		○		○
野菜専作④（キャベツ、はくさい、冬瓜）		○			
果樹専作①（もも）		△		○	
果樹専作②（アレキ）		△		○	
果樹専作③（ピオーネ）	△	○		△	△
〈組織経営〉水稲・麦・大豆複合	△		○		
〈女性・高齢者〉水稲・野菜複合	○	○	○	○	○

(○：エリア内全域で推進、△：エリア内の適地で推進)

(3) 経営体別の目標所得・時間

〈個別経営体〉

認定農業者等地域の担い手となる経営で、農業専従者2人程度、年間所得目標は800～900万円、1人当たり年間労働時間は2,000時間程度としました。

〈組織経営〉

協業経営もしくは法人化を前提とした経営で、基幹となる農業従事者は3人程度とし、年間所得目標は2,000～3,000万円程度としました。

〈女性・高齢者〉

基幹となる農業従事者が女性・高齢者で、労働力は1.0～1.5人程度、年間所得目標を300万円程度としました。

(4) 土地利用

現状と課題

JA岡山管内の農地は、水田の多くを占める児島湾周辺は比較的整備されていますが、排水条件が必ずしも良好とはいえません。又、中北部や西部の平坦地・中山間ではほ場整備が遅れており、狭小、不整形な水田が多く残っています。特に中部エリアは県都岡山市を管内に持つために都市化の進展が他の地区より著しく、地域の混住化が進むとともに、宅地や道路を主とする都市的な土地利用への転用によって、毎年農地が減少し、転用地と営農継続農地がモザイク状に混在し、生産環境が大きく悪化しています。

しかし、これらの農地は、新鮮な農産物を生産・提供する場であり、市街化住民に対しては、潤いのある景観や災害時のオープンスペース、さらに水源涵養や雨水の保水など多面的な機能を提供しており、この点からも一定量は農地として確保されることが望まれます。また、こうした地域に農地を持つ農家にとって納税、特に相続税対策は重要な問題であり、農家の財産管理の一環としても農地の面的整備の必要性が高まっています。

対策

農業的土地利用の点からは、安定した都市型農業の展開し、農業委員会を通じた賃借関係に誘導するとともに、中部エリアの農地については都市住民への良好な住環境の提供と農業への理解促進を図るため、都市的利用との調整を取りながら次の対策を講じます。

- 農家に対して機会あるごとに秩序あるまちづくりの必要性を啓発することで農地の面的整備を推進し、営農継続農地の団地的確保に努めます。
- 将来にわたる計画的な土地利用を早い段階から農家に提案してまいります。
- 体験農園の開設を一層推進することで、新たに相続税の納税猶予制度の適用が期待できるとともに土や農作業に親しんでもらう機会を増やすことで市街地住民の農業理解を深めます。
- 市街化区域といえども、農地は可能な限り農業生産での利用が望まれます。そのため、こうした農地を持つ農家に対しては、節税、納税対策をも考慮した「我が家の土地利用計画」の策定啓発を行います。



(5) コスト削減

現状と課題

農家の農業生産におけるコスト低減は、使用する肥料、農薬の使用量の見直しをはじめ、効率的農作業の実施、農業機械の集約化、出荷資材、労働力の見直し等、総合的に取り組む必要があります。JA岡山としてもあらゆる観点からコスト低減へ向けた提案を行うものとしします。

現在、JA岡山では大規模農家を対象に、肥料を工場から直接農家へ配送することや事前予約等により、肥料、農薬価格の引き下げを行っています。

肥料：60円／袋（20kg）の引き下げ。（農家直送対策）
さらに、肥料の大口奨励として、最大100円／袋の引き下げを行っています。（平成20年度）

対策

- 集落営農の推進や集落共同作業推進により、トラクター、田植機、コンバイン等の大型機械を集約することによりコスト削減を推進します。
- JAにおいては、農作業部分受託者の斡旋等に協力するとともに、委託者に不要な農業機械についての提案をします。
- 生産者手取りの最大化に向け、徹底した流通コストの削減に取り組みます。
- 価格に対する組合員の信頼を確立するため、全農等と連携し、①肥料、農薬、資材等の仕入機能の強化や仕入れ価格の引き下げ等による主要品目価格の適正化、②物流の合理化等の取り組みによる流通コストの削減に努めます。
- TAC等と連携して、農家の土壌診断を実施し、効率的な施肥設計を行い、農業生産のコスト低減を図ります。（土壌診断件数目標1,000件／年）

2 多彩な農畜産物の生産振興

(1) 高品質な農産物の生産振興

JA岡山においては、中山間部から平坦部を経て、瀬戸内海沿岸まで自然条件の異なる農地で、米、野菜、果樹、花き、畜産等、多彩な作目が生産されており、まさに総合供給産地となっています。

JA岡山では、営農経済センターを通じ、各生産者部会の活動を支援し、各地域の個性を生かした高品質で、安全・安心な農産物の生産に取り組むと共に、競争力のある力強い産地づくりを目指します。

ア. 米

現状と課題

JA岡山管内の水稲の作付面積は水田経営所得安定対策等の実施により、年々減少し、平成18年では10,884haとなっております。しかしながら、水田が多くを占めるJA岡山管内においては、今後とも稲作が農家経営の基幹を担うことには変わりありません。主要な品種は地域に応じて、良食味のヒノヒカリ、アケボノ、朝日、コシヒカリ等が栽培されております。

しかし、近年の温暖化等の気候変動の影響を受け、収量の低下や白未熟米、病害虫による斑点米等の増加が見受けられます。



対 策

- 品質や収量の安定や食味の向上には、地域に適した品種の選定が重要であり、温暖化に適応した品種の導入を検討するとともに、従来からのヒノヒカリ、コシヒカリ、アケボノ、朝日など主要品種の生産にあたっては、1等米比率の向上を図るなど、施肥方法、適期防除の徹底など、高品質安定生産技術の確立と普及を図っていきます。
- 有機米や機能米など、消費者及び実需者ニーズに対応した売れる米の生産を積極的に支援し、付加価値を付けた米の生産に努めます。
- 近年の原材料高に対応して、肥料・農薬の適正使用を通じた低コスト高品質安定生産を図る必要があり、水田の土壌調査に基づく肥料の適正使用量を指導するとともに、全農と連携しながら低コスト資材の供給に努めます。

イ. 麦

現状と課題

管内での麦類の生産は、南部干拓地を中心に古くから行われており、平成18年では、二条大麦1,844ha、小麦347haが生産されています。JA岡山では、平成17年10月の経営所得安定対策大綱により米・麦・大豆等に対する対策が大幅に見直されたことに対応し、大麦・小麦・大豆産地の維持拡大、組合員の経営の安定を図ることを目的として、平成18年7月にJA出資型法人「株式会社 JAアグリ岡山」と「農事組合法人 グリーンファーム岡山」を設立し、栽培面積の維持・拡大や良質麦・大豆の生産に取り組んでいます。

また、経営所得安定対策に対応できる担い手農家の育成にも取り組んでおり、JA岡山の麦産地の維持・拡大に努めています。

JA出資型法人については、水田経営所得安定対策における国が示す担い手の要件を満たさない小規模農家の救済が目的の一つで、法人の設立がなければ、二条大麦・小麦合わせて約2,000haの約7割、1,400haの作付けがなくなり、中四国最大の麦産地の消滅や生産調整の破綻も考えられました。このため、JAが中心となり農政局、農協中央会など農業関係組織の協力を得ながら検討を重ねた結果、全国に類を見ないメガ法人「株式会社 JAアグリ岡山」と「農事組合法人 グリーンファーム岡山」が設立され、約800名の栽培農家の利益が確保されたことは、まさに農業協同組合の原点であります。また、約10億円以上の経済効果をもたらしました。



法人設立を機に、より一層の生産拡大が望まれており、法人参加者の推進、さらには担い手農家の育成（自己完結型）、そして品質向上と均質化、実需者が求める麦生産に対応していくことが喫緊の課題であります。

JA出資型法人の状況

- ①株式会社 JAアグリ岡山（H20.3.31現在）
 - ・事業参加者 528名
 - ・二条大麦 955ha
 - ・大豆 8ha
- ②農事組合法人 グリーンファーム岡山（H20.3.31現在）
 - ・事業参加者 281名
 - ・小麦、裸麦 241ha

対 策

- 麦は産地づくり対策の核であり、また生産調整の重要作物の一つでもあることから、食料自給率の向上に向けて、農水省が2009年度から進める「水田等有効活用促進対策」にJA岡山としても迅速かつ柔軟に対応します。
- 国は、国内の食料生産の拡大を図り、概ね10年後に食料自給率50%を目指すことにしていますが、特に水田等有効活用促進対策で大豆、麦、米粉・飼料用米などを戦略物質として位置づけ、作付拡大に助成金が交付されます。また、水田裏作の麦作付け拡大にも3年間助成金が交付されるため、JAとしてもこの対策に積極的に取り組みます。
- 水田等有効活用促進対策を推進していくために、JA出資型法人を核に担い手農家と連携しながら、麦の栽培面積の拡大に努めます。
- 麦栽培の拡大により、生産調整の実効性の強化を図り、米価の安定に寄与します。
- 担い手農家の育成とJA出資型法人、JAアグリ岡山及びグリーンファーム岡山への事業参加者の推進を図るとともに、二条大麦、小麦などの栽培面積の拡大に努めます。
- 小麦の品質については「ふくほのか」、二条大麦については「ミハルゴールド」など、地域に合った品種の導入を検討します。
- 二条大麦の蛋白含有量や品質の向上を図るため、播種時期、播種量など、適切な肥培管理、病虫害防除等、栽培管理の徹底を図ります。
- 小麦の赤カビ病等の病虫害被害の軽減を図るため、適期防除の徹底を図ります。
- 生産コストの低減を図るため、土壌診断等の実施により施肥設計の見直しを行います。

ウ. 野 菜

現状と課題

JA岡山管内の品目別販売高の推移では、近年の米価の低下等により米のウエイトが下がるとともに、大きな野菜産地を抱える「JAせとうち」と合併したことから、野菜のウエイトが上がり（36.9%）、トップになりました。



主な野菜は、作付面積の多い順から白菜（185ha）、キャベツ（154ha）、かぼちゃ（122ha）、ばれいしょ（104ha）であり、いずれも瀬戸内市が主要な産地となっています。その他、レタス、なす、ねぎ、れんこん、だいこん、玉ねぎと続きますが、これらは岡山市南部が主な産地となっています。

また、出荷額の多い順に見ると、なす（17億円）、白菜（4.3億円）、ねぎ（3.7億円）、キャベツ（3億円）、レンコン（2億円）、黄ニラ（1.9億円）、冬瓜（1.7億円）と続きます。

これらナス、白菜、キャベツ、青ねぎ、黄ニラ等が市場で高い評価を受けていますが、販売戦略の研究など検討の余地があります。

対 策

- 水田地域においては各地域水田農業ビジョンに沿って、個性を生かした特産物づくりを進めます。
- 伝統品目を大切にしつつ、「売れるものを作る」体制への転換を図り、生産履歴に裏付けされた安全・安心な農産物の生産に努めます。
- 生産から販売まで一貫した営農指導と販売に直結した体制を整備します。

- 地産地消への取り組みや生産者と消費者との顔の見える供給体制の確立とその定着に努めます。
- 市場で高い評価を受けているナス、白菜、キャベツ、青ねぎ、黄ニラ、冬瓜等については、今後とも産地の維持、拡大や消費者に対する積極的なPRを進め、ブランド化の推進を図っていきます。

工. 果 樹

現状と課題

管内は「くだもの王国岡山」の中核をなしており、古くからぶどう、もも、みかんの栽培が行われていました。JAの取り扱い額においても、野菜、米に続いて約17億円の販売高で、総販売高の13.7%のウエイトを占めています。

ぶどう

ぶどうの生産地帯は、岡山市北部におけるマスカット・オブ・アレキサンドリア、そして古都、上道及び旧邑久町におけるピオーネが中心であります。特に加温マスカットは明治19年に岡山市栢谷地区に導入されて以来、数多くの先覚者達によって120年の伝統を誇っており、全国シェアは9割以上を占めています。しかし、最近の消費者ニーズの変化による消費の減退や栽培農家の高齢化や暖房経費の高騰等により、年々生産量が減少しています。



大粒で甘くて種なしのピオーネは岡山県が全国一の生産量を誇っており、消費者の人気は年々高まっています。しかし一方では、着色不良の発生や他産地の追い上げを受けています。

もも

ももは岡山市一宮地区において明治の初めから栽培され、「清水白桃」や「白鳳」を中心に100年以上の歴史を刻んでいます。

白桃の生産は約5億円ですが、近年、温暖化と思われる影響を受け、収穫期の大きなブレを生じており、お中元商戦に合致しないことが多くなっていることがあります。

このため、単価の低迷が続いており、新品種の導入や温暖化に対応した栽培技術の確立が急務となっています。

梨

岡山市雄神、一宮、玉野市八浜等で愛宕梨、新高梨、二十世紀梨などが生産されています。特に愛宕梨は岡山特産の巨大梨としてお歳暮用に好評を得ています。

柿

管内では“沢田”地区において、約10haの生産面積があり、古くから美味しい柿の産地として知られていますが、生産者がいずれも60～70歳を超え、農作業にも支障を来し、後継者もいない状況にあり、産地維持のため、担い手の育成確保が喫緊の課題となっています。

対 策

ぶどう

- マスカット・オブ・アレキサンドリアは岡山の高級果物としてブランド化しており、多くのファンを有していますが、近年の大粒、種なし、甘いぶどうの台頭により、販売が厳しくなっています。このため、無核化や省力栽培技術の確立・普及を促進すると共に、出荷に当たっては非破壊糖度計による検査を徹底し、ブランドの保持と、消費の拡大に努めます。
- 大粒で、種なしのピオーネについては、温暖化による着色不良が多くなっていることから、小房作りや施肥管理技術の確立による着色の向上を図るとともに、着色の良い新品種「オーロラブラック」等への転換を図ります。また出荷に当たっては、共同選果による品質の均一化等、品質の向上に努めます。

も も

- 白桃の出荷は7月の中旬から9月の中旬にかけて、多くの品種によってリレー出荷されていますが、消費者ニーズに沿った「おかやま夢白桃」など高品質な品種の栽培拡大を推進します。また、出荷に当たっては、共同選果や光センサーによる非破壊糖度選別を徹底して行い、全農等と連携し、県内市場のみならず、県外市場へのお荷・PRを図り、岡山白桃のブランドの維持拡大を図ります。



梨

- あたご梨、新高梨、鴨梨（ヤーリー）は岡山を代表する果物であり、現状規模の産地維持を図るとともに、サイズや食味にこだわりを持って、販売推進を図ります。

柿

- 産地維持のため、高齢化の進んでいる部会組織の活性化を図るとともに、新規就農者の受入など、若い担い手の確保に積極的に努めます。

(2) 安全・安心な農産物の生産と品質保証システムの確立

現状と課題

近年、牛肉のBSE問題、鳥インフルエンザ、さらに、中国の毒入り餃子、メラニン入り乳製品問題、輸入事故米流通問題など、食品の安全性をめぐる問題が国内外で相次いでいます。

このような中、消費者に安全・安心な農産物を供給するためには、JAや生産者が生産段階から消費段階にわたって安全確保の取り組みを行うことが必要であります。

対 策

- 平成18年5月から、残留基準が定められていない農薬等が一律基準（0.01ppm）を超えて残留する食品の販売等を禁止するポジティブリスト制度が導入されました。このため、JAや農家においては、農薬の飛散防止低減の取り組みや、農薬の適正使用に向けた、きめ細かな指導を行うこととします。

- 消費者の信頼を確保するため、いつ、どこで、誰が生産し、集荷した農産物であるか等の生産流通経路情報を追跡、遡及できるトレーサビリティの確立が重要であり、農家における栽培管理日誌の記帳を徹底し、農産物の安全性の確保に努めるとともに、それらの情報をインターネット等で開示できる体制づくりを進めます。
- JAS法に基づく品質表示基準等の食品表示に関する正しい知識の普及啓発を行い、生産・流通段階での遵守事項について、生産者への周知徹底を図るとともに、消費者に解りやすい表示の推進に努めます。

(3) 生産者組織の整備と機能強化

現状と課題

JA岡山の生産部会は米麦関連が37部会、青果物関連が116部会あります。青果物関連部会のうち、販売高が1億円以上の生産組織は12組織、5千万円以上1億円未満は16組織、1千万円以上5千万円未満は39組織となっています。

これらの生産部会はいずれも旧JAを母体として組織されたものが多く、規模の小さい重複した部会や同一作物部会も多く存在し、そのまま運営されており、農協合併によるメリットを十分享受できていないのが現状であります。

生産部会はJAの基盤と言っても過言ではありません。こうした部会の活性化を図り、効率よく運営していく事が重要であり、産地の維持強化を図ることが喫緊の課題であります。

対策

農協合併のメリットを最大に享受するため、同一部会の情報交換の場を設け部会機能の組織活性化を図ります。

- 現在までに構築した「産地ブランド」を維持するために、より農産物の安全性に留意し、市場流通を中心に安定出荷できるように支援します。
- Uターン、Iターンなど、新規就農者を積極的に受け入れます。
- 少量多品目の生産を支援し、地産地消を推進します。
- 定年帰農者など、担い手を積極的に受け入れます。
- 高齢者向けの栽培管理技術研修会を開催します。

(4) 直売に向けた農産物の生産振興

現状と課題

JA岡山の直営の直売所は、現在10カ所ありますが、各地域においては、後継者クラブや集落等が運営する直売所も増加しています。これらの直売所への出荷農産物は、自家消費野菜の一部を出荷しているものが多いことから、一時期に同じ作物が多く出荷されたり、品質や荷姿、出荷時期等が消費者のニーズと大きくかけ離れているケースも多くなっています。

このため、多くの商品が売れ残ったりすることもあります。

また、生産意欲がありながら、直売所まで持って行く時間と労力がないため、出荷をあきらめている人もいます。



対 策

- 直売所に、どのような品目を、いつの時期に、どの位の量を出荷するかなど、農作物を生産するノウハウ等の研修を行います。
 - 直売所の購買層を調査し、消費者ニーズに沿った農産物の生産を行うよう指導します。
 - 直売所への出荷は年間を通して切れ目なく出荷する必要があるため、少量多品目の生産を奨励し、それに沿った生産技術研修を行います。
 - 高齢農家も多いため、軽労働で栽培できる作目、品種等を推進します。
 - POSシステム[※]に対応した出荷（早朝出荷の他、適宜出荷）体制を整備します。
 - POSシステム[※]の活用により、農産物の販売量、時期等の情報を提供します。
 - 高齢者等個人出荷できない農家に対する効率的集荷体制の確立に努めます。
 - ポジティブリストの徹底を図るため、農薬の適正使用に係る研修会を開催します。
- （※POSシステム：店舗で商品を販売するごとに商品の販売情報を記録し、集計結果を在庫管理やマーケティング材料として用いるシステムのこと。）

（5）温暖化に対応した農産物の生産振興

現状と課題 地球温暖化の農業への影響は、これまでの研究から、一部地域における水稻の収量の減少、病害虫の多発、果樹の栽培適地の移動等が予測されています。

「平成19年度 食料・農業・農村白書」（農林水産省）によれば、2060年代に平均気温が約3℃上昇した場合、北海道で米の収量が13%上昇し、東北以南では8～15%減少することが予測されています。

岡山県においても南部地域で米の充実度が低い「白未熟粒」が発生したり、ぶどうの着色が悪くなるなど、温暖化と思われる影響が出ています。

さらに、野菜等についても生育が前進するなど、従来の作型では適期収穫等が難しくなる事例もでてきます。

対 策

- 米については、登熟期の高温を避けるため、遅植えや晩生品種の導入を指導します。また、籾数の過剰な着粒によって白未熟粒等の発生が助長されることから、適正な籾数となるよう制御しながら、生育後半まで活力が保たれるような施肥管理を指導していきます。さらに、九州沖縄農業研究センターで育成され、高温特性が優れているとされる新品種等の導入を検討します。
- 果実については、岡山県の主要なぶどうであるピオーネの着色不良に対して、樹勢と結実量のバランスを適正化する小房づくり等の栽培技術の普及や着色の良い品種「オーロラブラック」の導入を進めます。
- 温暖化に対応した野菜等の作型や、品種の導入などの検討を進めます。

3 マーケティング戦略の強化

（1）流通・販売戦略の強化と体制の整備

現状と課題 米に関しては、全農との連携を図りつつ、市場開拓を行っています。又、水田農業の振興については、「水田経営所得安定対策」「米政策改革推進対策」等に沿って、円滑な米の流通が確立される



よう農家指導を行うとともに、生産性の高い水田農業の実現を目指します。

平成20年産の米の集荷量は約34万9,000俵ですが、JAによる米の集荷率の低さが大きな課題となっています。特に作付面積が小さく、縁故米等の多い地区の集荷率が低くなっています。

青果物のマーケティングにおいては、ほとんどが無条件委託販売であります。各市場への青果物の分荷は、全農と連携を図りつつ、青果物生産部会が中心となって行っています。合併に伴って新たなマーケティング体制を構築するまでには至っていません。

小規模な産地に対するマーケティング対応は基本的には旧JA時代と同じであります。

しかし、いずれの産地も農家の高齢化が急速に進んでおり、生産の減少と大都市向けロットの確保の困難性が大きな課題となっています。

また、有機無農薬野菜や多品種少量生産された青果物をいかに流通、販売するかが求められています。

対 策

- 米に関しては、岡山の土壌、気候に適した「ヒノヒカリ」「コシヒカリ」「朝日」等の生産、販売に力を入れるとともに、県南の気候、土壌に適した「アケボノ」についても、食味値が高く、外食など業務用に需要が多く、重要な戦略米になっており、品質の良さを一層PRしていきます。

また、JAへの米集荷率を高めるため、精算金の迅速処理や集荷方法の見直し等を行い、約50万俵の集荷を目指します。

- 青果物に関しては、市場流通対応と市場外流通対応に分けて考える必要があり、前者の場合は栽培品種や技術の統一、広域的に共同集出荷によるブランドの確立を、また、後者の場合は、地産地消を進めるための農産物直売所等での販売拡充や学校給食等への対応を積極的に進めます。さらにIT化に対応した効率的な集出荷及び販売を充実していきます。

小規模産地のマーケティング

- 小さな産地は小回りがきく小さな市場やニッチ（隙間）な市場に出荷することや農産物直売所や小規模な地元スーパー等への出荷を進めます。
- 産地自身が、背伸びをしない販売戦略を構築することが大切です。生産者もリーダーも自らの産地の現状を分析し、実践可能なことから取り組む産地づくりに徹することが大切です。大量生産、大量消費と言われていますが、多品目少量生産による多様な出荷形態が可能な現在、それに対応し、総合的に農家手取りの向上が図られることがより重要であります。

その手段として、ITによる情報収集、分析、迅速な指示指導が行われる様な体制づくりが必要であります。

(2) 「地産地消」の推進と「農産物直売所」の整備

現状と課題

地元産農産物の自給率は低く、地産地消を高めるためには、農家が直接出荷する農産物直売所が大きな役割を果たしております。

JA岡山管内の直売所は、現在25カ所ありますが、そのうちJA岡山直営



の直売所は現在10カ所であり、年間の売上高は合わせて約10億円程度が見込まれ、年々上がっています。しかし、販売農産物のうち地元産青果物が占める割合は、7～8割程度（直売所全体売上高の5割程度）であり、品揃えのため、他は市場からの引き荷や他産地からの移入物であります。

また、JAの直売所に出荷する組合員は約1,600名ありますが、高齢化と後継者不足から生産・出荷に不安があります。

対 策

- 地産地消活動は地域活性化、食文化の継承、食料自給率の向上、さらに地球温暖化の防止の観点から大きな役割を担っており、JA岡山としても直売所の開設運営等を通じて積極的に推進します。
- 直売所への出荷拡大を図るため、女性、高齢者でも取り組みが可能で、耕作放棄地などを積極的に活用した「直売所用農産物 10a、30品目、100万円 運動」を展開します。
- 会員の高齢化に対応し、新規生産者の確保と生産者のデータベース化を図ります。
- 季節による農産物の過不足を解消するため、リアルタイムな販売情報の提供や直売所相互の連携を密にし、農産物の融通システムを確立します。
- 「鮮度」「価格」「安全性」をモットーとした“魅力ある直売所づくり”に努めます。
- 直売所における観光農園情報の提供と観光農園への入園者の送り込み等、連携強化により、新しい魅力を創出します。
- 高齢者や小規模生産者の農産物を直売所へ集荷・搬入するシステムを整備します。
- 直売所における販売促進には、話題となったり、珍しい農産物などの出品が、消費者を飽きさせない事になるので、絶えず新作物や話題性のある作物の情報を提供する必要があります。このため、直売所出荷者に対し、最新情報の提供を図るとともに、出荷者台帳のデータベース化やPOSシステムの導入、及び栽培指導などを積極的に行っていきます。
- JA岡山直売所利用の消費者のサービス向上のため、ポイント制の導入を検討します。
- 地場農産物に対する消費者の要望は多く、地産地消を推進する上からも、各営農経済センターに1直売所を設置するよう整備を進めます。
(新規直売所目標：5カ所)

(3) 農産加工品の開発・販売と食品産業との連携強化

現状と課題 JA岡山の加工事業は、女性部組織等を中心に各種農産加工の取り組みが行われています。農産加工施設数は24施設で、加工品としては、味噌を中心として約30品目の加工品づくりが行われています。



しかし、「新たな会員の確保が難しい」「施設・設備が老朽化している」「販売ルートの確保が難しい」などの多くの課題を抱えています。

主 な
加 工 品

味噌、ひしお、テンペ、うどん、豆腐、もち、焼き肉のたれ、ジャム、漬物他

対 策

- 農産加工の取り組み強化のためには、今後ともJA女性部を中心とした人材確保や先進地研修などを通じた人材育成を重点に行うとともに、加工技術の向上、商品開発・改良、販売の促進を積極的に図っていきます。
- 計画的な施設・設備の改修・更新を図っていきます。
- 地域の特産物を加工したオリジナル商品を開発するとともに、品質と生産性の向上を図り、ブランド化を推進します。
- テンペを原料として加工品の開発に取り組み、特色ある「こだわり」商品づくりを促進します。
- 米の良さを積極的にPRするとともに、米の需要拡大のため、新規需要米の普及拡大に努めます。

4 意欲ある担い手の育成・確保

JA岡山管内の2005年の総農家数は1万8千戸ですが、ここ10年間で年々2%程度の割合で減少してきております。また、農業生産の主体を担っている認定農業者は885人であり、総農家数に占める割合は5%足らずであります。

管内の農業就業人口は約2万人ですが、その内の半数以上を女性が占めており、さらに、65歳以上の高齢者が3分の2を占めており、女性・高齢者が地域農業の振興や地域活性化に果たす役割が極めて大きくなっています。

このような中で、生産活動の主力を担ってきた昭和一ケタ世代のリタイアが進み、農家数や農業就業人口の減少に拍車がかかるものと思われ、意欲ある担い手の育成と確保が喫緊の課題であります。

農業就業人口

単位：人

	計	男	女
農業就業人口（実数）	(a) 19,808	(b) 9,031	(c) 10,777
割合	100.0%	(b/a) 45.6%	(c/a) 54.4%
うち65歳以上	(d) 12,698	(e) 6,247	(f) 6,451
農業就業人口に占める割合	(d/a) 64.1%	(e/b) 69.2%	(f/c) 59.9%

(2005センサス)

(1) 認定農業者等の確保

現状と課題

JA岡山管内の認定農業者の認定数は平成20年3月31日現在、885人となっておりますが、増加数は近年鈍ってきており、また、認定農業者の高齢化も年々進んできており、若い認定農業者の確保や育成が大きな課題となっております。

認定農業者数

単位：人

区 分	JA岡山管内計	岡山市(旧瀬戸町を除く)	玉野市	瀬戸内市	吉備中央町(旧賀陽町を除く)
認定農業者数(H19.3.31現在)	863	574	73	143	73
認定農業者数(H20.3.31現在)	885	592	73	147	73

(各市町調べ)

対策

地域の農業生産の主体を担う認定農業者については、農業経営改善支援センターや農業普及指導センター等との連携を図り、認定農業者の育成・確保を図るとともに、経営分析や様々な情報提供を行うなど、各種施策を組み合わせた経営改善支援に取り組みます。

(2) 新規就農者の育成確保

現状と課題

農業の担い手不足は深刻化しており、農業の継続的な発展と農村地域の活性化のためには、農業・農村の担い手となる新規就農者の確保・育成が緊急の課題となっています。

このため、「JA岡山担い手づくり戦略」に基づき、県、市、農業会議等の就農相談窓口等を通じて、JA岡山の営農状況や農地等の現地情報を提供するとともに、県のニューファーマーズ制度を活用した農業体験研修や農業実務研修を行っているところであります。

しかし、JA岡山管内の新規就農者の確保数は、新規学卒者やUターン就農者、非農家からの新規就農者など、年間20人～30人で推移しており、今後とも、積極的な育成確保が必要となっています。

また、従来のニューファーマーズ制度は農家子弟を除いた新規就農支援制度ではありますが、就農時に農地取得や農機具購入に多大な費用を要し、実際に担い手として定着するにはハードルが高く、就農率が非常に低いものとなっています。

新規就農者の確保状況

単位：人

市 町 名	平成17年	平成18年	平成19年
岡山市(旧瀬戸町を除く)	20	15	20
玉野市	1	2	0
瀬戸内市	3	2	5
吉備中央町(旧賀陽町を除く)	0	1	3
JA岡山合計	24	20	28
県 計	115	101	114

注) 新規就農者：新規学卒就農者、Uターン就農者、新規参入者（非農家出身）
年齢：H18年までは、農業を主たる職業として就業した15歳以上55歳未満の者
H19年は、農業を主たる職業として就業した15歳以上65歳未満の者

対策

将来に向かって活力ある地域農業を維持・発展させていくために「JA岡山担い手づくり戦略」に基づき、U・Iターンや他業種からの新規参入青年、意欲ある中途・定年帰農者等を対象に、農業経営改善支援センターや農業普及指導センター等との連携を密にし、就農相談や就農研修の実施、就農資金貸付などを支援していきます。

ア 新規就農者総合支援事業

担い手の育成確保や景気後退により解雇や就職難に直面した人達を農業に受け入れることを狙いに岡山市が実施している「新規就農者総合支援事業」と協調し、研修などの受け入れ先の斡旋、農地、住居等の確保・斡旋、経営資金の貸し付けなど、新規就農者に対する支援を積極的に行います。

また、組合員子弟の農家後継ぎ型就農についても、支援措置を検討します。

イ 「農業サポーター育成事業」

消費者と生産者の交流や農業の大切さを知る体験の機会を設けるとともに、農業における労働力不足を補い、将来的な担い手の育成・確保につなぐため、岡山市が実施する「農業サポーター育成事業」に協調し、農業者との連絡調整や現地研修会場の提供等を実施します。

(3) 集落営農組織の育成と法人化の推進

現状と課題

担い手不足等により個々の農家経営のみでは地域の農地の維持管理、有効利用ができず、地域営農や集落機能の低下が懸念されています。このため、JA岡山では関係機関と連携し、機械の共同利用など、集落全体で効率的な営農を行う集落営農組織を育成してきたところであり、現在、管内の集落営農組織は79組織であり、うち法人化組織は3組織であります。しかし、農地の維持管理が危惧される地域においても、集落内での話し合いが進まず、組織化できていない集落も多いのが現状であります。



市町別集落営農組織

市 町 名	集落営農組織	うち法人
岡山市(旧瀬戸町を除く)	48	
玉野市	9	2
瀬戸内市	9	1
吉備中央町(旧賀陽町を除く)	13	
合計	79	3

(岡山県調べ)

対 策

- 集落営農組織の育成推進は、中山間地あるいは都市近郊平野部等、営農環境に大きく影響されており、集落存続等の危機意識が強く、農家のまとまりも良く、集落営農が可能な地域においては、集落ぐるみによる農業機械の共同利用組織等を育成し、生産コストの低減と経営の安定を図ることとします。また、担い手の少ない集落においては、JAなどによる広域的な農作業の受託組織を育成します。
- 都市近郊など、土地利用型農業の担い手の比較的多い地域では、これらの担い手を主体に機械の共同利用組織や農作業の受託組織などを育成します。組織化を支援するために農業機械リース事業などの活用促進、地域リーダーとなる人材の育成、パソコンによる経営管理手法の研修なども行います。

(4) 多様な(女性・高齢者等)担い手の育成確保

現状と課題

JA岡山管内の主要な農業を担う農業就業人口は約2万人ですが、その内54.4%は女性が担っており、さらに65歳以上の高齢者が64.1%を担っており、今後更にこの率は上がっていくものと見込まれます。今後とも管内の農業を、効率的・安定的な農業経営のもとで持続的に展開していくためには、先進的経営体の育成と、それらを取りまく女性、高齢者農業等の役割を十分に機能させ、調和のある発展を図っていく必要があります。

対 策

- 女性、高齢者については先進的経営や集落営農組織の補完的な労働を担うとともに、地域特産的作物、少量多品目の産地の重要な担い手として、さらに女性・高齢者の経験・能力を活かした活用の促進や地域づくりへの参加など女性、高齢者が活躍できる環境づくりを進めます。
- 女性農業者の経営管理能力の向上のための講座の充実を図るとともに、高齢農業者の能力を活かす就業支援として、高齢者に適した作物の導入や、より安全に作業が出来る技術（栽培技術、集出荷システムなど）の支援体制整備などを推進します。
- 高齢農業者の農業経営への労働力補完としてシルバー人材センターとの連携を推進するとともに、JAは地域の定年退職者等の情報を把握し、農作業受委託等への人材活用を積極的に支援します。

5 優良農地の確保と生産基盤の整備・強化

(1) 農地流動化の推進と耕作放棄地の解消推進

現状と課題

耕作放棄地（遊休農地、不作付地等）は、2005農林業センサスによると、JA岡山管内では1,927haで、2000年から852ha増加しています。これは、耕作者の高齢化や後継ぎの不在、さらに中山間地では生産性が低いこと等から耕作放棄地が急速に増加しており、今後ますます増加することが予想されます。また、管内においては相続等により不在地主の農地が増加することが見込まれるなど、耕作放棄地の増加要因になることが危惧されています。

耕作放棄地の増加は雑草の繁茂や病虫害の発生など、近隣農地への悪影響、農地の集团的利用の阻害要因になるなど、農業経営の現場では様々な問題を引き起こしているだけでなく、農地の持つ多面的機能の喪失にもつながっています。

対 策

- 耕作放棄地の防止を図るため、担い手への利用権の設定や売買の斡旋等、農地の流動化等、地域ぐるみで進める必要があります。
このため、市町や農業会議等が行う遊休農地の調査やパトロールに協力し、その実態を把握するとともに、ア 遊休農地活用の啓発や イ 体験農園としての活用 ウ 学童農園としての活用 エ 農地保有合理化法人、農業公社等の公的機関による活用 オ 農作業受委託組織による活用等を行います。



また、遊休農地の活用として、農地の大切さや環境意識の啓発のため、菜の花プロジェクトの推進や新規需要米等の生産を支援します。

ア 遊休農地活用の啓発

- 市町や農業委員会等と連携し、農地所有者に対し、農地の活用を行う意識啓発をするともに、隣接農地所有者等による耕運、除草、活用を促進します。

イ 体験農園としての活用

- 耕作放棄地の解消には、体験農園の開設も大きく役立つものと考えられるので、JA岡山では、農園を開設したい人、農作業を体験したい人が申し出た場合、両者を繋ぐ、いわば仲介の役割を果たしており、現在66農園の紹介を行っております。しかし、このような活動は市民の間には余り浸透していないことから、市民の方々に認知してもらえるようJAの広報誌、ホームページ等で広報活動を展開します。

ウ 学童農園としての活用

- 遊休農地を活用した学童農園により、小中学校の食育教育（農業体験学習等）を通じた情操教育、環境教育を推進します。

エ 農地保有合理化法人、農業公社等の公的機関による活用

- 農地保有合理化事業により、JA岡山管内全域において農地を認定農業者等の担い手へ利用集積します。
- 担い手が不足している地域では、集落営農組織、農業生産法人への活用も進めます。

オ 農作業受委託組織による活用等

- 集落営農組織、農業生産法人が行う農作業受委託等により、農用地を集積し、農作物の団地化、集団化を進め、耕作放棄地の解消に努めます。
JA岡山で行っている農作業の受委託事業を一層拡充し、農地の減少と耕作放棄地の防止に取り組みます。

(2) 水田経営所得安定対策の確立

現状と課題

米は米消費量の減少や米生産性の向上により大幅な生産過剰基調となり、1971年から本格的な生産調整が開始されました。しかし、その後も米の消費は減少し続けたため、2004年より改革の第1ステージとして、国が一律的に転作面積を配分する方式から、販売実績を基礎としてつくる数量を配分する方式に転換されました。また、第2ステージとして、2007年産から国等から提供される需給に関する情報や市場シグナルを基に、農業者・農業者団体が主体的に需給調整を行うシステムへと移行されました。さらに、2008年産の生産調整の実効性を確保する観点から政府備蓄米の積み増し（34万t）や生産調整拡大分に緊急一時金を支払う等の見直しがされました。

対策

水田農業の振興に関しては、水田経営所得安定対策（旧品目横断的経営安定対策）の導入を契機として、各作目の担い手の育成・支援に全力で取り組みます。また、「米政策改革推進対策」への対応と併せ、「地域水田農業ビジョン」に沿った産地づくり交付金の活用による生産性の高い水田農業の確立に向けた担い手リスト化と、これら担い手の育成支援に取り組みます。

6 JAの役割と活動

(1) 「出向く 営農指導」体制の強化

現状と課題

JA岡山では、広域合併によるエリアの拡大に伴い、地域の情報が捉えにくい、また、逆にJAからの情報が伝わりにくい等、組合員から“JAが遠くなった”という声を聞きます。

これに対する方策として、“出向く”ということで距離を縮めていく必要があります。

地域の農業生産の振興はJA諸事業の基であり、営農指導事業はJA全体の機能の中で今、最も求められているものです。農家組合員の農業所得の増大や安定的農業生産・農業経営を目指すとともに、安全・安心な農畜産物を提供するため、「出向く 営農指導」体制の強化が求められています。

特に広域合併が進んだ今日、農家から営農指導事業に期待されていることは、①生産者とJAの信頼関係の構築 ②農家の農業経営向上に対する技術支援 ③農畜産物の有利販売につながるマーケティング機能の強化等であります。

対 策

- 「出向く 営農指導」体制の強化のため、営農経済センターの営農経済専任渉外員、営農指導員及び担い手育成対応班員等で構成する担い手担当者チーム（TACチーム※）を編成し、農家訪問を積極的に行い、地域農業コーディネーターとしてきめ細かな営農指導と的確な情報収集に努めます。
- TACチーム員は携帯型パソコンを活用し、現場での情報収集・提供・管理を迅速・的確に行う体制を整備します。
- 営農指導の充実を図るため、新たに専門指導員を設置し、専門項目を生かした積極的な営農活動を展開するとともに、営農指導員等の資質の向上のため、指導員研修の充実を図ります。
- 営農経済センターを組合員の多くが訪れるような集会機能、相談機能、情報提供機能、経営診断、分析機能などを備えた営農生活活動の拠点として充実させます。



※ 「TAC」(タック)は Team for Agricultural Coordination (農業コーディネーター) T(とことん) A(会って) C(コミュニケーション) の略です。

(2) 生産資材の調達と供給体制の整備・充実

現状と課題

現在、肥料、農薬の流通は、JA岡山の一括管理と、JAせとうちから引き継いだ事業を当面JA事業として展開しております。予約品については、大量一括仕入により当用品よりも安くするとともに、大口農家に対しては、大量仕入のメリットを還元するために、肥料、農薬の購入量に対して奨励金制度を設けて運用しています。

さらに、農業資材店は組合員のニーズに対応し、土・日・祝日も営業することにより、組合員の利便性の向上を図っております。

対 策

- 営農指導員等との連携による地域別・作目別の栽培指針に基づく生産資材の品目・銘柄・規格の統一及び予約購買制度の徹底による有利安定供給に努めるとともに、担い手への事業対応、信頼される生産資材価格の確立に取り組みます。特に、資材の仕入については、全農仕入を基本にしつつも、品目によっては多元仕入を行うとともに、取扱ロットを拡大し、価格交渉力を強め、組合員にとって最もメリットが上がる対応を図ります。
- 配送方法については、大口農家へのメーカーからの直送を行うとともに、組合員の自己引取方式など、合理化を追求し、コスト低減を図ります。
- データ管理の合理化のために、パソコンによるデータ管理を積極的に進めます。

(3) 農作業受委託事業の強化

現状と課題

JA岡山管内の農作業受委託事業は、市街化区域を中心に、JA岡山が事業主体（窓口：各営農経済センター）となり、水稻の基幹作業を中心に取り組んでいますが、農家の高齢化や労働力不足等を背景に、要望が強くなっています。

また、吉備中央町（旧賀陽町を除く）においては、町内にある「財団法人 吉備中央農業公社」が水稻の基幹作業と土づくり作業等の受委託事業を実施しており、JAはその調整、斡旋に協力しています。さらに、瀬戸内市邑久町においては、「財団法人 瀬戸内市振興公社」が農作業の受委託事業を行っています。

高齢化や労働力不足の進行は、農家個々の営農継続の問題にとどまらず、JA管内の農地の確保・保全や耕作放棄地の解消、地域農業の維持の点からも極めて深刻な問題であります。

農家の多くが労働力不足による営農継続を問題にするとともに、今後、JAで育成強化すべき組織として農作業受委託組織への期待が高まっています。



対 策

農作業受委託事業の充実には、農家における営農の継続性の確保や農業機械等の過剰投資の防止、危険作業・重労働からの解放等、さらに、担い手の確保や優良農地の確保・保全、耕作放棄地の解消、産地の維持・拡大など、大きな役割を担っています。

このため、農作業受委託事業の取り組みを強化します。

- 水稻、麦、大豆関係：水稻の耕起、移植、播種、収穫などの部分作業を受託できる農家を育成・確保し、作業受委託の需給バランスを図るとともに、営農経済センターごとに受託農家を組織化し、全ての地区の農家の作業委託希望に対応できるよう努めていきます。なお、既に農業公社が農作業の受委託事業を行っている吉備中央町加茂川地域、瀬戸内市邑久地域では、公社の事業が円滑に進むよう連携を密にし、受委託料金の調整や農作業の斡旋等に協力していきます。
- 園芸関係：農作業サポート組織の育成と適正な運営を図ります。
- 畜産関係：畜産に携わる農家のゆとり確保のため、畜産専門農協の行うヘルパー派遣事業の充実強化に積極的に協力します。また、飼料自給率の向上のため、耕畜連携による飼料作物の作付け推進を図るべき農作業受委託組織の育成を図ります。

(4) 「食農」教育活動の展開

現状と課題

「食」の外部化・簡便化・多様化が進み、「食」を巡る環境が大きく変化したことで、生活習慣病の急増、低年齢化、食と農の乖離による食文化への関心の希薄化、さらに中国産食品の毒物混入や食品偽装表示など、多くの食に関する問題が顕在化しています。



このような中、安全・安心な農産物の提供と生産者の想いを消費者に伝えるとともに、「食べ物」＝「いのち」の大切さを実感する活動を通じて、組合員や地域住民の健全な食生活と健康づくり、さらに次世代のJAファンづくりの一環として、「食」（消費者）と「農」（生産者）の距離を縮める食農教育に取り組む必要があります。

対策

次の3つの目標を設定します。

- (1) 食文化の継承と地域に根ざした健全な食生活の実現
- (2) 地場産を中心とする国産農産物の消費拡大と食料自給率の向上
- (3) 地域農業の振興と地域の活性化

平成20年4月に策定した「JA岡山食農教育計画」に基づき、食と農の感動を発見・共有するというテーマで、生産者、消費者、地域住民等と連携し、親子料理教室や消費者と生産者交流会等を開催します。

また、学校給食用に米、野菜等の地元産農産物を供給し、給食を通じて地域農業への理解を深めます。

(5) CE等共同利用施設の運営改善

現状と課題

ア ライスセンター・カントリーエレベーター

- ・JA岡山管内の施設は18カ所、24基ですが、導入時期は、昭和40年代導入が2基、50年代が12基、60年代が3基、平成以降が7基となっており、途中改修や増設等を行っている施設もありますが、40年代、50年代導入の施設は概ね耐用年数がきており、施設の老朽化が進むとともに、更新経費や修繕経費が増大しています。



・大型共同乾燥調製施設	18カ所		
施設の種類	・カントリーエレベーター	7カ所	9基
	・ライスセンター	14カ所	15基

- ・旧JA岡山管内（旧JAせとうち除く）の施設の利用料金については、平成20年に料金体系の簡素化と組合員に対する公平な運営を図るため、利用料金の統一を図ったところであり、旧JAせとうち管内の施設についても平成21年度からは利用料金の統一を図ることとしています。
- ・現在、各施設の運営管理は、各営農経済センターを中心に行っています。

- ・施設の稼働期間、対応品種など、農家の営農と直接関わる部分については、生産者、JA等の代表者からなる各施設の運営委員会で決定しています。
- ・現在、JAが集荷している米のうち、ライスセンター、カントリーエレベーターの平成19年度の米麦総処理量は295,081 tで、今後も利用向上に努めます。

イ 集出荷施設

- ・施設の所有と管理は、多くの施設においてJAが中心となっています。運営については、各部会や生産組合が中心となっており、JAはサポートを行っています。合併に伴い、施設の集約化が徐々に進みつつあり、零細ロットの旧JA時の作物部会や生産組合が、それぞれ単独で施設を利用している場合も多く、稼働率が低くなっています。
- ・完全共選対応の共選施設は一部のみであり、集出荷施設の多くは持ち寄り共選対応の集荷場となっており、装備、検査体制に大きくばらつきがあることから、商品の品質にもばらつきがあり、JA岡山ブランドの確立が進まない要因にもなっています。
- ・施設が多数存在し、担当職員の効率的な配置が難しくなるとともに、対応業務に格差があり、販売手数料も未統一になっています。また、老朽化した施設が増加し、遊休施設や利用者不在の不稼働資産となっている施設もあります。

ウ 農産加工施設

地域の女性部を中心に農産物を用いた特産加工品の製造、販売を行うとともに、施設の有効利用及び集約化を図っていますが、未だ利用率は低いものとなっています。

施設や機器は古いものが多く、新規導入や更新が望まれています。

対 策

ア ライスセンター・カントリーエレベーター

(利用推進)

- 施設利用の広報活動の強化、集落営農・作業受委託組織等との連携を進めます。また、各施設の運営委員会、種子・育苗センターなどを通じた売れる米麦品種の作付け推進、品質管理機能の強化などにより、利用促進を図ります。
- 施設利用エリアの見直しなど、農家が効率的な利用が出来るような体制を検討します。

(施設整備)

- 中期的な既存施設の整備方向として、計画的な施設改修計画を作成します。

イ 集出荷施設

- 部会・生産組合などの組織再編と連動して、施設の集約・更新を進めます。その際には、各施設は複数作物対応として稼働率を高めるとともに、予冷施設や輸送体系などの改善を合わせて行い、効率的な施設運営を行います。
- 施設機能については、完全共選対応施設には、機械選果体制の整備やパート作業員の確保を図ります。又、持ち寄り共選対応施設には、大型ロットに対応可能な装備、検査体制の整備などを行い、共選、共販のメリットが十分活かされるよう施設機能を拡充します。

ウ 農産加工施設

- 女性部を中心として、計画的な機器の導入や更新を進めるとともに、地域農産物を活用した安全・安心な農産加工特産品の開発・育成に取り組み、施設の有効利用に努めます。

(6) 生活支援事業の整備・充実

現状と課題

農家の生活支援は、家族経営を主体として営まれている農業経営や生活経営の負担を少しでも軽減し、農業経営の維持及び家族の健康管理や女性のライフステージの確立を図るために大変重要です。

JA管内の農業就業人口の約55%を女性が占めており、女性農業者は生産の重要な担い手であるとともに家事・育児・高齢者介護・地域活動などに大きな役割を果たしています。

また、農業就業人口に占める65歳以上の高齢者の割合は64%であり、高齢者や女性が地域農業の振興や地域の活性化に果たす役割は極めて大きくなっていると言えます。

現在、JA岡山では、高齢者福祉対策の一環として助け合い組織「かがやき」活動や「いのち」「自立」「共生」「連携」のある地域づくり活動に積極的に取り組んでいるところです。

このような中、農家の高齢化や若い担い手の不足は、女性にとって農作業や高齢者介護などがますます労働負担となってきており、ホームヘルプサービスの提供や地域の遊休地や遊休施設を活用した「地域の茶の間」(仮称)、宅老所、ミニデイサービスなどが必要であります。

対 策

生活支援事業を整備、充実するためには、組合員のみならず、住み慣れた地域の人達の理解と支援を得ながら高齢者福祉活動は「在宅福祉」を合い言葉に展開することが基本です。このため、JA岡山においては、以下のとおり取り組みます。

- 高齢者が生涯現役で生きいき生活できるように健康づくり、生きがいづくり、仲間づくり等を目的とした“ミニデイサービス”などに取り組みます。
- ヘルパーステーションを拠点に、地域の公民館・集会所・遊休施設等を活用し、高齢者の孤独解消や子育て中の母親、子供、地域住民の世代を超えた交流を支援します。
- 要介護高齢者にJA岡山ホームヘルプサービスを提供し、在宅での生活支援を行います。
- 生活上の様々な不便を生じている高齢者の生活を支援し、安心して暮らすことのできる地域づくりを目指し、家事援助などのサービスを実施します。



第2部

宮農経済センター別 宮農振興計画



ステップ 1 (出向く営農指導)



チームワークで活動!

- 営農経済専任渉外の巡回が少ない。
- 営農指導をもっとしてほしい。
- いろいろな情報を提供してほしい。
- 意見交換の場がほしい。
- 本所とセンターの連携をもっとすべき。



大きくなったJA岡山
(岡山県面積の15.7%)

現状は… 合併して広くなったJA岡山

総面積はなんと1,118平方キロメートル。

今、JA岡山に足りないのは「コミュニケーション」ではないでしょうか。
職員・組合員がもっと、あちこちで「こうしよう」「ああしよう」と語ること、集まること、そしてたくさんの「やってみよう」になるJA岡山へ。
もっと、結果が明確に伝わる・伝えられるJA岡山へ。
まずはたくさんの☆ひと☆とのコミュニケーションからスタートします。

将来は… つよく・かしこく・あたたかいJA岡山へ。

そのために、こんなコミュニケーションを。

- 定期的に座談会を開催し、身近な営農経済センターを目指します。
- 産地間交流・担い手・営農指導員等の情報交換を進めます。
- 先進産地の視察・交流や先進事例の研究を進めていきます。
- 本所内、本所と各センター、センター間の連携強化を図ります。
- 発表会等を開催し、自己研鑽をして営農指導の質を高めます。
- 問題意識やアピール力を養うための営農リーダー討論会をします。
- 事務の効率化・簡素化を図り、出向くための時間を確保します。
- 営農と信用部門の業務密着度を高め、JAの安心・信頼を確保します。

ステップ 2 (営農振興の拠点づくり)



もっと近くに。もっと前へ。 ヒットエンドランの営農経済センター

北から南から。東から西まで。例えば、稲作をひとつとっても、田植えは、4月下旬（北部）から始まり、6月下旬（南部）まで、稲刈りは、8月下旬（北部）から11月上旬までとってもワイドです。この間、田植え前線・稲刈り前線に合わせて各センターが協力し合える営農経済センターを目指し、営農部門を盛り上げていきます。

JAがピッチャー役で提案したり、時にはキャッチャーのようにがっちり受けとめたり、素振りをしたりと…今こそ「ヒット」が打てる16の営農経済センターを目指します。

- 監督である営農経済センター長には“夢”と営農経済“センタービジョン”を語ってもらいます。
- 営農経済センター長は“夢”を実現するための統括をします。
- ピッチャーには次のエースを優先的に育成・登板させます。
 - ① 究極！ 農家所得向上のための販売ルート・戦略の確立。
 - ② 要望No.1！ 基幹作物等の営農指導。
 - ③ 高騰ショック！ 土壌分析等に基づく施肥設計の実現。
 - ④ 食の安全！ 農薬知識と適切な指導。
 - ⑤ アイデア時代！ おおくの情報を整理・検討して提案。
(高齢化対策、耕作放棄地、ブランド化、集落営農などなど)
- キャッチャーには…
 - ① 「出向く」ことにたくさんの意見があった平成20年度。担当者が事情で出向けない場合は、他のエリア担当者がカバーする、本所の職員が同行してローラー訪問を行うなどで対応します。
 - ② 組合員の声をセンター、支所、本所に届けます。
 - ③ 営農指導員の位置づけを明確にして活動をします。
 - ④ 営農経済センターと支所・事業所・本所等とのキャッチボールをします。

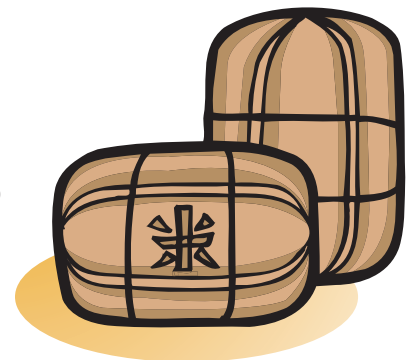
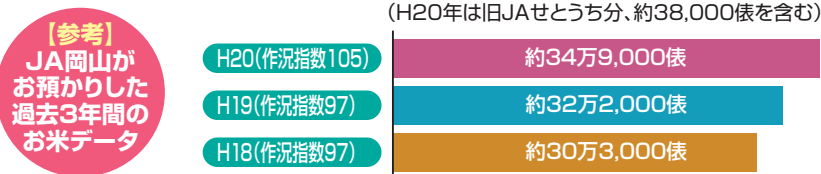
ステップ 3 (農家所得の向上のために)

JAのバロメーター

販売高150億円を目指します。



「お米全量集荷!平成21年度は40万俵、平成25年度には50万俵のJA岡山こめ俵積上げ運動(仮称)」を展開します。



生産部会の活性化を図り、生産意欲を高め、販売高の維持・向上を!

JA岡山「はなやか」ブランドとして市場出荷もできる体制を構築して販売高の向上を図ります。

- 「お米は全量JA岡山に」を合言葉に使命感を持って日々の渉外活動を大切にします。
- 営農経済専任渉外の巡回対応方法とマニュアルを作成して渉外サービスの向上に努めます。
- 専門営農指導員・営農経済専任渉外・営農指導員・担い手担当と組合員が一緒に語る場を設けます。
- 栽培講習会の開催内容を従来の講習形式から参加型に変えていきます。
- お預かりしたお米や作物を少しでも高く、早く、販売するように努めます。
- 精算事務の体制を見直し、特にお米の精算事務を迅速にすることで信頼確保に努めます。

1 中部第1 営農経済センター

センター販売高：3億円



区域 本所、芳田支所(芳田・青江地区)、今支所、白石支所、大野支所、福浜支所(福浜・浦安地区)

“消費者のより近くへ！”

～やっぱり国産! 県産! 組合員さんの農産物を届けるために～



(1) 現状と課題

現在の管内農業は、高齢化が進み、遊休地が拡大しています。水稻については、近年の異常気象等で品質が低下しており、代替可能な中生品種の導入が求められています。また、水田転作の主体となる麦作についても近年作付けが急減しています。

また、園芸品目については、流通の変化に伴い再生産価格になっていない状況にあり、新たな販売戦略が必要になっています。

今後、作った農作物を有利に販売する・求められる農産物の生産のために消費者のニーズを的確に把握して営農振興を図ることが重要であると考えます。



(2) 目標と方策

ア. 街の中心だからこそ、消費者の近くへ！

- 地元の野菜をPRし、安心・新鮮・手ごろな価格で食材の安定供給に努めます。
- 出向く営農指導に、プラス「消費者の声」をお届けし、新規適正作物を提案します。
- 作付け年間スケジュールを作成し、生産者・消費者が共有するための暦を作ります。
- 自家菜園から直売所出荷用の作付けを進めます。
- 農産物直売所のはなやか会員を増やし、消費者との交流の場を増やします。
- 本所にも消費者・生産者・現場の声を積極的に伝え提案をします。

イ. 土づくりと提案型の施肥指導を！

- 土壌分析を行い、地区ごとの特性を把握した上で、低コスト肥料の研究、試験区を設置して、説得力のある提案型の施肥指導を推進していきます。
- 「耕畜連携」の農業を推進していきます。
本所と連携し、管内の畜産農家から提供される堆肥の状況を把握して、堆肥流通システムを構築していきます。



ウ. 米麦の品質向上と作業効率化のための優先的な取組み!

- 温暖化に対応した優良品種の研究と情報をオープンにして選定に努めます。
- 地域に応じた作付けの集団化を進め、作業の効率化を進めます。
- 米麦・大豆の販路を拡大して、生産者にとって魅力ある販売方法を提案し、JAへの集荷率の向上を図ります。

エ. 園芸部会の活性化!

- 施設ナス部会については、「エコファーマー」として栽培技術等の確立・定着させることで、有利販売を目指します。
- レタスについては、出荷コストも含めたコスト低減を検討し、再生産の意欲を高めます。
- 施設ナス、レタスは管内以外の営農経済センターからも出荷されています。地域の枠を越え、スケールメリットが生かせるように本所と連携して販売戦略を進めます。
- 既存の野菜以外の品目についても市場ニーズを検討しながら導入していきます。

中部第1 営農経済センターの発展の方向

項 目		現状	H23	H25
認定農業者(人)		21	25	30
二条大麦	栽培面積(ha)	52.5	60	80
	生産者数(人)	15	17	20
	出荷数量(t)	241.7	276	368
千両なす	栽培面積(a)	89	90	90
	生産者数(人)	5	5	5
	出荷数量(kg)	130,636	131,000	131,000
	販売高(千円)	43,741	44,000	45,000
レタス	栽培面積(ha)	1.9	2.2	2.5
	生産者数(人)	4	5	6
	出荷数量(kg)	50,000	57,000	65,000
	販売高(千円)	9,935	11,400	13,000
とうもろこし	栽培面積(ha)	1.0	1.2	1.5
	生産者数(人)	4	5	6
	出荷数量(kg)	2,000	2,100	2,300
	販売高(千円)	2,202	2,400	2,600

5年後にはこんな農業が展開されています。

- 管内は岡山市中心部に近いベッドタウン的な環境にあり、団塊世代の方が多くと予想されます。もともと田畑を持たれているケースが多いので、その方を対象に家庭菜園規模の農業から、農産物直売所への出荷を目指す農家が増えています。結果的に農業を主体に地域が元気になっています。
- 「耕畜連携」等の環境に配慮した農産物の出荷を目指し、「エコ」を「価値」として付加価値をつけた農業生産体制が整っています。

2 中部第2 営農経済センター

センター販売高：9億1千万円



区域 牧石支所(牧石・牧山・牟佐地区)、旭東支所、幡多支所、財田支所、津島支所、高島支所

“ 地元の I LOVE 農産物をアピールしよう! ”



(1) 現状と課題

当管内は岡山市の中でも野菜・果樹の伝統産地を抱えるセンターです。管内には若い後継者が育っている地区と農業従事者の高齢化が深刻であったり、遊休地が増えたりしている地区と事情はさまざまです。

水稲作については、自己完結型の経営が大部分を占めていますが、一部については、受託作業が進んでいる地区もあり、今後は利用増進・保有合理化事業の導入により、大型農家への農地集積が必要と思われまます。

園芸作については、野菜・果樹・花きと多種多様な品目がありますが、今後は、生産資材の高騰する中で露地又は大トンネル栽培までの品目とし、生産資材経費が極力かからない品目の栽培をすすめ、現在主力となっている基幹作物の栽培拡大に努めていく必要があります。

果樹については現在の主力品種の短所を補う品種の研究と導入、廃園対策を部会・地域・行政・J Aが一体となって進める体制が必要です。

(2) 目標と方策

ア. I LOVE 農産物を作り続けるために、生産コストの削減は大切!

- 生産部会と共同で栽培技術や生産資材関係の選定をします。
- 出荷市場と情報交換を行いながら、出荷資材や荷姿の研究を行い、コスト削減を行います。
- 品目ごとの栽培指針および肥料の使用銘柄を見直します。
- 栽培技術の共有化などを行い、品目ごとの必要窒素量などを調べて情報を公開し、低コスト肥料の栽培を確立します。

イ. I LOVE 農産物をアピールするために情報収集で有利販売!

- 今まで以上に市場と連携し、足を運び、販売状況や他産地の状況把握に努め、生産者に有利な情報を収集、提供して有利販売を目指します。
- 農産物直売所と連携して売れている品目や値段などを生産者に提供します。
- 市場や直売所だけでなく、流通の多様化を目指し、農家所得の向上を目指します。
- 若い後継者の発想と経験豊かな知恵で農業所得向上を目指します。
- 他産地の情報、ユニークな試みなどを集め、アイデアを皆で出し合います。

ウ. 高齢者対策、新規生産者へのアプローチ!

- 農産物直売所や地元量販店に出荷するグループを組織化し、農薬の安全な利用方法や栽培講習会を実施して安心・安全な農産物生産を進めていきます。
- 高齢者対策として、一部の農作業（大根の収穫作業・柿園の手入れなど）を手助けすることで作付面積を維持することができます。センターは、本所と連携した作業チームなどの組織化や事業としての請負を検討します。また、行政などの公的機関などと連携して農業ボランティア隊や農業応援団など広範囲で高齢化に対応した取組みを進めます。
- 岡山県・岡山市の就農モデル地区としてPRしてもらえるように産地形成を図ります。

エ. 総合的な活性化へのアプローチ!

- 部会組織の充実と活性化を図るには、販売面からのアプローチと栽培・生産面からのアプローチをリンクさせて営農指導を進めます。
- 地産地消活動と連動して、多彩な【I LOVE 農産物】をアピールしていきます。具体的には、JA 岡山農産物直売所などで管内農産物の試食宣伝を行い、ブランド力を強化して、管内農産物の認知度アップと購買意欲の向上を図ります。
- 最近開発しました「沢田柿の葉茶」を販売し、新ブランドを構築して、所得の向上を図ります。
- 販売チャンネルの多角化を研究し、インターネットや加工業者との商談を利用した販売システムの構築を図ります。
- 市街地に近いという立地条件、市場流通が盛んな地域性を利用し、家庭菜園の野菜・果実・花き等をJA岡山農産物直売所へ出荷できるように流通システムの改革に取り組みます。

中部第2 営農経済センターの発展方向

項 目		現状	H23	H25
認定農業者(人)		40	45	50
青ねぎ	栽培面積(ha)	20	20.5	21
	生産者数(人)	26	26	26
	出荷数量(kg)	590,345	610,000	620,000
	販売高(千円)	331,008	342,000	347,000
黄ニラ	栽培面積(ha)	10	10.5	11
	生産者数(人)	34	34	34
	出荷数量(kg)	93,041	95,000	97,000
	販売高(千円)	188,738	196,000	200,000
香菜	栽培面積(ha)	4	5	6
	生産者数(人)	13	15	18
	出荷数量(kg)	27,151	32,000	37,000
	販売高(千円)	43,954	51,000	60,000
だいこん	栽培面積(ha)	8.5	8.0	7.5
	生産者数(人)	13	12	10
	出荷数量(kg)	52,509	52,000	51,000
	販売高(千円)	44,590	44,000	43,000
夏秋なす	栽培面積(ha)	1.4	1.4	1.4
	生産者数(人)	11	11	11
	出荷数量(kg)	97,063	98,000	99,000
	販売高(千円)	28,415	29,000	30,000

項	目	現状	H23	H25
パセリ	栽培面積(ha)	1	1	1
	生産者数(人)	13	13	13
	出荷数量(kg)	13,392	14,000	15,000
	販売高(千円)	23,355	24,000	25,000
ほうれんそう	栽培面積(ha)	4	4.1	4.2
	生産者数(人)	17	17	17
	出荷数量(kg)	54,000	55,000	56,000
	販売高(千円)	22,275	23,000	24,000
にんじん	栽培面積(ha)	4	4	4
	生産者数(人)	8	8	8
	出荷数量(kg)	14,539	14,000	14,000
	販売高(千円)	10,944	11,000	11,000
小松菜	栽培面積(ha)	0.2	0.2	0.2
	生産者数(人)	3	3	3
	出荷数量(kg)	3,204	3,200	3,200
	販売高(千円)	6,249	7,000	7,000
セリ	栽培面積(ha)	0.4	0.4	0.4
	生産者数(人)	4	4	4
	出荷数量(kg)	6,549	6,600	6,700
	販売高(千円)	6,152	6,100	6,200
白ねぎ	栽培面積(ha)	0.3	0.3	0.3
	生産者数(人)	3	3	3
	出荷数量(kg)	10,359	10,500	11,000
	販売高(千円)	2,351	2,400	2,500
ピオーネ	栽培面積(ha)	1.8	1.8	1.8
	生産者数(人)	23	23	23
	出荷数量(kg)	23,278	24,000	25,000
	販売高(千円)	20,235	21,000	22,000
かき	栽培面積(ha)	10.0	10.0	10.0
	生産者数(人)	40	40	40
	出荷数量(kg)	602,028	602,000	603,000
	販売高(千円)	12,930	13,000	13,000
米 集 荷 数 量 (俵)		4,879	5,000	5,000
産 直 会 員 数 (人)		25	30	35

5年後にはこんな農業が展開されています。

- 基幹農産物の一層の規模拡大を図るとともに、市場流通を基本に置いた上で、JA独自の販路を設け、安心して出荷できる環境が整っています。
- コミュニケーションを図ることでI LOVE 農産物のアピール力が高まっています。
- 販路拡大のためにたくさんのアイデアと商品開発が検討されています。
- 低コスト化や環境保全に対する意識が高まっています。
- 少量でもみんなが集まれば、顔が見える農産物出荷者の組織化が進んでいます。
- 中部第2営農経済センターに米麦・野菜・果樹の経験豊富な営農指導員が育成されています。



3 中部第3 営農経済センター

センター販売高：2億2千万円



区域 富山支所(富山・操陽地区)、操南支所(三幡・沖田・平井地区)



“みんなで一緒に元気な “たね”をまこう!”

(1) 現状と課題

管内は海拔0メートル地帯の干拓地であり、水稻の作付けが多く穀倉地帯であります。しかしながら、水稻は地域農業者の高齢化及び後継者不足により地域農業の衰退が懸念されてきています。当センターは、桑野ライスセンターに近いことからライスセンター利用率が高く、作業効率化を最大限アピールできる環境下にあります。今後、小規模な農家や高齢化の農家を支援する為に集落営農をどのように推進していくかが課題となっています。

レタスは、規模が大きい生産者が多く、勢いのある品目であるため、水稻の裏作品目として作付け拡大(産地拡大)を進めていく必要があります。

また、軟弱野菜として水菜の栽培が行なわれています。高齢化が進む管内においては、栽培が比較的容易で軽量品目であるので水稻からの転換品目として有望であります。

総括して、高齢化・担い手不足、農産物価格の低迷・農業資材の高騰により、先行きが不安定であります。安全・安心な農産物の供給や低コスト化生産を推進し、農作業受託農家を確保することにより、安心できる農業経営戦略を図ることが重要な課題となっています。



(2) 目標と方策

ア. 地域を元気にする“たね”をまく!

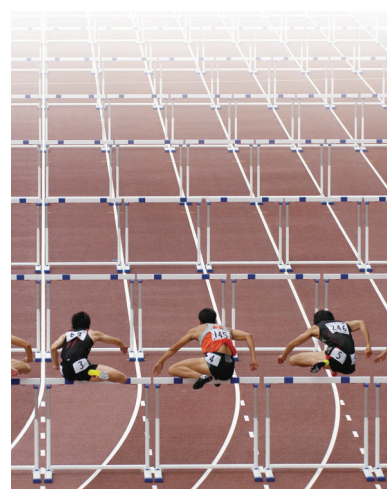
- レタス栽培の維持・活性化に努めます。
具体的には、水稻の裏作として栽培され、技術的にも確立されていることや、新規生産者に推進しやすい品目であることから、冬期において作付けを行なわない圃場にレタス栽培の作付け指導と栽培講習会を開催して普及に努めます。
- 現状の基幹作物をベースに、目玉になる産地を目指します。
- 新規栽培者の推進により、既存品目のレタスについては規模面積の拡大を図り、有利販売に努めます。また、高齢化や労力不足で規模拡大が難しい生産者に対しては、農産物直売所への出荷を推進します。
- 消費者及び加工業者のニーズに合った、将来有望な品種の普及により、出荷量の確保を図り経営の安定化に努めます。

イ.人を元気にする“たね”をまく！

- 小規模な農家や高齢化の農家に対し、農作業における部分作業の斡旋をします。
- 大規模農家を中心に、基幹作業をベースに、効率的な水田農業経営を図ります。
- 農地の賃貸借や農作業の受委託により、農地を有効に活用し、耕作放棄地の解消に努めます。
- 中部エリアに展開している、レタス部会各支部との連帯感を強めるとともに、中部エリア以外のレタス生産組織との情報交換の場を設け、部会組織の活性化を図ります。
- 食農教育の充実や地産地消の強化を図るため、新鮮・安全・安心な地元産農産物の学校給食への供給を考えることで、生産者に希望と元気を与えます。
- 出向く営農指導の基本理念に基づき、地道に農家訪問を重ね、コミュニケーションを取りながら、農家と地域が元気になる、営農振興になる渉外活動を展開します。

◆中部第3営農経済センターの出向く基本理念

- ①地域農業の担い手を訪問してご意見・ご要望を伺います。
- ②地域農業の担い手の経営に役立つ各種情報をお届けします。
- ③地域農業の担い手の意見を持ち帰りJAの業務改善につなげます。



中部第3 営農経済センターの発展の方向

項 目		現状	H23	H25
レタス	栽培面積(ha)	2	3	4
	生産者数(人)	12	13	15
	出荷数量(kg)	87,000	90,000	120,000
	販売高(千円)	8,908	15,000	20,000
みず菜	栽培面積(ha)	0.2	0.6	0.8
	生産者数(人)	1	3	5
	出荷数量(kg)	6,000	18,000	24,000
	販売高(千円)	1,999	6,000	8,000
米 集 荷 数 量 (俵)		18,528.5	20,000	20,000

5年後にはこんな農業が展開されています。

- 集落営農の取り組みについて話し合いが進んでいます。
- 高齢化により、生産者の減少は否めず水稻の栽培面積は減少すると予想しますが、労力をあまり必要としない軟弱野菜を中心とした軽量品目など少量多品目による農産物を、農産物直売所へ出荷する生産者が増えています。
- レタスの作付けが着実に増え農業所得向上に貢献をしています。
- 職員が自ら勉強して、率先して農家のもとへ向かっています。

4 中部第4 営農経済センター

センター販売高：2億7千万円



区域 甲浦支所(甲浦・小串地区)、東兎支所(胸上・銚立地区)

“ 気候も人も温暖な兎島半島から 微笑みのある農業を ”

(1) 現状と課題

当エリアは、岡山市南部及び玉野市北部の兎島半島に位置し、瀬戸内海に面していることから比較的気候は温暖であります。栽培品目として、重量野菜では、キャベツ、たまねぎなどが、軽量野菜では、レタス、小松菜、サラダ水菜、水菜、しら菜、人参菜、青ねぎ、えんどうなどがあげられます。花きはスイートピー、菊栽培がなされており、園芸品目が主体の地域であります。重量品目や豆類は比較的小規模な経営であり、その他の品目は大規模な経営である場合が多いのが現状です。

生産者部会は品目ごとに組織化されており、販売面ではほぼ100%市場出荷であります。

しかし、近年の青果物流通の変化（市場外流通の増加による市場機能低下）により、以前のような高単価での販売が期待できず生産意欲が湧く販売となっていないのが現状です。このことに加え、生産者の高齢化も進み、市場出荷するだけの経営規模を維持することが難しく離農するケースも見受けられます。



(2) 目標と方策

ア. 基幹品目の生産部会に微笑んでもらえる活動を!

- 生産部会員ひとり一人に対し声をかけ、積極的に関わることで親密感を深め、互いに微笑みのある関係づくりを行ないます。
- 本所と連携して、中部エリア内に展開されているレタス部会各支部との連帯感を強め、中部エリア外のレタス生産部会との人的交流、意見交換・情報交換を行い、生産意欲のマンネリ化を解消します。
- 市場での販売状況や今後の販売予想、競合産地の出荷状況などの情報を積極的に入手し、生産者へ伝えます。

イ.少しでも長く微笑んで営農と畜産が出来る仕組みづくり！

- 生産者の高齢化により、市場集荷するだけの出荷量が維持出来ず、やむを得ず生産を断念する生産者は多い認識でありましたが、営農振興計画座談会の場において、営農意欲は衰えていないという意見は数多くありました。そこで、単品目大口出荷である市場出荷から、多品目少量出荷である農産物直売所へのお荷へ視点を換え、たとえ高齢者でも楽しんで営農が行なえるように、農産物直売所出荷組織を作り会員を増やします。
- 農産物直売所への輸送体制の仕組みをつくり、生産者がつくことに専念できる体制を構築します。
- 補助事業、価格維持制度等を活用し、経営の安定と発展に努めます。

ウ.何か“ワクワク”するおもしろい営農を！

- 本所や市場から「こんな品目が売れるよ～」とか「この時期にこの品目が足りなくて困っているんよ…」といった情報を仕入れ、行ける！と確信できる品目を積極的に推進し、生産者に楽しみを与えられる農産物の栽培を目指します。
- 青果物流通の変化を研究し、加工品用の需要が高まってきていることを考慮し、思い切った選別作業や出荷作業の簡略化をはかり、生産者所得の向上を図ります。
- 当地区の水稲は土壌条件が良く水もきれいな圃場が多く、昔から食味にも定評があります。また、「番田芋」「田井地柿」など、今でこそ生産量は減った幻の農産物があります。これら希少価値のある農産物の復活を図るとともに販売方法を研究して、付加価値を付けた販売を行ないます。



中部第4 営農経済センターの発展方向

項 目		現状	H23	H25
えんどう(豆類)	栽培面積(ha)	5.0	5.6	6.0
	生産者数(人)	80	90	100
	出荷数量(kg)	30,000	34,000	38,000
	販売高(千円)	17,866	20,000	22,000
青ねぎ	栽培面積(ha)	0.8	1.0	1.3
	生産者数(人)	8	10	12
	出荷数量(kg)	28,000	35,000	42,000
	販売高(千円)	8,246	10,000	13,000
たまねぎ	栽培面積(ha)	5	5	5
	生産者数(人)	44	44	44
	出荷数量(kg)	46,000	46,000	46,000
	販売高(千円)	3,685	4,000	4,000

項	目	現状	H23	H25
キャベツ	栽培面積(ha)	5	5	5
	生産者数(人)	22	22	22
	出荷数量(kg)	250,000	250,000	250,000
	販売高(千円)	20,207	21,000	21,000
レタス	栽培面積(ha)	5.0	5.2	5.3
	生産者数(人)	11	12	13
	出荷数量(kg)	152,000	153,000	155,000
	販売高(千円)	27,350	30,000	33,000
軟弱野菜	栽培面積(ha)	4	4.2	4.4
	生産者数(人)	9	12	15
	出荷数量(kg)	110,000	120,000	130,000
	販売高(千円)	36,608	38,000	40,000
ユーカリ	栽培面積(ha)	2.2	2.2	2.2
	生産者数(人)	5	5	5
	出荷数量(本)	12,000	12,000	12,000
	販売高(千円)	1,356	1,400	1,400
スイートピー	栽培面積(ha)	0.6	0.8	1.0
	生産者数(人)	7	10	13
	出荷数量(本)	1,200,000	1,300,000	1,500,000
	販売高(千円)	35,000	40,000	50,000
きく	栽培面積(ha)	0.6	0.6	0.6
	生産者数(人)	3	3	3
	出荷数量(本)	259,000	260,000	270,000
	販売高(千円)	11,370	12,000	13,000
米集荷数量(俵)		4,411.5	4,500	4,500

5年後にはこんな農業が展開されます。

- 加工需要など業務需要の多い品目の一つであるレタスや裏作として栽培されている青ねぎの作付面積を拡大し、需要量に応えられるだけの出荷体制が図られています。
- 高齢化が進んでいる地区でありながら、高齢の人でも楽しみながら軟弱野菜を主にした少量多品目での生産を行い農産物直売所などで販売することで少しでも長く、営農活動が行えるようになっていきます。
- 今まで野菜を栽培していた生産者が新規にスイートピーなど花きの栽培を行ったり、花き生産者が野菜栽培を行ったりして、生産者同士の交流が活発になっています。
- 農産物直売所などJAが主体になって販売する出荷の割合が増えています。それに伴い、JA自らが販売戦略を提案できるようになり、JAは責任のある販売、生産者にとっては生きた営農情報を聞くことで一層の生産意欲向上につながっています。

5 東部第1 営農経済センター

センター販売高：8億5千万円



区域 西大寺支所(西大寺・雄神地区)、可知支所(可知・古都地区)、上南支所(津田・光政・九幡・金田地区)

“はだか祭りの活気を 農業につなげよう!”

(1) 現状と課題

近年、わが産地では高齢化と農地の荒廃が進んでいます。ぶどう・なし・いちご部会を中心に担い手の育成と新規就農者を着実に定着させるには、他の産地にはない三大奇祭である「はだか祭り」の情熱をもっと活かす必要があると考えます。祈願米「岡山ひのひかり物語」「わっしょい会陽米」に続く、産地の「こだわり」と「情熱」を農作物にプラス付加価値として地域に、全国にアピールしていく必要があります。その結果、農業所得を確保して、次世代育成と農地荒廃を防ぐことが求められています。

また、水田営農対策には、農業生産法人（グリーンファーム）を中心に小麦作の推進と低コスト農業の推進が大切ではないかと考えます。



(2) 目標と方策

ア. 活気を産地に!

- 先読みした提案・段取りと営農経済専任渉外による気配り活動を徹底します。
- 基幹作物に関する勉強会を定期的に行い、「出向く営農指導」に活かします。
- 定期的に会合を設け、産地の要望を細かく把握し、センター運営や営農指導に反映させます。
- 部会・行政と連携して就農者を着実に増やすための活動をします。

イ. 活気をぶどうに!

- ピオーネ等の主力品種として高品質を維持するために、栽培技術の高位平準化を最優先に取組みます。
- 着色優良樹の緑枝接ぎ等を進め、優良系統の増殖を図り、栽培環境を確立します。
- ピオーネの着色不良圃場やぶどうの裂果・脱粒には、次世代フルーツであるオーロラブラックの新改植を進め、産地形成・農業所得の向上を目指します。
- 青系高級ぶどうの優良品種の研究、導入を進めます。
- 消費者志向に合った品質向上と簡易被覆栽培によるコスト低減を図ります。

ウ.活気を梨に!

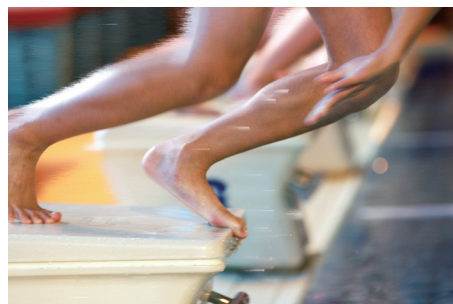
- 愛宕・新高は冬を代表する果物。サイズや食味を全面に販売推進を進めます。
地元消費・地元発送を着実にして販売先の拡充を目指します。
将来的にJ A岡山のインターネット販売で全国販売を進めます。
- 珍果・鴨梨(ヤーリー梨)を消費者に定着させます。
鴨梨は「めずらしさ!香・形・味」を全面に出し販売先の推進に努めます。

エ.活気をいちごに!

- おかやまいちごとして、補助事業等活用し、はればれプラント(高設栽培)の普及拡大を図り、土耕栽培から高設栽培に切り替えて後継者の育成拡大をします。
- 地元市場でのブランドを確立し、県外市場にも有利販売体系の構築を図ります。

オ.環境に合った水稻・麦の優良品種の導入を!

- 温暖化による栽培環境の悪化のため、ヒノヒカリの代替品種として、産地適応品種の導入により、品質向上と減肥料栽培による環境にやさしい栽培を進めます。
- 登熟の早い麦品種の導入により収穫作業の前進化を図るとともに、収量及び品質向上により所得の向上を目指します。



東部第1営農経済センターの発展方向

項 目		現状	H23	H25
ピオーネ	栽培面積 (ha)	26.8	25	25
	生産者数 (人)	168	168	168
	販売高 (千円)	191,141	200,000	200,000
藤 稔	栽培面積 (ha)	5	3	3
	生産者数 (人)	168	168	168
	販売高 (千円)	5,121	4,000	4,000
オーロラブラック	栽培面積 (ha)	1	5	10
	生産者数 (人)	168	168	168
	販売高 (千円)	1,292	7,000	15,000
愛 宕	栽培面積 (ha)	10	10	10
	生産者数 (人)	24	24	24
	販売高 (千円)	47,342	50,000	50,000
新 高	栽培面積 (ha)	3	3	3
	生産者数 (人)	24	24	24
	販売高 (千円)	11,765	12,000	12,000

項	目	現状	H23	H25
鴨梨 (ヤーリー)	栽培面積 (ha)	2	2	2
	生産者数 (人)	24	24	24
	販売高 (千円)	20,327	21,000	21,000
いちご	栽培面積 (ha)	2.1	2.1	3.1
	生産者数 (人)	20	22	25
	販売高 (千円)	73,641	85,000	110,000
シラサギ小麦	栽培面積 (ha)	100	84	54
	生産者数 (人)	85	80	80
ふくほのか	栽培面積 (ha)	8	20	50
	生産者数 (人)	4	10	20
	販売高 (千円)	1,564	7,500	18,800

つかもう 宝木

5年後にはこんな農業が展開されています。

- 定期的にセンターと生産者・消費者の会合を設けます。
- 職員が提案するために、日々、勉強や研究を重ねます。
- 部会、センターが一丸となって産地の維持・形成を図ります。
- アイデア商品開発と販路拡大が進んでいます。
- 全国各地に、「はだか祭り」の里として、企画商品の開発と販売推進を行います。
- お米の品質向上と安全安心な特産物振興で JA 岡山ブランドによる販売を基に水田農業経営の安定が図られています。
- 低コスト栽培が成り立つ農業が展開されています。
- 「会陽の里米」として販売拡大が進み、生産安定が確保されています。
- 温暖化等に適合した新品種の作付けが進み、良質な米麦が確保されています。



6 東部第2 営農経済センター

センター販売高：6億7千万円



区域 豊支所、山南支所(太伯・幸島・朝日・大宮地区)

“規模拡大ばかりが農(能)じゃない”

～定年のない”ずっとやれる農業を!”～

(1) 現状と課題

吉井川河口部左岸に位置し、米麦主体の産地ではありますが、白菜・キャベツなど重量野菜が伝統的に栽培され産地を形成しています。また、桃・ぶどうなど果樹の栽培や酪農が営まれるなど多様な農業が展開されています。

北部区域では開発により農地が減少し、南部区域では高齢化による農業従事者の減少が丘陵地における耕作放棄地の増加に拍車をかけています。

県南の水田地帯ではありますが、経営規模が比較的小さく農業収入 50 万円以下の小規模農家の割合が高く、また、兼業農家の比率が高くなっています。

米麦では、大型農家への土地集積や担い手の確保に対し、限界が見えつつあります。

野菜など園芸作物では、新規就農者が見込めず、高齢化による規模縮小や離農により生産量が減少し、市場流通における有利販売が困難になりつつあります。

(2) 目標と方策

専業農家を軸に第1・2種兼業農家の活性化や定年帰農を支援します。

ア. 米麦については…

- 大型農家への、積極的な支援や情報交換を行います。
- 小麦生産組合と協力しながら、定年帰農などによる農家後継者を育成し、農家戸数の維持・継続を図ります。
- 米については、ヒノヒカリなど中生種、小麦についてはシラサギに替わる優良・有望品種の導入について、関係機関と協議しながら進めます。
- 減肥(低コスト)栽培の普及・拡大に取り組めます。
- 堆肥の有効利用に取り組めます。



イ. 野菜など園芸作物については…
直売所を通じた農家所得の向上!

- 直売所会員を核に小規模であっても軽量野菜の生産者の育成と組織化を図り、販売課と連携のもと、直売所やインショップなど市場流通に依存しない販売体制を確立し、農家の副収入増加を図ります。
- 小規模栽培を推進し、耕作放棄地の解消に努めます。



園芸生産部会と共に歩む…

はくさい・キャベツ・かぼちゃなど…【西大寺野菜部会など】

- 重量野菜の老舗産地としての再構築を図ります。
- 品目が同様な東部第4営農経済センター（旧せとうち）管内生産者（部会）との交流を通じ、活性化を図ります。
- フェロモン剤・防蛾灯利用などによる減農薬栽培（省力化・低コスト）の普及・拡大を図ります。
- 効果的な病害虫対策の確立を図ります。
- 実需者の要望に応え、生産者の負担の少ない出荷形態を構築します。

レタスなど葉菜類…【西大寺レタス部会など】

- 新規部会員の獲得により、活性化を図ります。
- 他産地と差別化できる栽培法を部会内で構築・統一し、有利販売に努めます。
- 出荷先である岡山市場での販促活動の充実により、地元消費の拡大に努めます。
- 切れ目ない収穫・出荷体制により有利販売に努めます。

ももなど果樹類…【大宮もも部会など】

- 直売を充実し、所得の向上を図ります。
早生から晩生まで栽培品種が多いことに加え小規模生産農家が多く、ロットがまとまり難くなっており、市場販売が不利になりつつある現状ではありますが、県内他産地と比較して生育（出荷）が早いことを長所に、有利な直売の展開を図ります。

ウ. 食農教育への積極的参画

- 農家の学童であっても農業に対する認識が希薄になりがちな昨今、農業の重要性を学ぶ（再認識）ことが地域の将来にとって重要であると考え、学区内の食農教育に積極的に参画します。

東部第2 営農経済センターの発展方向

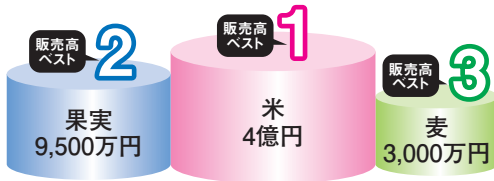
項	目	現状 (H19)	H23	H25
レタス	栽培面積 (ha)	2.5	2.8	3.2
	生産者数 (人)	5	8	10
	販売高 (千円)	13,952	15,000	18,000
はくさい	栽培面積 (ha)	14.4	15.0	15.0
	生産者数 (人)	146	150	150
	販売高 (千円)	65,491	70,000	70,000
キャベツ	栽培面積 (ha)	16.2	16.5	16.5
	生産者数 (人)	146	150	150
	販売高 (千円)	43,057	50,000	50,000
その他野菜	栽培面積 (ha)	6.2	6.8	8.0
	生産者数 (人)	35	50	70
	販売高 (千円)	20,362	25,000	32,000
かぼちゃ	栽培面積 (ha)	11.0	11.0	11.0
	生産者数 (人)	146	146	146
	販売高 (千円)	48,019	50,000	50,000
もも	栽培面積 (ha)	3.0	3.0	3.0
	生産者数 (人)	36	36	36
	販売高 (千円)	8,528	10,000	12,000
ぶどう	栽培面積 (ha)	0.3	0.3	0.3
	生産者数 (人)	4	4	4
	販売高 (千円)	1,131	1,500	1,500
いちご	栽培面積 (ha)	0.2	0.2	0.2
	生産者数 (人)	3	3	3
	販売高 (千円)	11,480	12,000	12,000
なし	栽培面積 (ha)	0.5	0.5	0.5
	生産者数 (人)	2	2	2
	販売高 (千円)	3,493	3,500	3,500
花き 花木	栽培面積 (ha)	0.4	0.4	0.4
	生産者数 (人)	5	5	5
	販売高 (千円)	2,659	2,800	2,800

5年後にはこんな農業が展開されています。

- 規模の大小に関わらず、農業に携わる（親しむ）人口が増加します。
- 小麦の生産基地として重要性が高まります。
- 重量野菜の産地に留まらず、都市近郊型の野菜産地として機能します。
- 地産地消の高まりとともに JA ブランドの直売所・インショップ出荷者が増加します

7 東部第3 営農経済センター

センター販売高：5億6千万円



区域 上道支所(上道・西祖・才崎・沼地区)、長船支所



“つなげよう！ひろげよう！” 地域農業の裾野”

(1) 現状と課題

上道区域について

果樹、特にぶどう栽培の産地として、歴史のある出荷組合（J A岡山上道ブドウ部会・㊦ぶどう出荷組合）があり、キャンベル・ネオマスカットを中心に北海道市場へ空輸して販売という特異な出荷・販売形態で地位を築いてきました。また、時代と共に消費者の好む大粒・種無しのピオーネ栽培などへも変化対応していき、現在も果樹産地としての地位を確立しています。

米麦については、特別栽培米基準で栽培されている醸造用米（山田錦）があります。J Aの麦法人へ加入して、小麦を転作作物として栽培している農家が数軒存在しています。しかし、全体的には水稻においては大型農家が少なく、地区外の大型米麦農家に耕作を委託している農地が年々増加しています。今後も市街化地区への指定地域が広がる可能性が高く、農地が減少していくことが予想されます。

果樹栽培についても、生産者の高齢化により、果樹園の放棄が懸念されます。

長船区域について

少量多品種でいろいろな作物にチャレンジしてきた経緯があります。

現在、瀬戸ジャイアンツの生産者が果樹部会に数軒あります。（ぶどうの品種も多品種です）

花卉部会の部員数は少ないですが、県下ではめずらしい観賞用切花ヒマワリを計画栽培・出荷しています。米麦農家の中には、J Aの麦法人に加入しながら、米・ビール麦・大豆を手がけている大型農家が数軒存在しており、地域の担い手になり得る農家は存在します。

長船区域は主体となる農産物が見当たらず、模索してきた経過の中で、果樹と野菜は少量多品目で残っている状態です。高齢化による生産者の減少で、出荷量の減少及び耕作放棄地の増加傾向が続いています。東部第4 営農経済センター（旧 J Aせとうち）との連携を考える必要もあります。



(2) 目標と方策

ア. 生産者とともに考え生産現場の活性化に！

- 果樹（ぶどう）栽培へ、地域に適合した新品種「オーロラブラック」や「翠峰」などの導入促進と、それに伴う実効力のある栽培講習会を開催します。
- 果樹生産者へ緩衝材など新資材の導入促進による生産コスト削減方策の推進を進めます。
- 高齢化による果樹放棄園・耕作放棄田の拡大への歯止め対策として、高齢者や女性でも作業可能な軟弱野菜や花卉栽培への利用転換を図ります。
- 女性および定年退職者・高齢者を対象とした栽培講習会などの開催による園芸作物の振興を図ります。
- 瀬戸内地区の花き生産者との連携による花卉部会の部員数・活動量の向上を目指します。
- 耕畜連携による飼料稲への取組みや、新たな転作作物として「キビ」栽培の取組みと面積拡大を図ります。
- 集落営農組織への取組みに向けた地区座談会を開催します。

イ. 各種団体と連携し地域農業の裾野を拡大！

- 地域と連携した食農教育
(農業経験のある高齢者と児童がふれあいの出来る農作業体験の実施)
- 邑久地区と連携した直売所の運用
(長船地区へ新たに直売所を設置することも含めて検討)
- 女性部と連携した加工品事業への取組み (長船地区の名刀せんべいの復活など)



東部第3 営農経済センターの発展方向

項	目	現状	H23	H25
認定農業者	上道管内（人）	16	20	23
	長船管内（人）	19	24	25
なす	生産者数（人）	5	7	7
	販売高（千円）	1,636	1,800	1,800
軟弱野菜	生産者数（人）	5	10	15
	販売高（千円）	1,052	1,500	2,000
その他野菜	生産者数（人）	5	5	5
	販売高（千円）	411	500	500
ピオーネ	生産者数（人）	54	54	54
	販売高（千円）	34,998	38,000	40,000
ぶどう	生産者数（人）	54	54	54
	販売高（千円）	48,154	55,000	58,000
アレキサンドリア	生産者数（人）	7	7	7
	販売高（千円）	3,582	4,000	4,000
花き・花木	生産者数（人）	11	15	15
	販売高（千円）	21,042	22,000	23,000
いちご	生産者数（人）	4	4	4
	販売高（千円）	4,309	4,500	4,500
なし	生産者数（人）	3	3	3
	販売高（千円）	1,556	1,800	2,000
農産物直売所	会員数（人）	－	100	150
	取扱高（千円）	－	25,000	40,000
きび	生産者数（人）	－	10	20
	販売高（千円）	－	1,200	2,000

（※JA への出荷および販売分のみを掲載）

5年後にはこんな農業が展開されています。

- 果樹園の新品種への改植が進み、低コスト・高品質ぶどうの生産を進めます。
- 直売所で地元の野菜や果樹、花などが売られ、消費者との顔の見える、地産地消が生まれます。また、直売所会員が増加する中、女性部による名刀せんべいやつきたて餅、手作りみそなどの加工品も直売所の名物として販売されています。
- 新たな転作作物として「きび」に取組み、きびだんごやきび焼酎などを製造販売する需要者との契約栽培を増やします。
- 高齢者が農業経験を小学生に伝えていく地域一体型の食農教育が進みます。



8 東部第4 営農経済センター

センター販売高：22億円



区域 邑久支所(邑久・福田・今城・豊原・本庄・笠加地区)、裳掛支所(玉津・裳掛地区)、牛窓支所(牛窓・長浜地区)

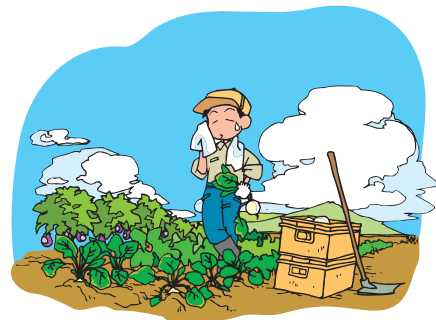


“夢と希望のもてる農業の推進”

～3C(チェンジ・チャレンジ・コミュニケーション)の展開～

(1) 現状と課題

管内は米麦、園芸と地域で大別でき、特に重量野菜では県下を代表する産地形成がなされています。認定農家数は122名となっていますが、生産者の高齢化や農業を取り巻く環境変化が著しい中で、さらに人的な確保に努め、改革・挑戦・対話をキーワードとして、地域農業を推進する必要があります。



(2) 目標と方策

ア. 日本のエーゲ海”せとうちブランド”の確立!

～既存(基幹品目)の生産振興と販売戦略、新規導入品目の産地化～

- 生産組織(運営協議会)を機軸とした運営をはかり、「展示ほ」の設置による実証と現地講習会の実施と、地域特性を踏まえた産地づくりを行います。
- 品質管理体制の強化とトレーサビリティシステムを充実し、市場での評価を高めるとともに、安全・安心ブランドの確立をはかります。
- 地域を支える既存品目を中心に据えながら、次世代フルーツの栽培研究を行います。
- 販売と連携したイベント、企画販売の実施と特色のある品目の育成を図ります。

イ. 生産調整・生産対策・販売対策の包括的な取組み!

～地域水田農業ビジョンの実現～

- 現地講習会(あぜ道講習)の実施(約70会場)により、対話と情報伝達場とします。
- CE、RC利用者協議会(仮称)を設立し、利用農家の意見集約と協議会を通じて優良品種の作付け誘導を図ります。
- 経営規模別の階層化をはかり、担い手や中核的農家支援を行い、集荷率を高めます。

ウ.産直事業の充実！ ～地域農業の底辺拡大～

- 地産地消を推進し、安全・安心な国内産（せとうち産）農産物のファン獲得に努めます。
- 家庭菜園教室等の開催を通じて産直会員の増加（220名→300名）を図り、店舗の活性化に努めます。
- 農業への理解促進と生産者と消費者の交流を図るイベントを開催します。
- 地産地消活動を通じて、豊かな環境づくりを進め、地域社会に貢献します。
- 産直事業への参画により、高齢者の生きがいと協同の成果を高めます。

5年後にはこんな農業が展開されています。

- 西日本有数の重量野菜産地となり、新規就農者の受け入れを行っています。
- 地域の特性を生かした新規作物の定着が図られています。
- 水田農業が元気で経営安定が図られます。
- 地産地消活動を通じて、生産者と消費者の交流が盛んになります。
- 農業振興により地域経済の活性化に貢献します。

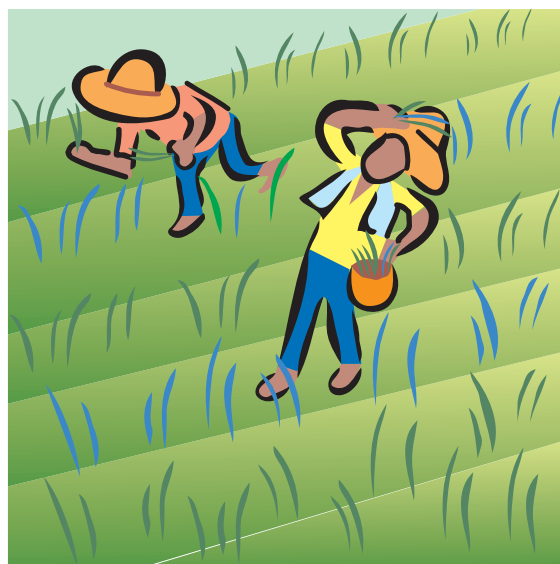


東部第4 営農経済センターの発展方向

項	目	現状	H23	H25
はくさい ※1	栽培面積 (ha)	56.8	57.0	57.0
	生産者数 (人)	205	205	210
	出荷数量 (t)	6,108	6,150	6,200
	販売高 (千円)	351,675	430,500	434,000
とう かん 冬 瓜	栽培面積 (ha)	21.0	22.0	23.0
	生産者数 (人)	86	90	90
	出荷数量 (t)	1,793	2,000	2,070
	販売高 (千円)	165,549	200,000	207,000
キャベツ ※2	栽培面積 (ha)	56.2	57.0	58.0
	生産者数 (人)	181	185	190
	出荷数量 (t)	2,824	3,080	3,200
	販売高 (千円)	229,350	269,500	280,000
種ばれいしょ ※3	栽培面積 (ha)	40.7	41.5	43.0
	生産者数 (人)	83	85	85
	出荷数量 (t)	605	625	645
	販売高 (千円)	84,523	84,375	85,785
ミニトマト	栽培面積 (ha)	3.1	3.1	3.1
	生産者数 (人)	21	21	21
	出荷数量 (t)	268	270	276
	販売高 (千円)	147,672	155,250	158,700
ソーメン南瓜	栽培面積 (ha)	5.8	6.0	7.2
	生産者数 (人)	60	62	72
	出荷数量 (t)	146	160	182
	販売高 (千円)	27,821	35,200	40,040
かぼちゃ	栽培面積 (ha)	23.7	24.0	24.0
	生産者数 (人)	188	188	188
	出荷数量 (t)	745	888	888
	販売高 (千円)	77,830	80,000	80,000
白 瓜	栽培面積 (ha)	0.8	0.8	0.8
	生産者数 (人)	3	3	3
	出荷数量 (t)	115	117	120
	販売高 (千円)	23,859	30,420	31,200
米 ※4	栽培面積 (ha)	649	650	650
	生産者数 (人)	706	706	706
	出荷数量 (t)	2,204	2,400	2,400
	販売高 (千円)	420,629	480,000	480,000
麦	栽培面積 (ha)	75.8	83.0	90.0
	生産者数 (人)	38	40	40
	出荷数量 (t)	333.6	340.3	369.0
	販売高 (千円)	29,762	30,627	33,210

項	目	現状	H23	H25
種子粉 ※5	栽培面積 (ha)	54.7	56.3	58.0
	生産者数 (人)	47	49	51
	出荷数量 (t)	262	269	277
	販売高 (千円)	78,239	80,700	83,100
ぶどう	栽培面積 (ha)	23.0	23.5	24.0
	生産者数 (人)	73	73	75
	出荷数量 (t)	209	210	215
	販売高 (千円)	222,107	231,000	236,500
レモン	栽培面積 (ha)	4.0 (1,200 本)	5.0 (1,500 本)	6.0 (1,800 本)
	生産者数 (人)	66	70	80
	出荷数量 (t)	-	100	120
	販売高 (千円)	0	20,000	36,000
認定農業者 (人)		122	128	134
生産者大会(生産組織運営協議会)		1回/年	継続	継続
CE, RC 利用者協議会		-	設立 (H21)	継続
水稻現地講習会		約 70 会場	継続	継続
米集荷数量 (俵)		36,802	40,000	40,000
産直会員数 (名)		220	250	300

- ※ 1 … 白菜の栽培面積及び生産者数並びに出荷数量は春・秋冬の総数を示す
 ※ 2 … キャベツの栽培面積及び生産者数並びに出荷数量は春・秋冬の総数を示す
 ※ 3 … 種馬鈴薯の栽培面積及び出荷数量は春作・秋作の総数で原種・採種を含める
 ※ 4 … 米の栽培面積及び生産者数は出荷予約総数を示す
 ※ 5 … 種子粉の出荷数量は種子契約出荷量のみを計上



9 南部第1 営農経済センター

センター販売高：2億9千万円



区域 吉備支所(吉備・撫川・陵南・花尻地区)、福田支所(福田・妹尾地区)



“未来農業をチョイス(選択)”

～総合農業力で時代を先取り～

(1) 現状と課題

近年の農業をめぐる情勢は農業の兼業化、都市的地域を中心とした都市混住化、過疎化と地域住民の高齢化等の変化の中で、農村の活力が次第に低下してきており、具体的な現状と課題は次のとおりです。

【現状】

- 農業労働力の高齢化、担い手不足の問題
- 農地の賃貸借、農作業の受委託等をめぐる受託・委託間問題や農地利用率の低下
- 多くの農産物価格の低迷や収益性の悪化、生産調整(転作)の未定着、有利な農作物の模索が困難という問題
- 耕作放棄地(遊休農地)の増大
- 生産環境の悪化などの農業公害の問題

【課題】

- 農産物の安全・安心な生産
- 生産コストの低減
- 農産物直売所・朝市等の開催による「地産地消」の推進
- 農業体験、市民農園等の設置による「食農教育」により農業への理解の推進
- 地域農業活性化対策として「小規模農家支援」「大型農家支援」等の推進により地域農業の振興を図り、地域農業の新しい環境を活性化の方向へと導く戦略の在り方が必要

このような中、消費者は、農業・農村の「食」について「低農薬等の安全安心な農産物を生産」・「価格の引き下げによる安価な農産物の生産」・「新鮮で安全安心な食味のよい農産物の生産」・「農産物直売所や生産者による朝市等の開催」「農業体験のできるような農園を近隣に増やしてほしい」等の要望が出されております。

(2) 目標と方策

ア. 各生産者部会と連携した営農振興!

a. 施設いちご（吉備地区）

新規栽培者を掘り起こすとともに、技術支援により省力栽培の高設方式の導入を推進し経営の安定化に努めます。

b. ほうれんそう・きぬさやえんどう・空豆（吉備地区）

都市近郊産地のメリットを生かして、市場出荷と新鮮さを PR しつつ、農産物直売所への販売に努めます。また、消費者ニーズに合った有望な品目・品種の導入や軟弱野菜の普及と出荷量の確保を図り、安定した販売に努めます。

また、新規栽培者の掘り起こしに努めます。

c. いちじく（福田地区）

転作作物としても有望な品目として産地拡大を図るため、土作りや肥培管理の指導を行い、出荷量の安定化と有利販売に努めます。

d. 黒大豆（福田地区）

転作作物として、土地利用の合理化対策により地産地消推進の一環として、栽培技術の支援と品質向上、安定生産により有利販売に努めます。

e. ピオーネ（妹尾地区）

岡山の特産として需要の安定しているピオーネの産地化、新規栽培者の掘り起こしと新植及び新品種（翠峰・オーロラブラック・青系高級ぶどう）等への改植を図り、安定生産により農業所得の向上を目指します。

f. 二条大麦（ビール麦）

品種「ミハルゴールド」の施肥体系等の栽培技術指導を図り、品質の向上（たんぱく含有量等）及び生産量の増大に努めます。



イ. 水稲の品質向上と低コスト化!

●品質向上に向けて

米の産地間競争の中で、岡山を代表するブランド米である「朝日・ヒノヒカリ」や「アケボノ」の栽培が管内では行われています。また、今後は地球温暖化を意識した既存品種に替わる新品种の選定を行い、農家組合員への推進に努めます。

●コスト低減について

水稲の営農指導活動・個別の大規模経営の展開を実施します。また、ラジヘリによる共同防除の実施等、稲作農家の機械投資の抑制に努めます。

ウ. 現状の基幹作物を中心に地域の目玉になる産地化!

- 都市近郊の水田地帯の立地条件を活かした高付加価値農業や農産物直売所に対応した多品目・少量生産等を支援し、地産地消の推進や南部第1営農経済センターを中心として、園芸講座（野菜等中心）を開催し、定年帰農者等の方々への指導を行い、生産者の育成と栽培技術の向上に努めます。

エ. 農地の確保と保全!

- 大規模農家を中心とした農作業受託部会（農家代表・農業委員・経営管理委員）により団地的規模拡大の受け手農家への農地流動化に努めます。
- 耕作放棄地の解消に向け園芸講座等を開催し生産意欲を高め、農産物直売所等への農産物出荷や家庭菜園の推進を行い、自らの食料自給率向上に努めます。

オ. 食と農を結ぶ食農教育や環境資源の保全!

- 食育基本法の施行を踏まえ、食農教育の推進として次世代（学童等）を対象とした農業体験（水稲田植、刈取り・野菜（サツマイモ・トマト等）・収穫）や地域住民との交流活動としての農産物収穫祭等を通じた食と農への理解を深める活動を行い、自然との関わりの中で農作物の成長していく姿に理解を深めること等に努めます。
- 原油高騰により肥料農薬をはじめとして農業生産資材価格値上がりの中で、農家に必要となる良質な畜ふん堆肥等をリサイクル資源として利用拡大に努めます。
- 園芸農家に対して環境保全の重要性から土壌にあった施肥方法の推進、使用済農薬や空袋瓶・農業用廃ビニールの回収に努めます。
- 環境にやさしい農業への取り組みとして、安全安心な農産物づくりをするため減農薬・減化学肥料による栽培指導に努めます。

※管内の農家数及び自給的農家数

(2005 農林業センサス資料)

南部第1 営農経済 センター	総農家数 (戸)	合計 (戸)	販売農家数				自給的農家 (戸)
			専業農家 (戸)	小計 (戸)	兼業農家		
					第1種兼業農家 (戸)	第2種兼業農家 (戸)	
センター計	987	700	140	560	15	545	287
吉備地区	490	322	68	254	2	252	168
福田地区	280	217	34	183	3	180	63
妹尾地区	217	161	38	123	10	113	56

※管内の経営耕地面積 (販売農家) (田・畑)

(2005 農林業センサス資料)

南部第1 営農経済 センター	経営耕地 総面積 (販売農家) ha	1戸当り 経営耕地 面積 (販売農家) a	田		畑		樹園地		耕作放棄地	
			田のある 農家数 (戸)	面積計 ha	畑のある 農家数 (戸)	面積計 ha	樹園地のある 農家数 (戸)	面積計 ha	農家数 (戸)	面積計 ha
			センター計	594	85	691	568	206	17	45
吉備地区	252	78	322	245	105	5	12	2	32	13
福田地区	184	85	217	180	54	2	16	2	37	11
妹尾地区	158	98	152	143	47	10	17	5	60	25

※管内の農産物販売金額規模別農家数—販売農家 (戸)

(2005 農林業センサス資料)

南部第1 営農経済 センター	合計	販売なし	～50 万円	50～100 万円	100～300 万円	300～500 万円	500～1000 万円	1000 万円～
センター計	700	33	448	144	59	6		4
吉備地区	322	17	221	60	19	1		0
福田地区	217	14	137	46	18	1		0
妹尾地区	161	2	90	38	22	4		4

※管内の2008年度主な水稲品種別作付け面積 (ha)

(2008 岡山地域農業共済組合資料)

南部第1 営農経済 センター	合計		アケボノ		朝日		ヒノヒカリ		吉備の華		コシヒカリ	
	面積	割合	面積	割合	面積	割合	面積	割合	面積	割合	面積	割合
センター計	437.8	100.0	231.1	100.0	111.8	100.0	87.1	100.0	1.0	100.0	0.3	100.0
吉備地区	174.5	39.9	130.0	56.3	31.1	27.8	10.9	12.5	0.3	30.0	0.0	0.0
福田地区	141.8	32.2	47.7	20.6	40.5	36.2	49.5	56.8	0.7	70.0	0.3	100.0
妹尾地区	121.5	27.8	53.4	23.1	40.2	36.0	26.7	30.7	0.0	0.0	0.0	0.0

※南部第1 営農経済センターの発展方向 (ha)

発 展 項 目	現状	H23	H25
水稻栽培面積 (戸数) 【吉備 175 (308) 福田 142 (208) 妹尾 122 (150)】	439 (666 戸)	445 (670 戸)	450 (670 戸)
二条大麦(ビール麦)栽培面積 (戸数) 【吉備 0 (0) 福田 6 (4) 妹尾 16 (5)】	22 (9 戸)	22 (9 戸)	23 (9 戸)
黒大豆・大豆栽培面積 (戸数) 【吉備 1 (22) 福田 4.6 (26) 妹尾 4 (16)】	9.6 (64 戸)	10 (65 戸)	11 (67 戸)
いちご栽培面積 (戸数) 【吉備 0. 2 (3) 福田 0 (0) 妹尾 0 (0)】	0.2 (3 戸)	0.2 (3 戸)	0.2 (3 戸)
ほうれんそう等栽培面積 (戸数) 【吉備 0.8 (13) 福田 0 (0) 妹尾 0 (0)】	0.8 (13 戸)	0.9 (15 戸)	0.9 (15 戸)
いちじく栽培面積 (戸数) 【吉備 0 (0) 福田 0.75 (12) 妹尾 0 (0)】	0.75 (12 戸)	0.8 (12 戸)	0.8 (12 戸)
ピオーネ栽培面積 (戸数) 【吉備 0 (0) 福田 0 (0) 妹尾 2.4 (6)】	2.4 (6 戸)	2.5 (7 戸)	2.6 (7 戸)

5年後にはこんな農業が展開されています。

●定年帰農者を対象とした営農支援が進んでいます。

現在、兼業で水稻栽培をしている農家が多く、農業意欲を持っていることから、今後は園芸講座（野菜・花・果樹栽培等）の開催等により、定年帰農者等を対象として家庭菜園の推進を行い、多品目・少量生産等を支援します。そして、自らの食料自給率向上や地産地消の推進として生産意欲を高めながら、農産物直売所等への農産物出荷が図られています。

●食と農を結ぶ食農教育の推進をしています。

食農教育の推進として次世代（学童等）を対象とした農業体験（水稻田植、刈取り）・野菜（サツマイモ・トマト等）収穫や地域住民との交流活動が普及しています。

10 南部第2 営農経済センター

センター販売高：15億8千万円



区域 興除支所(興除・東畦・曾根地区)、藤田支所(藤田・大曲・錦・六区地区)



“人と大地のコミュニケーション!!”

広大な土地と米・麦・野菜を発展させるために。

農家所得が増えるにはどうすれば良いかみんな一丸となって共に考えよう。

(1) 現状と課題

当センター管内は兎島湾干拓のもとで大規模圃場整備や水利環境もなされており、特に米麦では先進経営体の大型農家が多く存在しています。また、園芸作物としてタマネギ、レタスが導入され、水田転作作物として施設茄子、レンコン等の野菜の産地化が進められてきました。しかしながら、全国的な米価の下落、農家の高齢化、後継者不足などにより、農家数・生産面積は年々減少傾向にあります。それに伴い、JAへの出荷数量、販売金額の伸び悩みに直面しています。

このような状況の中、平成20年代半ば頃からの原油や肥料高騰の影響、その後の生産資材等の高騰によって農業経営はさらに厳しく、担い手の減少に拍車がかかるものと予測されています。今後の課題として、①生産コスト低減②省エネ技術導入の検討③販売方法・出荷包装方法の検討④機械導入による省力化対策等があげられます。これらに対する早急かつ適切な対応が求められています。

また、パイプラインなどを利用した地域・市場に合った新しい作物を導入する必要があると思われます。

管内の農業振興を図るために今後の農業戦略を農家とともに検討し、一緒に考案することが重要な課題となっております。さらに、農家とJAだけが戦略を考えるのではなく、普及指導センター、試験場、行政、全農、市場等と協力して議論していくことが必要と考えます。

	米 品種別面積 (a)								
	合計	ヒノヒカリ	アケボノ	朝日	コシヒカリ	雄町	吉備の華	山田錦	その他
興除	88,209.1	35,279.3	27,039.0	19,784.4	40.0	2,283.5	77.2	2,621.7	1,084.0
藤田	80,235.9	50,067.3	4,745.7	11,838.4	0.0	6,116.6	0.0	5,528.1	1,939.8

	米 品種別面積割合 (%)								
	合計	ヒノヒカリ	アケボノ	朝日	コシヒカリ	雄町	吉備の華	山田錦	その他
興除	100.0	40.0	30.7	22.4	0.0	2.6	0.1	3.0	1.2
藤田	100.0	62.4	5.9	14.8	0.0	7.6	0.0	6.9	2.4

各部会の現状

部会名	H20年度部会員数(人)	H20年度面積(ha)	H19年度JA出荷数量	H19年度販売金額(千円)
藤田タマネギ部会	48	20.0	948,079kg	57,649
藤田レタス部会	31	14.0	35,703 ケース	71,955
藤田施設茄子部会	11	2.0	290,526kg	120,519
藤田蓮根部会	6	16.0	113,502kg	58,071
興除施設茄子部会	9	1.3	241,929kg	91,678
興除蓮根部会	6	4.5	79,502kg	44,874

(2) 目標と方策

センターの基盤である生産者部会を大切に維持・活性化！

- (1) 水稻の品質向上と低コスト化に努めます。
- (2) 各生産者部会と連携した活動を行います。具体的な内容は以下の通りです。

部会名	具体的な内容
藤田タマネギ部会	パイプラインを活用できる地域を中心にタマネギ作付面積の拡大に努めます。今後実需者の求める供給量の確保をはじめ貯蔵性を高める取り組みを始めます。併せて長期保存供給体制を確立し、市場評価を高めブランド化を目指します。さらに低コスト化を図り経営の安定化も目指します。
藤田レタス部会	3年かけて藤田レタス部会のもつ高品質を維持し、新素材導入（クリンテート）等の省力化技術を積極的に導入し、低コスト資材の情報収集・検討を行い、経費の節減を積極的に行います。4年後からは部会員が増加すると思われます。
藤田施設茄子部会	省エネ技術を導入して現存の農家の収益を増やす取り組みが必要です。積極的な情報の提供で農家経営の安定を目指していきます。後継者の育成も合わせて行い活性化させ産地を維持発展させます。
藤田蓮根部会	販売数量、販売金額の維持を図ります。省力化技術・資材情報を積極的に提供し、産地の維持を図ります。
興除施設茄子部会	省エネ技術を導入して現存の農家の収益を増やす取り組みが必要です。日々の営農指導を行うことで早期防除の実現を図り、秀品率の増加を図ります。積極的な情報の提供で農家経営の安定を目指し、産地を維持します。
興除蓮根部会	全農との連携を図って販売数量、販売金額の維持を図り、産地を維持していきます。

各部会の5年先の見通し

部会名	部会員数(人)			作付面積(ha)		
	H20年	H23年	H25年	H20年度面積	H23年度面積	H25年度面積
藤田タマネギ部会	48	70	100	20.0	27.0	35.0
藤田レタス部会	31	36	40	14.0	16.0	20.0
藤田施設茄子部会	11	12	15	2.0	2.2	2.8
藤田蓮根部会	6	6	6	16.0	16.0	16.0
興除施設茄子部会	9	9	9	1.3	1.3	1.3
興除蓮根部会	6	6	6	4.5	4.5	4.5

5年後にはこんな農業が展開されています。

1. 生産者部会では…

- 生産者部会は低コスト化、省力化が進み産地の活性化がなされます。
- 予冷施設の新設やパイプライン化などで、新しい作物・産地化が進められています。
- リース事業の導入により農業機械の負担が減り積極的な機械化が進みます。
- 施設園芸においては省エネ技術の導入により経費節減がなされ、経営の安定化が図られています。

2. 水稻栽培では…

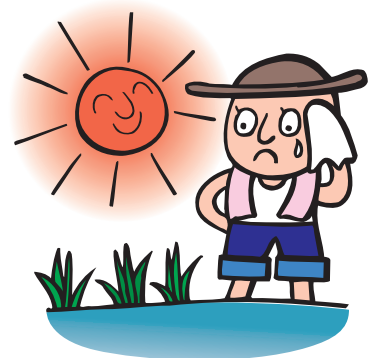
- 中、晩生を中心にバランスのとれた品種構成で水稻栽培が進められています。
- 高温に強い品種（ヒノヒカリに変わる品種）の研究・導入が進んでいます。
- 地力に合った施肥設計により品質向上及び低コスト化が図られています。

3. 麦栽培では…

- 実需者の求める品質の確保、特に、粗タンパク含量の向上が図られています。
- 排水対策など、基本技術の徹底により収量・品質の安定化が図られています。

4. その他

- 担い手農家を中心とした地域全体の活性化
- パイプラインの完成に合わせた、地域・市場に沿った新しい作物の導入。
- 団塊世代の中、定年帰農者などの確保に努める。



11 南部第3 営農経済センター

センター販売高：24 億 6 千万円



区域 備南支所、灘崎支所(灘崎・彦崎地区)、玉野支所(玉野・荘内・荘内上・八浜・大崎・田井地区)



“「産地ブランド拡大」大作戦”

産地拡大を！ 新規就農者を！ 後継者を！

(1) 現状と課題

当センター管内は、岡山県の南部に位置し、農地の大部分を占める干拓による水田地帯が農業の中心となり、丘陵地帯や都市近郊にも農地が混住している地域になります。今までの農業振興として米麦の他、千両ナス、蓮根、玉葱等の野菜を中心に、ぶどう、梨、レモン等の果樹や花卉など瀬戸内の温暖な気候を活かした農作物の産地化、ブランド化や新規就農等の推進を行い、J A 岡山の販売金額の 1 / 5 を占める販売ルート確立の産地として位置づけられてきました。しかしながら、全国的な農家の課題として、所得低迷、高齢化、後継者(担い手)不足などの要因がある中、近年にない原油の高騰に伴い農業経営の経費が増加し経営は更なる悪化傾向にあります。このような現状の中、当センター管内の主な課題として次のようなものがあります。

- 千両ナスでは、高齢化やハウスの暖房用重油・肥料・農薬のいまだかつて無い、高騰により、採算性が悪化し、就農者より離農者のほうが多くなっています。
- 蓮根では、原油等の高騰による肥料・出荷資材価格の高騰の影響を受け、収益が減りつつあります。
- 米麦については、販売価格の低迷と平成20年の大幅な肥料の高騰、生産者の高齢化等により農家の生産意欲は減退しています。
- 二条大麦(ビール大麦)については、連作障害・湿害等による減収・品質低下が発生しており、実需者より品質の向上・粗タンパク含量の向上が求められています。
- 温暖化の影響により、ピオーネの着色不良が発生し対策が必要となっており、販売価格の低下、農家所得の低迷が起きています。
- 小規模農業(家庭菜園等)への対応が不足しています。
- 組合員への情報提供(今求められている品目等)が不足しています。



(2) 目標と方策

更なるブランド産地を目指す! だからこそ具体的に動くビジョンがある!

- 千両ナスについては、京阪神・関東等消費地での販売強化と『なす絶対食べさせ隊』によるPR・食育を絡めた産地消運動により地元での販売の強化、学校給食への供給等による有利販売をめざし、離農者に歯止めをかけ、確立された産地としての地位の継続を図ります。
- 蓮根については、共選出荷の有利性をアピールし販売強化に努めると共に、適地作目として生産者・栽培面積の増大を目指します。
- 米については、従来からのコシヒカリ・ヒノヒカリ・朝日・アケボノの主要品種を大切に、高品質で安定した生産技術の確立と普及に努めるとともに、温暖化による収量の低下や白未熟米等に適応できる品種の選定を関係機関と連携して進めます。
- 二条大麦（ビール大麦）について、播種時期・排水対策・施肥等の営農指導の徹底により実需者の求める麦の生産を目指します。また、品種について裂皮・はく皮の発生しにくい高品質なものへの転換について全農・ビール会社・関係機関と協議、検討いたします。
- ぶどうについては、ピオーネからの更新として種なし品種・糖度の高い品種・皮ごと食べられる品種等の導入を目指します。（新品種:オーロラブラック・高級青系ぶどう）
- 昨年レモン研究会を立ち上げ、試験的に栽培しているレモンは、営農振興計画策定に関する座談会でも、作りやすい作物ではないかとの意見があり、本所・全農・普及指導センター等の協力を得て栽培指導を行い、商品化の実現を目指します。また、以前から栽培されているレタス、新しい品目としてのブロッコリー等の推進を図ります。
- 小規模生産者からの営農相談に最大限協力します。また、直売所等への出荷誘導を行います。
- 支所管内の枠を超えた生産者の交流（営農経済センター管内全地区からの各部会への加入等）を推進し、生産物の出荷量の増大を目指します。
- JA・組合員間の情報交換を密にするため、営農経済専任渉外員の訪問活動強化を目指します。



南部第3 営農経済センターの発展方向(主要品目・推進品目)

項	目	現状	H23	H25
米	生産者数(名)	595	595	595
	面積(ha)	540	540	540
	出荷数量(俵)	45,000	45,000	45,000
	販売高(千円)	530,000	530,000	530,000
二条大麦	生産者数(名)	277	277	277
	面積(ha)	557	557	557
	出荷数量(俵)	45,000	45,000	45,000
	販売高(千円)	265,500	265,500	265,500
小麦	生産者数(名)	6	6	6
	面積(ha)	28	28	28
	出荷数量(俵)	2,300	2,300	2,300
	販売高(千円)	14,500	14,500	14,500
白大豆	生産者数(名)	17	17	17
	面積(ha)	29	29	29
	出荷数量(t)	62	62	62
	販売高(千円)	13,500	13,500	13,500
千両ナス (ハウスナス)	生産者数(名)	127	127	127
	面積(ha)	26.5	26.5	26.5
	出荷数量(t)	3,324	3,325	3,325
	販売高(千円)	1,430,000	1,430,000	1,430,000
レンコン	生産者数(名)	14	17	20
	面積(ha)	19.5	20.5	24.0
	出荷数量(t)	193	250	310
	販売高(千円)	93,500	110,000	139,500
ブロッコリー	生産者数(名)	6	7	10
	面積(a)	20	50	100
	出荷数量(t)	0	2	5
	販売高(千円)	0	800	2,000
レタス	生産者数(名)	4	5	6
	面積(a)	100	125	150
	出荷数量(t)	13	16	19
	販売高(千円)	1,500	1,850	2,180
ぶどう	生産者数(名)	53	62	70
	面積(a)	390	430	440
	出荷数量(t)	72	77	80
	販売高(千円)	55,000	59,000	61,500
レモン	生産者数(名)	6	7	10
	面積(a)	50	55	80
	出荷数量(t)	0	2	5
	販売高(千円)	0	240	600
その他	販売高(千円)	56,500	56,500	56,500

5年後にはこんな農業が展開されています。

- 千両ナス・蓮根など、他産地に負けない情報収集・発信力・行動力でブランド産地としての地位継続と拡大が図られています。
- 今後も、消費拡大の延長線上に、地域・系統団体・次世代を担う地元の子供達との交流をはかりながら、『なす絶対食べさせ隊』や『なすびマン』の協力を得て、品質や生産量、プラス「ヒューマンハート」をお届けした販売促進を継続して販売の維持拡大をしています。
- 既存のレタスや新品目として提案しようとするブロッコリーの作付が始まり、産地化の第一歩として進んでいます。系統団体等の連携のもと、農業収入向上に向けた指導をしています。
- 国産の安全性をPRし、レモンの出荷が軌道に乗っています。職員はレモン栽培の知識を集め、栽培指導を行っています。
- 高級青系ぶどうの出荷が始まり、オーロラブラックの栽培生産者・出荷数量が増加しています。
- 南部エリアは、有数の米麦地帯。良質な米・麦を作るため、管内の視点だけでなく、南エリアの営農経済センターで共有する米麦振興に努めています。



12 西部第1 営農経済センター

センター販売高：5億8千万円



区域 一宮支所(一宮・尾上・大窪・佐山・上芳賀・檜津地区)、津高支所(津高・横井・馬屋上地区)



“くだもの王国”から 楽しさプラスワン”

～食生活を豊かに～

“くだもの”を人に。

地域に。

世界に発信。



(1) 現状と課題

○立地条件

管内は南部平坦地と北部丘陵地からなり、平坦地は水田を中心として温室ぶどう、一部施設園芸が組み合わされ、また、北部丘陵地は桃、梨、温室ぶどうが基幹品目として栽培され、小面積の水田も管理されています。

近年、南部平坦地では市街化が進み混住化の中、農業経営が行いにくい環境になっています。

○農業の現状

水田は、平均耕作面積約35a程度で、南部平坦地では大型請負農家数戸が利用権設定や、作業受託によって広大な面積を管理しています。しかし、JA岡山への集荷率は低くなっています。

生産調整によって転作した面積の大半が、実績算入カウントされています。その内訳は、桃畑・温室地・休耕田となっています。

収穫された米の大半は保有米・縁故米として消費され、50俵以上の出荷者は非常に少ない。

地域は、古くから温室ぶどう、桃の産地として農業が盛んに営まれてきたが、平成以後、販売価格の低迷や資材価格の高騰によって産地の維持拡大が難しくなっている。

中でも、温室ぶどう農家は急速に温室農協脱退者が出ており、産地の維持が難しくなっています。

桃は比較的安定しており、大幅な面積減少は見られません。これは、一宮中央選果場の一貫荷受け方式による栽培管理への労力集中や、定年退職者等の参入によって面積が維持されている事が一因となっています。

その他の作物は大きな部会組織は無く、少人数によるいちご栽培、鉢物など個々の園芸作物が点在しています。

JA岡山の直売所、はなやか店が管内や近隣にできたことから、産直意識の高い農家が徐々に増加している様子が見受けられます。

○課題

「農産物価格」の下落によって、農家の生産意欲が低迷している事に加え、「高齢化」「農地の荒廃」「市街化」「JA利用度の低下」が課題となっています。

(2) 目標と方策

ア. 果樹農業の振興に特化！少量多品目で作物の提案…。

- 農業経営の骨格となっている「桃」「梨」「温室ぶどう」の維持拡大を課題に農業振興を進めます。
- 部会、生産者組織との連携を充実し、きめ細かい支援に努めます。
- 既存品種に加え、少量多品種による産地のバラエティー化・カラフル化を進め産地イメージの向上を図り、農家の体力向上を目指します。
- 経営の隙間に野菜・花きなど多品目の提案を行い、農家所得向上の一助とします。
- 果樹農業地帯として特化するため、「桃」「梨」「温室ぶどう」の注目品種を未経験農家に提案します。
- 次世代を担う農業者の掘起しの為、多様な作物栽培の提案を定期的に行います。
- 多様な販路開拓を目指し、アイデアと工夫を形にします。

イ. 水田農業の効率化！省力化・担い手農家育成・農地の流動化を提案…。

- 高齢化による労力減少を改善する為、大型担い手農家の育成に努めます。
- 効率化を高める為、農地の流動化を促進します。



◆農業発展方向

ア. 経営の骨格である「桃」「梨」「温室ぶどう」の維持拡大で農業振興を！

- 現在管内で最大の部会組織、『一宮選果場果樹部会』及び『岡山県温室園芸農業協同組合』との強調・支援を更に強化し、出向く営農指導に重点を置き、産地の維持拡大、農家の経営安定に取り組みます。

a. 【桃の発展方向】

- 一宮中央選果場の機械選果扱い品種を中心に、次世代フルーツとして有望で注目を浴びている「おかやま夢白桃」を、白鳳系中生種、清水白桃に次ぐ第三の重要品種と位置づけし育成します。
- 普及推進にあたり、「推進研修会」を計画的に実施します。
- 「安心安全」への積極的な取組みを充実発展させます。
- 残留農薬、農薬使用登録に絡むリスク軽減と、産地ブランドの新たな価値向上の為、IPM(総合的病害虫雑草管理)体系の確立を目指し、フェロモン剤、防蛾灯、防風ネット、土壌診断、個別相談会等の定着普及を着実に進めます。
- 流通・消費段階への取組みを「指数化」「文書化」し、ブランド価値向上を目指す為、岡山県版『GAP(農業生産工程管理)』を手始めに、JGAP認定を目指します。



b. 【梨の発展方向】

- あたご梨を中心に現状規模で産地を維持します。
- 「安心安全」への積極的な取組みを充実発展させます。
- 近年の価格変動幅を縮減する為、消費動向の把握と出荷調整を進めます。



c. 【温室ぶどうの発展方向】

- 120年以上にわたる信頼、いまだに衰えない品質を前面に出し、岡山特産高級くだものとして、岡山県温室園芸農業協同組合と連携し拡大強化します。
- 進物需要の低迷による消費量減少、無核大粒品種の台頭などのマイナス要因を打破する為、「旬」と「品質」にこだわる品種導入の啓発、普及推進を行います。
- 消費者ニーズをとらえた高食味ブドウ品種を啓発提案し多様化を図ります。
- 「安心安全」への積極的な取組みを充実発展させます。
- 農家の高齢化が進んで、残留農薬、農薬使用登録に絡むリスクが課題となっており、フェロモン剤、防蛾灯利用を積極的に普及推進しリスク軽減に努めます。



イ. 部会等の組織と連携し、関係機関と協調し、きめ細かい支援!

ウ. 生産者組織の運営が着実に前進出来る環境を整える為、組織ごとの担当者を決めて対応!

- 日常的な栽培指導、相談活動が行えるように管内支所に職員が駐在します。
- 定期的な情報「病虫害防除」「栽培管理」「市況」等は恒常的に関係支所、事業所に掲示告知します。
- 組織活動に欠かせない、新たな活動に係る「農政」「流通」「消費」「資材」「他産地の動向」など情報収集に努めます。

エ. 既存品種に加え、少量多品種による産地のバラエティー化・カラフル化を進め、産地イメージの向上を図り、農家の体力向上を!

- 既存組織、経営体系や品目にとらわれない柔軟な提案を行います。
- 桃、温室ぶどう、水稲だけにとらわれず、労力の隙間、立地条件の可能性をアドバイスし、産地のバラエティー化・カラフル化を啓発します。特に、組織が中心となって進める講習会、研修会の中に「新たな作物提案」「複合経営の可能性」等資料が定期的に紹介できるよう情報整理を行います。

オ. 経営の隙間に野菜・花きなど多品目の提案を行い、農家所得向上!

- 農家の栽培意欲を喚起し、荒廃圃場解消や休耕田利用を目指します。
- 「はなやか店」「直売所」への出荷を目指し、『楽しみ農業』への意欲喚起を目的に、「売りたい商品」「買いたい商品」情報を関係部署と連携し情報提供します。
- 作付け誘導する為多品目栽培講習会など定期的な開催を目指します。
- J A 女性部、青壮年部会員と協調し、それぞれの会員が情報発信源となり、地区のリーダーとして活発な農業振興のけん引役、地域コミュニティが醸成されるように連携を深めます。

カ. 果樹農業に特化するため、「桃」「梨」「温室ぶどう」の注目品種を未経験農家に提案!

- 果樹栽培として恵まれた立地条件・生産者組織を背景に、新規に栽培が始められる環境づくりを整備します。
- 未経験者の栽培指導を支援する為、各生産者組織が開催する講習会、研修会を出来るだけ『オープン参加』できるよう工夫します。
- 未経験者を対象とした、「桃」「梨」「温室ぶどう」導入説明会、栽培講習会の開催を目指します。

キ. 次世代を担う農業者の掘起しの為、多様な作物栽培の提案!

- 新規就農者の受入態勢を充実します。
- 岡山県が進める「ニューファーマー制度」と連携し、新規就農者受入を進めます。
- 新規就農希望者への農地情報、経営情報を地域の農家をはじめ、農業委員会など関係機関と協調して対応できる窓口体制を充実します。

ク. 多様な販路開拓を目指し、アイデアと工夫を!

- 農家の意欲喚起、農業振興につながる話題を聞き逃しません。
- 市場中心の仕向け先から、「産直」「新鮮」「信頼」をキーワードに多様な販路開拓に努めます。
- 果樹販売価格低迷の克服を目指して、オリジナル商品の開発を進めます。
- 元気な高齢者が永く活躍できるよう、野菜・花きなど身近な直売所が手軽に利用できる環境を工夫します。

ケ. 高齢化による労力減少を改善する為、大型担い手農家の育成!

- 農作業受委託の斡旋、低コスト資材の提案による経営規模の拡大とコスト低減を図り、中核農家として自立できるよう支援します。
- 効率化を高める為、農地の流動化を促進します。
- 岡山市農業委員会等の関係機関との連携により、農地流動化を啓発します。

重点作物の生産計画等

項 目		現状	H23	H25
もも	栽培面積(ha)	100	102	105
	生産者数(人)	420	420	425
	出荷数量(kg)	700,649	670,000	700,000
	販売高(千円)	510,466	536,000	560,000
ぶどう	栽培面積(ha)	0.2 (38)	0.8 (32)	2.0 (30)
	生産者数(人)	1 (358)	5 (300)	20 (270)
	出荷数量(kg)	2,500	8,000	20,000
	販売高(千円)	2,439	8,000	15,000
いちご	栽培面積(ha)	0.6	0.6	0.6
	生産者数(人)	5	5	5
	出荷数量(kg)	8,298	9,000	9,000
	販売高(千円)	6,862	7,000	7,000

項 目		現状	H23	H25
なし	栽培面積(ha)	2.5	2.5	2.5
	生産者数(人)	20	20	20
	出荷数量(kg)	27,468	28,000	28,000
	販売高(千円)	14,489	15,000	15,000
花き・花木	栽培面積(ha)	0.2	0.2	0.2
	生産者数(人)	2	2	1
	出荷数量(kg)	—	—	—
	販売高(千円)	1,935	2,000	2,000
米 集 荷 数 量 (俵)		6,002	6,000	5,800

5年後にはこんな農業が展開されています。

- 果樹の産地が維持されています。
- 営農経済センター職員自らが営農指導を行うことで、生産者のJAに対する満足度が向上しています。
- JAと生産者がコミュニケーションを図り、たくさんの知恵やアイデアで果樹先進農業が確立されています。
- 果樹の農閑期を利用した、新規品目の栽培も始まっています。
- 販路拡大が行われ、市場や量販店に影響されにくい販売方法により、農家所得向上に寄与しています。



13 西部第2 営農経済センター

センター販売高：3億3千万円



区域 高松支所(高松・加茂・生石・真金地区)、足守支所(足守中央・足守・日近・岩田・福谷地区)



“吉備の郷で「がっちり」農業!”

～人も地域も元気に明るく「わっはっは」につながる農業をしよう～

(1) 現状と課題

岡山市高松での有機無農薬野菜生産の歴史は約30年と長く、足守地区では夏秋なすでエコファーマーの計画認定など安全・安心の取り組みがなされています。

また、食味のよい米の生産地帯として知られており、いちじく・温室ぶどう・メロン・夏秋なす・いちご・キク・ブプレウラム・椎茸等多くの農産物を生産しています。

しかし、生産者の高齢化をはじめ、近年では特に原油・生産資材の高騰により農家経営は非常に圧迫されています。こうした中、地域特性を生かしつつ、安全・安心で、さらにおいしい農産物の生産と低コスト、省力化技術の導入による農業者に優しい農業を推進していく必要があります。

(2) 目標と方策

ア. 良食味米の生産振興と低コスト化!

- 土壌、水等の地域特性を生かした、良食味米の生産振興、ブランド化を検討します。
- 安全・安心・食味向上を目的とした生産者組織(部会)を新設し、独自の栽培方法・管理・食味検査などを実施し、有利販売(ブランド化)を検討します。
- 温暖化に対応した作型の検討と、栽培管理指導に努めます。
→ 可能な地区においては、田植えの時期を遅らすなどの栽培指導や、温暖化を意識した既存品種に替わる新品種の選定を行い、農家組合員への推進に努めます。
- 新たな低コスト資材の検討と導入に努めます。
→ 基肥の本田施用型肥料から育苗箱施用型へ環境にやさしい低コスト肥料の導入試験を行います。

イ. 既存の農産物・部会の維持・活性化!

- 生産組織との連携をさらに強化し、定例会・巡回指導等を実施し、維持・活性化に努めます。
- 春には果菜類、冬には果樹剪定講習会などを開催し栽培技術の向上を図り、更には農業経営意欲を高め、新規農業者の掘り起こしを行います。
- 先進的技術の導入により、環境負荷を低減した合理的施肥を実現し、省力化、低コスト化および収量の向上を図ります。

ウ.「安全・安心」有機無農薬農業の推進!

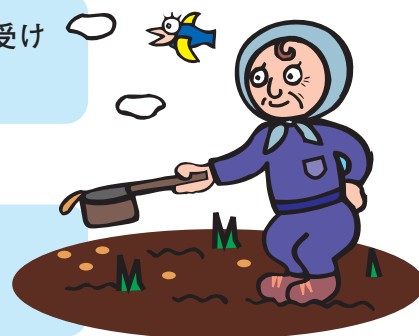
- 生産組織の維持、生産力の向上（新規栽培者の掘起し）に努めます。
- 塩類集積の改善、病虫害防除対策などについて既存栽培技術の改善や、新たな安定生産技術の導入により生産を安定させます。

エ.農地の確保・保全の推進!

- 農作業受託部会を新設し、耕作放棄地の解消に向け、受け手農家へ農地流動化に努めます。

オ.高齢化に伴う農作業支援!

- 農作業の部分請負・無人ヘリ防除・ライスセンター利用・米の庭先集荷など積極的に取り組みます。



西部第2営農経済センターの発展方向

項 目		現状	H23	H25
認定農業者(人)		24	26	27
な す	栽培面積(ha)	0.7	0.8	0.8
	生産者数(人)	9	10	10
	出荷数量(kg)	43,640	50,000	50,000
	販売高(千円)	11,154	12,000	12,000
その他野菜	生産者数(人)	35	35	35
	販売高(千円)	31,100	32,000	32,000
軟弱野菜	生産者数(人)	2	2	2
	販売高(千円)	324	350	350
ほうれんそう	栽培面積(ha)	0.6	0.8	1
	生産者数(人)	5	8	10
	出荷数量(kg)	9,000	12,000	15,000
	販売高(千円)	2,635	3,600	4,500
も も	生産者数(人)	5	5	5
	販売高(千円)	4,459	5,000	5,000
ぶどう	栽培面積(ha)	0.8	0.8	0.8
	生産者数(人)	3	3	3
	出荷数量(kg)	1,000	1,000	1,000
	販売高(千円)	1,225	1,300	1,300
いちご	栽培面積(ha)	0.55	0.55	0.55
	生産者数(人)	5	5	5
	出荷数量(kg)	10,000	10,000	10,000
	販売高(千円)	9,500	10,000	10,300

項	目	現状	H23	H25
メロン	栽培面積(ha)	3	3	3
	生産者数(人)	15	15	15
	出荷数量(kg)	55,125	56,000	56,000
	販売高(千円)	25,311	26,000	26,000
アレキサンドリア	栽培面積(ha)	2.6	2.6	2.6
	生産者数(人)	9	9	9
	出荷数量(kg)	36,400	37,000	37,000
	販売高(千円)	7,402	7,500	7,500
いちじく	栽培面積(ha)	1.2	1.2	1.2
	生産者数(人)	15	15	15
	出荷数量(kg)	21,267	22,000	22,000
	販売高(千円)	10,342	11,000	11,000
花き・花木	栽培面積(ha)	0.3	0.4	0.5
	生産者数(人)	24	26	28
	販売高(千円)	40,286	42,000	45,000
しいたけ	生産者数(人)	22	22	22
	出荷数量(kg)	12,500	13,000	13,000
	販売高(千円)	15,823	16,000	17,000
米 集 荷 数 (俵)		13,471 俵	15,000 俵	16,000 俵

5年後にはこんな農業が展開されています。

- 地域資源などを活かした安全・安心・有機などブランド米が確立され、水稻の生産振興が図られています。
- 部会や組合員との意見交換会が定期的に行われ、管内農業や農業所得向上について具体的に活動がなされています。
- 管内の農業について、低コスト農業の普及が進んでいます。
- 耕作放棄地の解消に向けて、地域・営農経済センターが一体となって取り組んでいます。



14 北部第1 営農経済センター

センター販売高：3億円



区域 加茂川支所(加茂川・円城・津賀・御北地区)



“未来に続く “やまびこ農業”を目指して!”

(1) 現状と課題

高齢化による農業従事者の減少、後継者不足による過疎化が進み、65歳以上が人口の40%近くを占めており、農業従事者に占める割合が75%となっています。

さらに、傾斜地、畦畔の草刈作業が重労働であり、農産物の価格低迷も重なり、その結果として生産部会の先細り、耕作放棄地の増加が目立ってきています。

将来、安心して暮らしていくためには、多面的機能を持つ農地の保全が最重要な課題となっています。

こうした現状の中、一部集落営農の模索や、地産地消運動の中で産直への取り組みが行われており、JAの先導的役割が求められています。



(2) 目標と方策

ア. 人と自然のコミュニケーションから営農振興を!

- 高齢者等に配慮した渉外活動を基本に、JA職員が明るく元気に訪問します。
- 都市(県外も含む)と農村の交流を“やまびこ”のように広め、管内での就農となるきっかけづくりをします。
- 北部エリアの3営農経済センターと情報交換や協力体制を維持して営農振興を図ります。

イ. 機械共同利用体制の確立と農業従事者の確保!

- 機械の共同利用、共同作業化による生産コストの低減、労働力の確保の取り組み、農作業の受委託を促進することにより耕作放棄地の増加に歯止めをかけ、農地・環境の保全を図っていきます。
- 行政との連携により町外へのPRに努め、定年帰農者、Uターン、Iターン等の農業従事者の確保に努めます。また、町の基幹作物である水稻の一等米比率の向上を図り、安全、安心な米作りと立地条件を生かした加茂川産米のブランド化を図ります。
- 他作目について、規模拡大は難しいものの、関係機関等と連携し、安定した販売に努めます。

ウ.直売所への出荷者の増加、出荷への取組み!

- JAはなやか店への出荷者を増やし、かつ、現在1ヶ所の集荷場所を複数ヶ所に増やし、生産者が出荷を行いやすい体制を整えます。
- 高齢者でも栽培が可能で収入が得られるよう少量、多品目栽培に取組み、当地区の立地条件を生かした農産物の栽培指導を行います。また、既設の直売所、はなやか店との販売状況等の情報交換を行い、渉外活動を通じて生産者にその情報を提供し、販売体制の充実を図ります。

北部第1営農経済センターの発展方向

項	目	現状	H23	H25
水 稲	栽培面積(ha)	388.7	380	375
	生産者数(人)	817	800	780
な す	栽培面積(ha)	0.3	0.3	0.3
	生産者数(人)	13	13	13
	出荷数量(kg)	30,000	30,000	30,000
	販売高(千円)	5,960	6,000	6,000
はくさい	栽培面積(ha)	1	1	1
	生産者数(人)	12	12	12
	出荷数量(kg)	80,000	80,000	80,000
	販売高(千円)	3,111	3,200	3,200
キャベツ	栽培面積(ha)	1.2	1.2	1.2
	生産者数(人)	10	10	10
	出荷数量(kg)	24,000	24,000	24,000
	販売高(千円)	1,539	1,600	1,600
ほうれんそう	栽培面積(ha)	1.2	1.5	1.5
	生産者数(人)	12	12	12
	出荷数量(kg)	18,045	23,000	23,000
	販売高(千円)	8,422	13,000	13,000
トマト	栽培面積(ha)	0.25	0.25	0.25
	生産者数(人)	5	5	5
	出荷数量(kg)	5,000	5,000	5,000
	販売高(千円)	1,298	1,300	1,300
も も	栽培面積(ha)	15	15	15
	生産者数(人)	24	24	24
	出荷数量(kg)	20,500	21,000	21,000
	販売高(千円)	11,132	12,000	12,000
ピオーネ ぶどう	栽培面積(ha)	7	7	7
	生産者数(人)	26	26	26
	出荷数量(kg)	36,900	37,000	37,000
	販売高(千円)	32,364	33,000	33,000

項	目	現状	H23	H25
花き・花木	栽培面積(ha)	2.9	2.9	2.9
	生産者数(人)	10	10	10
	出荷数量(kg)	1,338	1,200	1,100
	販売高(千円)	83,642	80,000	77,000
しいたけ	生産者数(人)	12	12	12
	出荷数量(kg)	9,505	9,600	9,600
	販売高(千円)	16,742	17,000	17,000
畜産(和牛)	生産者数(人)	21	20	20
	頭数	91	90	90
	販売高(千円)	47,000	47,000	47,000
産直会員数(人)		25	30	40

5年後にはこんな農業が展開されています。

- 農地の貸し借りや、作業の委託が安心してできる状態に近づきつつあります。
- 集落内での話し合い活動が活発化し、集落内での親睦が深まっています。
- 農作業の省力化によりゆとりのある生活時間を確保しています。
- 直売所に多彩な農産物が並び状況によって規模の拡大・または新たな直売所が設けられています。
- 営農経済センター、支所・事業所ならびに直売所が地域の中心的な交流の場になっています。
- 直売所へ出荷するための農業や趣味の農業をする人が増え、人も地域も元気になっています。
- 出向く営農指導体制が確立され職員が活発に行動をしています。
- 営農指導・販売に精通した職員が確実に配置されています。
- JAの本所・営農経済センターの販売能力が高まっています。



15 北部第2 営農経済センター

センター販売高：1億7千万円



区域 御津支所(御津・野々口・宇甘東・宇甘西・宇垣・五城・矢原・金川地区)



“夢ふくらむ農業を目指して!”

(1) 現状と課題

工業団地の立地により産業も活発化している中、米穀が地域農業の基盤であります。一方、市内への通勤圏で農業外就労者の増加により、担い手である農業後継者不足、農業従事者の高齢化がすすんでいます。このような状況の中、担い手の育成と組合員の世代交代へ対応する農業振興に取り組む必要があります。

(2) 目標と方策

ア. 消費者ニーズにあった安全・安心な良質米の生産へ!

- 本所と連携して、市場性の高い品種への集約を推進します。
- 消費者の求める高品質、良食味米の安定生産を目指し、適地適作品種の作付普及に取り組めます。
- 他産地の事例や訪問経験を活かした地区単位での指導講習会を開催します。
- 良質米生産に向けて、関係機関と協力して講習会・現地巡回指導等を実施し、栽培・管理指導及び情報提供を行います。
- 恵まれた自然環境やきれいな水で作ったお米のブランド化を近隣の営農経済センターと連携して企画検討をします。



イ. 地域の条件にあった農産物の生産!

- 特産「やまのいも」の生産減少に歯止めをかけるため、部会と連携して普及に努めます。
- 現地見学会・栽培相談会を実施し、新規栽培者の掘り起こしを行います。
- 土壌診断により施肥改善と有機質肥料の普及等による合理的施肥の推進を行います。
- 栽培管理に関する新技術の普及推進の拡大を図ります。
- 新規就農者や高齢者でも、栽培に適した品種のほうれんそうの作付けを推進します。
- 低コストで農業生産に結びつけ、生産者の育成、所得の向上に取り組み、地域における多様な農産物生産を振興します。
- 産地を維持するための後継者の育成・支援を進めるとともに、「アレキサンドリア」の高品質化に向けて結果量調節の徹底と改植・主枝更新を推進します。
- 多様化する消費者ニーズに対応するための新品種（オーロラブラック・高級青系ぶどう）等の生産拡大を目指し、生産・販売と産地一体化された特徴のある高品質ぶどうの生産振興に取り組みます。

ウ. JAと生産者が生き生きとやりがいを持つ農業へ!

- JAと生産者がお互いに、「考える」・「発言する」・「行動する」・「反省する」機会を設けることで常に前進する農業振興に努めます。
- 少子高齢化の時代に即した農産物の生産・販売を図ります。
- 生産・販売の結果に対しての調査と情報提供をすすめます。
- 農業従事者が減少する中、団塊の世代・後継者・女性たちの中にも農業に関心を持っている方が増えている状況であるため、園芸作物を中心に指導会の開催を行い、農業への関心を深めます。

北部第2 営農経済センターの現状と今後の発展方向

① 管内の農家数及び自給的農家数

北部第2 営農経済 センター	総農家数 (戸)	合 計	兼 業 農 家				自給的農家 (戸)
			専 業 農 家 (戸)	小 計	兼 業 農 家		
					第 1 種 兼 業 農 家 (戸)	第 2 種 兼 業 農 家 (戸)	
	825	756	196	560	38	522	265

② 管内の経営耕地面積（田・畑・耕作放棄地）

北部第2 営農経済 センター	経営耕地 総面積 (ha)	田		畑		耕作放棄地	
		農 家 数 (戸)	面 積 (ha)	農 家 数 (戸)	面 積 (ha)	農 家 数 (戸)	面 積 (ha)
			559	825	498	578	33

③ 管内の2008年度主な水稲品種別作付面積

北部第2 営農経済 センター	合計		アケボノ		朝日		ヒノヒカリ		吉備の華		コシヒカリ		雄町		その他	
	面積 (ha)	割合 (%)	面積 (ha)	割合 (%)	面積 (ha)	割合 (%)	面積 (ha)	割合 (%)	面積 (ha)	割合 (%)	面積 (ha)	割合 (%)	面積 (ha)	割合 (%)	面積 (ha)	割合 (%)
	382	100	22	5	80	21	123	32	99	26	10	3	14	4	34	9

④ 現状の農家数と方策

発 展 項 目	現状	H23	H25
組 合 員 数 (人)	1,733	1,733	1,733
水 稻 栽 培 戸 数 (戸)	756	760	760
黒大豆・白大豆栽培戸数(戸)	187	190	190
きゅうり栽培戸数(戸)	3	5	8
ほうれんそう栽培戸数(戸)	15	20	25
な す 栽 培 戸 数 (戸)	6	10	15
ぶ どう 栽 培 戸 数 (戸)	67	69	72
たまねぎ栽培戸数(戸)	15	15	15
やまのいも栽培戸数(戸)	38	40	42
水稲栽培講習会の開催(回)	1	2	2
リサイクル活動(廃棄農薬・空き袋、 空き瓶、廃棄ビニール回収等)(回)	1	1	1

北部第2 営農経済センターの発展方向

項 目	現状	H23	H25	
認 定 農 業 者 (人)	25	27	30	
な す	栽培面積(ha)	0.3	0.5	0.6
	生産者数(人)	6	10	15
	出荷数量(kg)	19,870	40,000	48,000
	販売高(千円)	5,543	10,000	12,000
ね ぎ	栽培面積(ha)	0.02	0.02	0.02
	生産者数(人)	2	2	2
	出荷数量(kg)	2,476	3,000	3,000
	販売高(千円)	1,105	1,500	1,500
たまねぎ	栽培面積(ha)	0.25	0.25	0.25
	生産者数(人)	15	16	16
	出荷数量(kg)	9,410	10,000	10,000
	販売高(千円)	469	700	700
ほうれんそう	栽培面積(ha)	1	2	3
	生産者数(人)	15	20	25
	出荷数量(kg)	10,195	24,000	36,000
	販売高(千円)	2,956	8,400	12,600

項 目		現状	H23	H25
やまのいも	栽培面積(ha)	4.8	4.8	4.8
	生産者数(人)	38	40	42
	出荷数量(kg)	44,000	44,000	44,000
	販売高(千円)	23,801	24,000	24,000
きゅうり	栽培面積(ha)	0.3	0.5	0.7
	生産者数(人)	3	5	8
	出荷数量(kg)	20,550	35,000	50,000
	販売高(千円)	4,232	8,500	12,000
しいたけ	生産者数(人)	3	3	3
	出荷数量(kg)	1,014	1,030	1,030
	販売高(千円)	1,556	1,600	700
ピオーネ	生産者数(人)	67	69	72
	出荷数量(kg)	15,414	16,000	16,500
	販売高(千円)	8,690	9,600	9,900
花き・花木	生産者数(人)	10	11	12
	出荷数量(kg)	6,514	6,600	6,700
	販売高(千円)	1,792	1,800	2,000
米 集 荷 数 量 (俵)		8,078	8,400	9,000
産 直 会 員 数 (人)		182	190	200

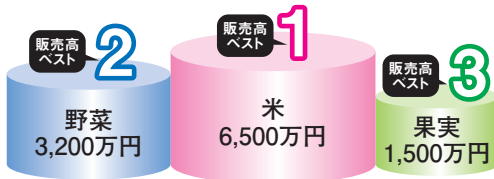
5年後にはこんな農業が展開されています。

- 園芸資材、燃料等が高騰している昨今では、新規の就農、新品種の導入は、現状ではなかなか難しいと考えます。しかしながら、当地区では、園芸作物出荷による収入で生計を立てている農家が少なくありません。このような観点から生産者は高齢化してきてはいるものの、生産意欲は十分にあります。資本がかからずに、手軽にできるほうれんそうは、将来的に農家数、数量、販売金額ともに伸びることが予想されます。
- 米・やまのいも・ほうれんそうを中心に農業活発に展開されています。
- 農家（生産者）と営農経済センターがよく協議して地域農業を振興しています。



16 北部第3 営農経済センター

センター販売高：1億1千万円



区域 福渡支所(福渡・鶴田・上建部・建部・竹枝地区)



“清流と元気な鮎の郷で はっぼね農業”

(方言:はっぼね=「ものごとの中心になる」という意味)

(1) 現状と課題

農家も兼業農家が大半を占めている中で高齢化が進み、生産者も減少し稲作、園芸、果樹と作付面積は縮小しています。稲作を中心とした農業であり、集落組織もありますが、小規模農家が占めています。園芸果樹など既存の部会は生産物の振興に取り組んではいますが、後継者も無く、これといってよい方策がないのが現状であります。農地の荒廃も進んできている中で、休耕地を利用し容易に生産できる生産物の取り組み、農業所得の安定化、若い方にも農業へ興味を持ってもらえる農業活動、取り組みを行い地域管内の活性化につなげることが大切です。



(2) 目標と方策

ア. センターの基幹作物を維持・拡大!

- 管内の基幹作物（きゅうり・ピーマン・ほうれんそう・つぐね芋・ぶどう）について、担当者を決めて、営農指導を学び出向く渉外を目指します。また、北部エリアでの広域対応ができるように、本所と協議して円滑な指導体制を構築します。
- きゅうりの伝統産地としてPRするとともに、部会の意向を細かく聞いて行動します。
- ピーマンについては、昨年部会が立ち上がったばかりであり、安定生産に向けた研究を重ね管内の主要基幹作物として取組みをします。
- ほうれんそうは品種の選定を研究し、作付けを増やしていきます。
- ピオーネは県南産から県北産へのリレー出荷を考慮した作付けと有利販売に努めます。
- つぐね芋・アスパラガスについては、現状を維持して、基幹作物として定着させます。
- 新規に基幹作物となる作物の検討も取り組みます。

イ. 部会の維持、拡大、活性化!

- 新規生産者への加入呼びかけと採算収益性のとれる野菜生産の振興に努めます。
- 品質、生産量を高めた生産物の市場出荷、直売所を通じた有利販売の推進を展開します。
- 小規模生産者への協力応援を推進します。
- 管内の生産物を利用して女性部と連携を図り加工品等の開発を考えます。



ウ. 農地の利用、保全の推進!

- 高齢者の方でも生産容易な生産物を行政と連携を取りながら進めます。
- 出向く営農指導の徹底、農家生産者への情報提供の推進をします。
- 休耕地を利用した生産物の取り組みと同時に講習会、指導を行う場として利用し、生産者の育成拡大に努めます。
- 水稻の作付、米の安定供給をはかるため農作業受委託の推進、新規需要米等の推進をします。

北部第3 営農経済センターの発展方向

項	目	現状	H23	H25
ほうれんそう	栽培面積(ha)	4.5	6.0	8.0
	生産者数(人)	36	45	50
	出荷数量(kg)	33,594	72,000	96,000
	販売高(千円)	9,900	21,600	28,800
つぐね芋	栽培面積(ha)	0.15	0.25	0.30
	生産者数(人)	7	8	9
	出荷数量(kg)	570	3,750	4,500
	販売高(千円)	360	1,875	2,250
きゅうり	栽培面積(ha)	1.1	2.0	3.0
	生産者数(人)	12	20	22
	出荷数量(kg)	51,066	140,000	210,000
	販売高(千円)	15,041	32,000	48,000
ピーマン	栽培面積(ha)	0.30	0.85	1.0
	生産者数(人)	15	20	25
	出荷数量(kg)	12,224	60,000	70,000
	販売高(千円)	2,256	12,000	14,000
ピオーネ ぶどう	栽培面積(ha)	4.4	4.4	4.4
	生産者数(人)	20	21	21
	出荷数量(kg)	21,570	22,000	22,500
	販売高(千円)	12,194	12,500	13,000
アスパラガス	栽培面積(ha)	0.14	0.2	0.3
	生産者数(人)	3	3	3
	出荷数量(kg)	538	3,000	4,500
	販売高(千円)	531	2,400	3,600

5年後にはこんな農業が展開されています。

- 新規就農者が増え各生産部会の活動が、活発になっています。
- 生産者の収益、所得向上のための基幹作物が作付けされています。
- 1年を通じて、管内の農産物が市場へ出荷されています。
- 高齢者の方が、生きがいを持って元気に農作業に取り組んでいきます。
- 休耕地が農産物生産の場として有効に利用されています。



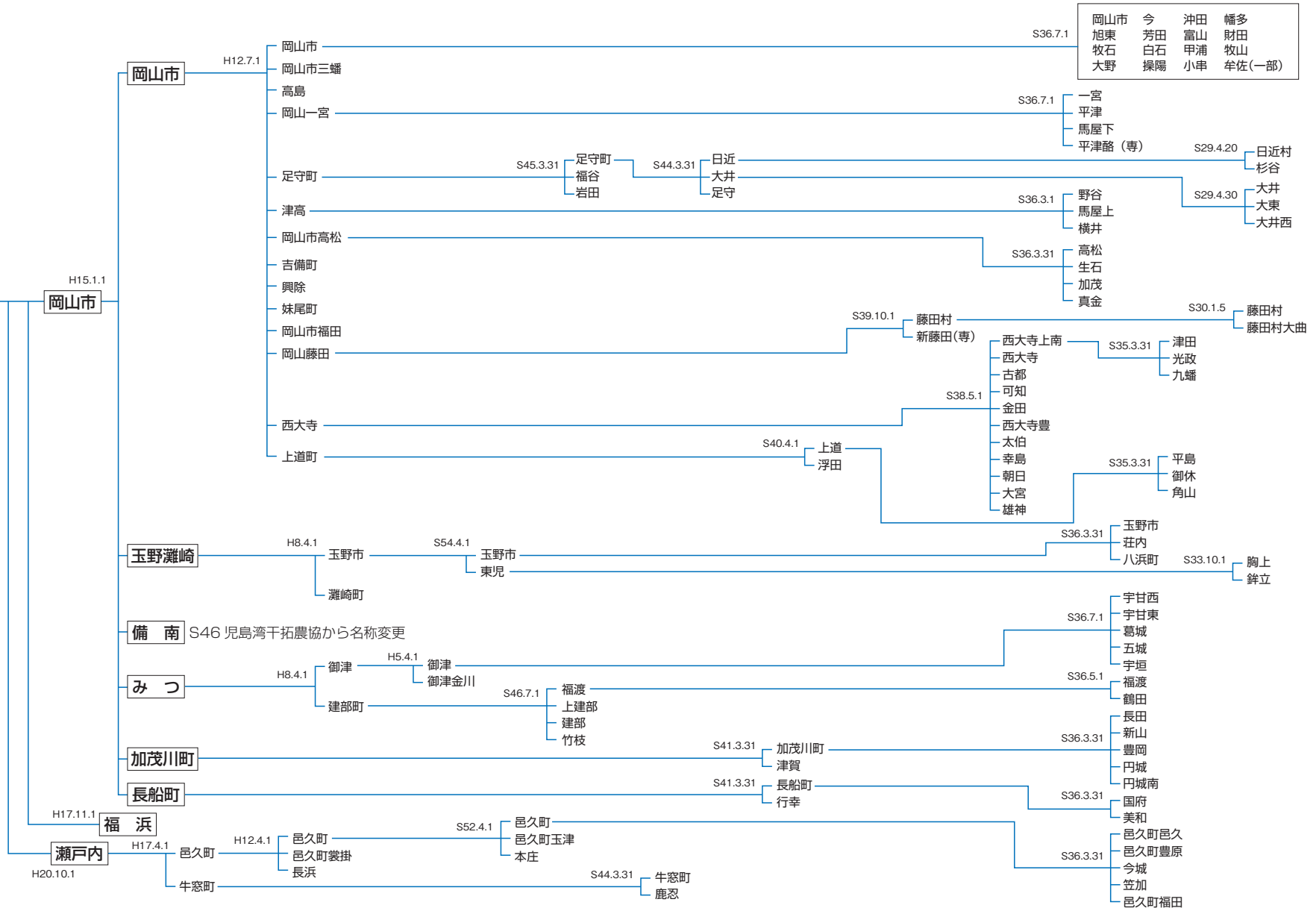
付属資料

-
- 1 岡山市農業協同組合合併の変遷
 - 2 営農経済センター別組合員数(H20.10現在)
 - 3 営農経済センター別年齢別農業従事者数・割合(販売農家)
(2005農林業センサス 販売農家)
 - 4 営農経済センター別取扱高(H19実績推計)
 - 5 営農経済センター別農家数及び農業概要
(2005農林業センサス 販売農家)
 - 6 JA岡山米麦等生産及び青壮年部・女性部等部会概要(営農経済センター別)
 - 7 JA岡山青果物生産部会概要(営農経済センター別)
 - 8 JA岡山大型共同乾燥調製施設一覧
 - 9 JA岡山農産加工施設一覧
 - 10 JA岡山連絡先一覧
-

1 岡山市農業協同組合合併の変遷

(おかやまの農協要覧(岡山県)より)

岡山市農業協同組合

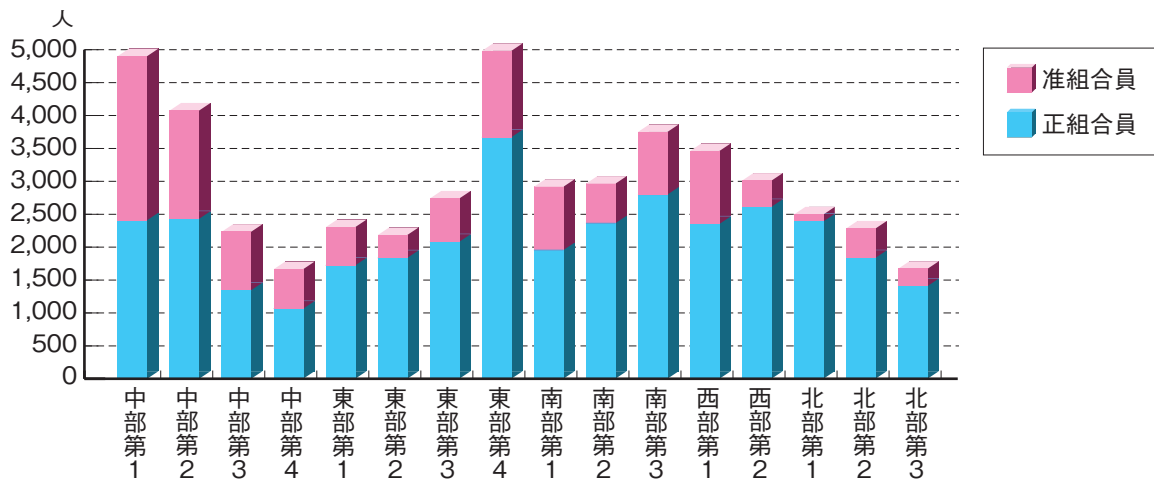


2 営農経済センター別組合員数(平成20年10月現在)

(単位:人)

営農経済センター名	正組合員	准組合員	合 計
中部第1	2,409	2,493	4,902
中部第2	2,431	1,645	4,076
中部第3	1,346	888	2,234
中部第4	1,065	600	1,665
東部第1	1,723	581	2,304
東部第2	1,836	348	2,184
東部第3	2,081	658	2,739
東部第4	3,670	1,312	4,982
南部第1	1,955	962	2,917
南部第2	2,363	601	2,964
南部第3	2,798	952	3,750
西部第1	2,352	1,109	3,461
西部第2	2,613	397	3,010
北部第1	2,391	106	2,497
北部第2	1,837	446	2,283
北部第3	1,408	263	1,671
合 計	34,278	13,361	47,639

営農経済センター別組合員数



3 営農経済センター別年齢別農業従事者数・割合(販売農家)

(単位:人、%)

エリア名	営農経済センター名	男女計				15歳～29歳未満				30歳～49歳未満				50歳～59歳未満				60歳以上				65歳以上			
		男	女	小計	割合	男	女	小計	割合	男	女	小計	割合	男	女	小計	割合	男	女	小計	割合	男	女	小計	割合
中部	※中部第1	444	552	996	100.0	42	17	59	5.9	25	65	90	9.0	29	95	124	12.4	348	375	723	72.6	302	293	595	59.7
	※中部第2	320	403	723	100.0	21	15	36	5.0	15	45	60	8.3	34	63	97	13.4	250	280	530	73.3	212	241	453	62.7
	中部第3	245	331	576	100.0	19	15	34	5.9	10	40	50	8.7	13	46	59	10.2	203	230	433	75.2	168	189	357	62.0
	中部第4	200	226	426	100.0	11	6	17	4.0	16	18	34	8.0	12	30	42	9.9	161	172	333	78.2	143	134	277	65.0
東部	東部第1	789	945	1,734	100.0	57	22	79	4.6	41	72	113	6.5	67	161	228	13.1	624	690	1,314	75.8	530	561	1,091	62.9
	東部第2	603	736	1,339	100.0	42	23	65	4.9	14	46	60	4.5	39	126	165	12.3	508	541	1,049	78.3	433	432	865	64.6
	東部第3	688	792	1,480	100.0	64	32	96	6.5	29	57	86	5.8	41	86	127	8.6	554	617	1,171	79.1	480	502	982	66.4
	東部第4	954	978	1,932	100.0	54	37	91	4.7	56	76	132	6.8	82	131	213	11.0	762	734	1,496	77.4	654	583	1,237	64.0
南部	南部第1	434	571	1,005	100.0	41	24	65	6.5	5	64	69	6.9	17	87	104	10.3	371	396	767	76.3	323	311	634	63.1
	南部第2	800	1,033	1,833	100.0	101	69	170	9.3	55	110	165	9.0	61	159	220	12.0	583	695	1,278	69.7	508	577	1,085	59.2
	南部第3	877	1,027	1,904	100.0	91	50	141	7.4	68	115	183	9.6	68	129	197	10.3	650	733	1,383	72.6	572	604	1,176	61.8
西部	西部第1	699	839	1,538	100.0	64	31	95	6.2	40	86	126	8.2	63	146	209	13.6	532	576	1,108	72.0	448	471	919	59.8
	西部第2	698	861	1,559	100.0	55	35	90	5.8	25	73	98	6.3	31	93	124	8.0	587	660	1,247	80.0	521	555	1,076	69.0
北部	北部第1	438	505	943	100.0	30	12	42	4.5	25	39	64	6.8	23	46	69	7.3	360	408	768	81.4	323	353	676	71.7
	北部第2	438	556	994	100.0	29	19	48	4.8	11	25	36	3.6	25	68	93	9.4	373	444	817	82.2	338	361	699	70.3
	北部第3	404	422	826	100.0	48	22	70	8.5	16	22	38	4.6	18	37	55	6.7	322	341	663	80.3	292	284	576	69.7
	JA岡山合計	9,031	10,777	19,808	100.0	769	429	1,198	6.0	451	953	1,404	7.1	623	1,503	2,126	10.7	7,188	7,892	15,080	76.1	6,247	6,451	12,698	64.1
岡山県		36,113	43,415	79,528	100.0	2,826	1,677	4,503	5.7	1,388	3,103	4,491	5.6	2,269	5,167	7,436	9.4	29,630	33,468	63,098	79.3	26,128	28,054	54,182	68.1

※中部第2の津島支所、旭東支所、中部第3の平井事業所は、農林業センサスでは、旧村単位で、旧岡山市区域に入るため、中部第1営農経済センターに集計されています。

(2005農林業センサス)

4 営農経済センター別取扱高(H19実績推計)

(単位:千円)

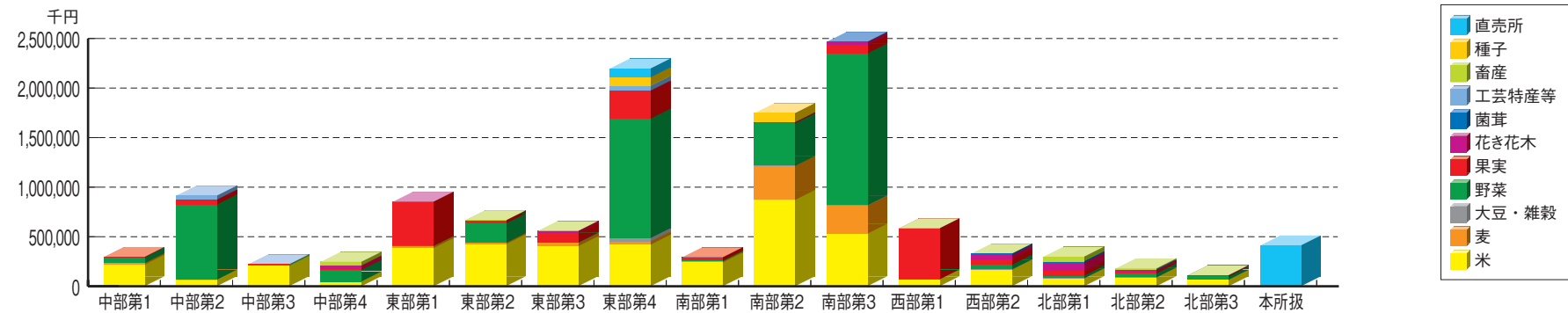
センター名	米	麦	大豆・雑穀	野菜	果実	花き花木	菌茸	工芸特産等	畜産	種子	直売所	計
中部第1	218,015	13,933	735	58,222	4,443							295,348
中部第2	65,305	933		758,344	44,242	4,764	182	39,619				913,389
中部第3	205,818	358		12,246	1,886			900				221,208
中部第4	47,179		588	117,392	4,789	48,354			54,929			273,231
東部第1	384,741	19,417		3,238	440,326	226						847,948
東部第2	424,383	11,794	147	197,435	27,132	2,686			7,973			671,550
東部第3	403,745	29,903	2,057	5,364	95,153	21,405			383			558,010
東部第4	419,206	30,656	35,193	1,213,003	276,433	4,958		40,092	2,281	85,740	88,837	2,196,399
南部第1	239,666	11,050	1,469	6,305	33,356							291,846
南部第2	713,069	336,010	147	427,572	12,103	24		11		91,119		1,580,055
南部第3	530,207	275,282	4,408	1,529,181	82,156	28,680	6,775					2,456,689
西部第1	68,281			230	507,818	1,955			484			578,768
西部第2	167,018		1,028	47,457	55,823	41,076	16,079		1,008			329,489
北部第1	78,197		1,175	25,762	44,842	87,580	17,667		47,388			302,611
北部第2	86,870		1,763	40,962	17,680	12,550	9,966		8,990			178,781
北部第3	64,622		881	31,534	12,662	30	1,364		604			111,697
本所扱											411,752	411,752
合計	4,116,322	729,336	49,591	4,474,247	1,660,844	254,288	52,033	80,622	124,040	176,859	500,589	12,218,771

注1) 米、麦、大豆は本来本所扱いとなっているが、センター比較を行うため、案分推計した。

注2) 米のセンター別実績はセンター別契約数量で推計した。

注3) 麦大豆は作付面積(H17)で推計した。

営農経済センター別販売実績(H19)



5 営農経済センター別農家数及び農業概要

エリア名	営農経済センター名	総農家数 戸	販売農家					自給的農家数 戸	販売農家								耕作放棄 地面積計 ha
			計 戸	専業農家 戸	兼業農家		規模別農家数										
					小計 戸	第1種 兼業農家 戸	第2種 兼業農家 戸		販売農家 数小計 戸	0.3ha 未満 戸	0.3～ 0.5ha 戸	0.5～ 1.0 戸	1.0～ 1.5 戸	1.5～ 2.0 戸	2～5 戸	5ha 以上 戸	
中部	※中部第1	1,104	619	163	456	17	439	485	619	7	185	243	92	43	41	8	56
	※中部第2	779	412	148	243	25	218	367	412	30	134	167	33	12	12	3	66
	中部第3	461	371	87	284	16	268	90	371	1	73	162	82	31	18	4	34
	中部第4	573	251	92	159	23	136	322	251	4	94	102	26	8	13	4	116
東部	東部第1	1,335	1,090	314	776	121	655	245	1,090	9	192	404	249	119	100	17	78
	東部第2	1,093	871	208	663	99	564	222	871	5	182	356	167	75	73	13	101
	東部第3	1,247	928	233	695	73	622	319	928	4	180	375	226	68	62	13	140
	東部第4	1,506	1,118	353	765	139	626	388	1,118	19	216	435	242	94	88	24	338
南部	南部第1	987	700	140	560	15	545	287	700	3	181	353	110	25	24	4	49
	南部第2	1,275	1,198	212	986	164	822	77	1,198	1	95	270	358	224	219	31	33
	南部第3	1,693	1,114	274	840	177	663	579	1,114	2	249	312	214	164	149	24	105
西部	西部第1	1,292	843	233	608	76	532	449	843	86	281	361	76	19	13	5	191
	西部第2	1,483	987	238	749	28	721	496	987	13	293	450	150	34	34	13	242
北部	北部第1	927	642	211	431	44	387	285	642	3	173	304	104	36	21	1	166
	北部第2	1,041	645	172	473	26	447	396	645	6	203	331	75	17	8	5	105
	北部第3	823	544	145	399	21	378	279	544	0	151	297	52	13	22	9	107
JA岡山合計		17,619	12,333	3,223	9,087	1,064	8,023	5,286	12,333	193	2,882	4,922	2,256	982	897	178	1,927
岡山県		81,786	51,709	12,301	39,408	4,116	35,292	30,077	51,709	531	15,662	22,457	7,685	2,602	2,308	464	10,517

※中部第2の津島支所、旭東支所、中部第3の平井事業所は、農林業センサスでは、旧村単位で、旧岡山市区域に入るため、中部第1営農経済センターに集計されています。

(2005農林業センサス)

エリア名	営農経済 センター名	経営耕地 総面積 (販売農) ha	1戸当たり 経営耕地面積 (販売農家) (平均) a	田		畑(樹園地を除く)		樹園地		計		稲		麦類	
				田のある 農家数 戸	面積計 ha	畑のある 農家数 戸	面積計 ha	樹園地 のある 農家数 戸	面積計 ha	作付 (栽培) 実農家数 戸	作付 (栽培) 面積 ha	作農 家数 戸	作付面積 ha	作農 家数 戸	作付面積 ha
中部	中部第1	594	96	611	573	204	20	28	3	579	511	557	471	17	36
	中部第2	298	72	331	234	214	49	63	13	356	181	268	167	3	7
	中部第3	387	104	370	379	75	5	11	2	351	129	349	312	1	0
	中部第4	208	83	237	170	133	28	62	9	223	142	179	85	1	0
東部	東部第1	1,322	121	1,058	1,217	363	21	243	85	1,029	1,118	1,020	981	124	90
	東部第2	1,022	117	855	929	496	87	78	7	832	659	794	641	193	169
	東部第3	1,026	111	911	914	548	50	260	63	870	528	854	697	45	76
	東部第4	1,350	121	997	992	866	310	180	50	1,070	1,070	865	807	94	91
南部	南部第1	594	85	691	568	206	17	45	9	671	473	666	427	12	22
	南部第2	1,997	167	1,194	1,978	122	17	5	1	1,180	2,394	1,166	809	425	801
	南部第3	1,433	129	1,106	1,364	314	45	168	25	1,030	1,498	960	916	373	609
西部	西部第1	551	65	692	332	373	28	629	192	601	214	577	276	0	0
	西部第2	905	92	980	858	462	33	112	17	909	663	894	714	0	0
北部	北部第1	531	83	629	429	530	87	91	14	550	264	526	313	3	0
	北部第2	471	73	635	424	375	25	156	25	592	271	580	288	1	0
	北部第3	507	93	535	383	282	116	56	9	465	168	460	263	2	0
JA岡山合計		13,196	*107	11,832	11,744	5,563	938	2,187	524	11,308	10,283	10,715	8,167	1,294	1,901
岡山県		46,088	*89	50,045	38,445	31,759	5,475	9,480	2,168	44,956	33,258	42,422	26,160	1,510	2,129

※平均を示す。

エリア名	営農経済 センター名	豆 類		野 菜 類			
		作 農 家 数 戸	付 付 面積 ha	露 地		施 設	
				作 農 家 数 戸	付 付 面積 ha	栽 農 家 数 戸	培 農 面積 ha
中 部	中部第 1	32	5	100	22	11	1
	中部第 2	20	0	155	46	44	4
	中部第 3	11	0	34	3	3	0
	中部第 4	47	4	122	9	26	2
東 部	東部第 1	24	0	42	5	74	5
	東部第 2	25	1	194	68	29	1
	東部第 3	125	14	129	13	25	1
	東部第 4	59	2	427	216	67	4
南 部	南部第 1	78	10	73	2	9	0
	南部第 2	22	1	85	29	39	5
	南部第 3	117	30	197	41	124	28
西 部	西部第 1	35	0	81	3	6	0
	西部第 2	92	7	103	13	51	1
北 部	北部第 1	110	8	149	17	22	1
	北部第 2	111	12	60	6	9	0
	北部第 3	97	6	115	5	11	0
JA岡山合計		1,005	100	2,066	498	550	53
岡 山 県		8,909	1,474	9,098	2,060	1,748	168



6 JA岡山米麦等生産及び青壮年部・女性部等部会概要(営農経済センター別)

平成21年3月現在

No.	センター名	部会名	構成員数	No.	センター名	部会名	構成員数
1	中部第1	J A岡山有機農産物栽培研究会	5名	21	南部第2	藤田朝日生産部会	81名
2	中部第2	高島地区雄町米振興会	42	22	南部第2	藤田雄町部会	9
3	東部第1.2	西大寺新農業経営者クラブ	19	23	南部第2	藤田良質麦生産部会	208
4	東部第1.2.3	水田作経営者会議	33	24	南部第2	水稲種子生産部会	45
5	東部第1.2	雄町研究会	6	25	南部第2	ビール麦種子生産部会	19
6	東部第3	浮田地区堆肥利用組合	308	26	南部第2	藤田農作業受託部会	9
7	東部第4	邑久町種子生産組合	47	27	南部第2	興除新農業経営者クラブ	7
8	東部第4	有機栽培研究会	12	28	南部第2	藤田農業後継者クラブ	6
9	東部第4	雄町部会	5	29	南部第3	玉野市新農業者クラブ	23
10	東部第4	畜産部会	19	30	南部第3	灘崎町新農業者クラブ	33
11	南部第1	吉備地区農作業受託部会	7	31	南部第3	備南地区米麦部会	25
12	南部第1	福田ビール大麦生産者組合	5	32	南部第3	灘崎水田作経営者部会	12
13	南部第1	福田地区黒大豆生産者組合	24	33	西部第1	一宮3Mクラブ	8
14	南部第1	妹尾ビール大麦生産部会	6	34	西部第1	津高スリーAクラブ	8
15	南部第1	妹尾農作業受託部会	9	35	西部第2	足守若葉会	7
16	南部第2	興除地区良質麦生産部会	60	36	北部第1	和牛部加茂川支部会	21
17	南部第2	良質米生産団地育成協議会	386	37	北部第3	建部町和牛部会	6
18	南部第2	興除雄町研究会	3				
19	南部第2	水田作経営者会議	18				
20	南部第2	藤田良質米生産部会	353				

JA岡山青壮年部・女性部会等概要

地区	組織名	構成員数
全	J A岡山青壮年部	143名
全	J A岡山女性部	4462
全	J A岡山助け合い組織「かがやき」	73
西	「はなやか西」運営委員会	59
北	「はなやか北」運営委員会	165
南	「はなやか南」運営委員会	268
東	「はなやか東」運営委員会	367
西	「一宮フルーツ王国」運営委員会	219

7 JA岡山青果物生産部会概要(営農経済センター別)

平成21年3月現在

No.	センター名	部会名	構成員数	No.	センター名	部会名	構成員数
1		岡山市農協青果物生産組合	817名	59	東部第4	◎タマネギ部会	7名
2	中部第1	◎レタス部会	40	60	南部第1	◎南ぶどう部会	6
3	中部第1	◎施設ナス部会(浦安なす部会)	5	61	南部第1	◎吉備いちご部会	3
4	中部第1	◎いちじく部会	2	62	南部第1	◎福田いちじく部会	12
5	中部第1	◎サクランボ部会	1	63	南部第1	◎吉備葉菜部会	15
6	中部第2	◎青ねぎ部会	26	64	南部第1	◎南紅ずいき部会	休止中
7	中部第2	◎黄ニラ部会	33	65	南部第2	◎藤田施設茄子部会	12
8	中部第2	◎根菜部会	17	66	南部第2	◎興除施設茄子部会	9
9	中部第2	◎香菜部会	15	67	南部第2	◎藤田レタス部会	30
10	中部第2	◎金山花組合	17	68	南部第2	◎藤田レンコン部会	6
11	中部第2	◎高鳥おかざり部会	31	69	南部第2	◎興除レンコン部会	6
12	中部第2	◎果菜部会	11	70	南部第2	◎藤田タマネギ部会	48
13	中部第2	◎葉菜部会	18	71	南部第2	◎南枝豆部会	9
14	中部第2	◎パセリ部会	12	72	南部第3	◎備南施設茄子部会	127
15	中部第2	◎畑鮎花卉出荷組合	3	73	南部第3	◎備南レンコン部会	13
16	中部第2	◎土田青果物出荷組合(ぶどう部会)	10	74	南部第3	◎玉野灘崎果樹園芸部会	70
17	中部第2	◎沢田生産組合	24	75	南部第3	◎南梨部会	18
18	中部第2	◎◎青果物出荷組合(ぶどう部会)	13	76	南部第3	◎備南マッシュルーム部会	2
19	中部第2	◎高鳥セリ部会	4	77	南部第3	◎備南蔬菜部会	17
20	中部第2	◎しろねぎ部会	3	78	南部第3	◎玉野灘崎レタス部会	5
21	中部第2	◎桃部会(河本分区)	1	79	西部第1	◎一宮選果場果樹部会桃部	420
22	中部第2	◎桃部会(原分区)	3	80	西部第1	◎一宮選果場果樹部会なし部	20
23	中部第2	◎牟佐果樹支部(向山出荷組合)	4	81	西部第1	◎一宮いちご部会	5
24	中部第4	◎軟弱野菜部会	9	82	西部第1	◎一宮選果場果樹部会柿部	21
25	中部第4	◎キャベツ部会	22	83	西部第1	温室ブドウ一宮	188
26	中部第4	◎小串花卉園芸組合	3	84	西部第1	温室ブドウ津高	197
27	中部第4	◎タマネギ部会	41	85	西部第2	◎足守花き部会	20
28	中部第4	◎玉野ユカリ生産組合	5	86	西部第2	◎足守メロン部会	15
29	中部第4	◎玉野花卉部会	14	87	西部第2	◎高松有機無農薬野菜生産組合ふるさと会	12
30	東部第1.2	◎西大寺ぶどう部会	150	88	西部第2	◎足守椎茸部	23
31	東部第1.2	◎西大寺いちご部会	30	89	西部第2	◎高松有機無農薬野菜生産組合みどり会	15
32	東部第1	◎◎梨出荷組合	21	90	西部第2	◎足守なす部会	11
33	東部第2	◎西大寺野菜部会	144	91	西部第2	◎足守ぶどう部会	6
34	東部第2	◎西大寺レタス部会	4	92	西部第2	◎高松いちじく生産部会	15
35	東部第2	◎大宮もも部会	35	93	西部第2	◎高松いちご部会	7
36	東部第3	◎上道ブドウ部会	41	94	西部第2	◎高松アスパラ部会	4
37	東部第3	◎長船果樹部会	13	95	西部第2	温室ブドウ高松	33
38	東部第3	◎長船花卉部会	6	96	西部第2	温室ブドウ足守	3
39	東部第3	◎長船蔬菜部会	14	97	北部第1	◎加茂川花卉生産部会	10
40	東部第3	◎上道花卉部会	5	98	北部第1	◎加茂川ぶどう部会	25
41	東部第4	せとうち生産組織運営協議会	1,215	99	北部第1	◎加茂川椎茸部会	12
42	東部第4	産直部会	247	100	北部第1	◎加茂川桃生産部会	24
43	東部第4	◎白菜(牛窓)部会	135	101	北部第1	◎加茂川施設野菜部会	12
44	東部第4	◎キャベツ(牛窓)部会	138	102	北部第1	◎加茂川秋冬野菜部会	15
45	東部第4	◎ぶどう部会(蒙掛支部)	30	103	北部第2	◎みつ山の芋部会	50
46	東部第4	◎冬瓜・ソーマン南瓜部会	94	104	北部第2	◎御津露地ぶどう部会	40
47	東部第4	◎ミニトマト部会	21	105	北部第2	◎御津しいたけ部会	3
48	東部第4	◎種馬鈴薯部会	89	106	北部第2	◎御津しきみ部会	20
49	東部第4	◎南瓜(牛窓)部会	98	107	北部第2	◎鹿瀬露地ぶどう部会	9
50	東部第4	◎ぶどう部会(邑久支部)	43	108	北部第2	◎御津ネギ部会	3
51	東部第4	◎洋菜(牛窓)部会	53	109	北部第2	温室ブドウ御津	96
52	東部第4	◎メロン・西瓜部会	51	110	北部第3	◎建部きゅうり部会	11
53	東部第4	◎越瓜(しろうり)部会	3	111	北部第3	◎建部法連草部会	30
54	東部第4	◎菊菜部会	38	112	北部第3	◎建部露地ブドウ部会	20
55	東部第4	◎アスパラ部会	17	113	北部第3	◎建部ピーマン部会	15
56	東部第4	◎みかん部会	50	114	北部第3	◎建部アスパラ部会	3
57	東部第4	◎ミセスフラワーの会	3	115	北部第3	◎建部つぐね芋部会	8
58	東部第4	◎新規果樹部会	15	116	南部第2	南レモン研究会	6

南部第2・南レモン研究会はH20.5.15発足。将来は部会組織になります。

8 JA岡山大型共同乾燥調製施設一覧

番号	名称	施設の種類		設置場所	設置年度	設置年月	メーカー	サイロ		対象面積(ha)		処理能力(俵)		備考
		カントリーエレベータ	ライスセンター					容量t	基数	米	麦	米(60kg)	麦(50kg)	
1	桑野		DS	岡山市中区桑野	S58	S59.7	サタケ			250	145	20,000	二条 10,150	
		CE		岡山市中区桑野	H2	H3.3	サタケ	350	7	380		30,800		
		CE		岡山市中区桑野	H8	H8.3	サタケ	250	6	250		20,000		
2	高島		RC	岡山市中区湯迫	H4	H5.10	ヤンマー				70		4,900	
3	松新	CE		岡山市東区松新町	S55	S55.4	ヤンマー	250	8	770	390	61,600	小麦 28,080	60kg/俵
		CE		岡山市東区松新町	S63	H1.4	ヤンマー	125	4					
4	水門		DS	岡山市東区水門町	S60	S61.3	ヤンマー			541	390	43,280	小麦 28,080	60kg/俵
		CE		岡山市東区水門町	H3	H4.5	ヤンマー	250	4		0			
5	上道		DS	岡山市東区内ヶ原	S59.H7	S59.3	サタケ			308	80	24,640	二条 4,400	
6	高松		RC	岡山市北区三手	S51	S51.10	サタケ	100	2	200		16,000	二条 4,400	
7	足守		DS	岡山市北区粟井	S52	S52.9	日本車輛	15	3	200		15,000		
8	興除	CE		岡山市南区中畦	H9	H10.3	イセキ	250	8	300	260	27,000	二条 26,000	
9	藤田		RC	岡山市南区藤田	H7	H8.3	サタケ			100	200	8,700	二条 18,000	
10	吉備		DS	岡山市北区撫川	S51	S51.10	日本車輛			200	80	15,000	二条 4,800	
11	御津	CE		岡山市北区御津高津	S56	S57.7	サタケ	100	6	250	85	16,000	小麦 6,000	60kg/俵
			RC	岡山市北区鹿瀬		S54.10	山本					1,300		
12	建部		DS	岡山市北区建部町建部上	S53	S54.5	ヤンマー				160	12,000		
13	加茂川		DS	吉備中央町細田	S59.S60	S59.7	サタケ				190	15,200		
			RC	吉備中央町細田	H4	H5.3	サタケ				120	9,400		
14	長船	CE		瀬戸内市長船町福里	S46. 47. 49. 50	S47.3	日本車輛	250	8			13,000	二条 3,500	
15	備南		DS	岡山市南区灘崎町	S48. S49. S52. S53	S49	サタケ			450	600	36,000	二条 45,000	
16	邑久	CE		瀬戸内市邑久町豊原	S54	S54	ヤンマー	125	6			22,000	二条 8,800	
								250	6					
17	裳掛		RC	瀬戸内市邑久町虫明	S57	S57.10	サタケ					3,000		
18	長浜		RC	瀬戸内市牛窓町長浜	S61	S61.10	サタケ					2,500		
合計	18	9	15									417,320	187,210	

種子センター

・藤田種子センター 岡山市南区藤田 処理能力 米:4,120俵/60kg, 麦:1,260俵/50kg.
 ・邑久種子センター 瀬戸内市本庄2374 処理能力 米:5,700俵/60kg, 麦:1,000俵/50kg.

※CE:カントリーエレベーター

大規模な共同乾燥施設、乾燥、調製、ばら貯蔵を行う。

※RC:ライスセンター

中・小規模な共同乾燥施設。かつては貯蔵施設がなかったが、近年では貯蔵施設が併設されるものも出てきた。

※DS:ドライスター方式のライスセンター

貯留用の容器(ビーン)に通風装置を取り付け、半乾燥状態の穀物を貯蔵中に送風してゆっくり乾燥し、乾燥終了後はそのまま貯蔵する施設。

※資料: 県穀物改良協会「大型乾燥調製施設調査」及びJA岡山調査による。

9 JA岡山農産加工施設一覧

所管センター	施設名	住所	主な加工品名
中部第1	今農産加工施設	岡山市北区今4丁目1-5	テンペ、うどん、惣菜、豆腐、菓子、寿司、赤飯
中部第1	今ふれあい加工場	岡山市北区今4丁目3-8	味噌
中部第1	福浜農産加工施設	岡山市南区福富東1丁目7-51	味噌、豆腐
中部第2	高島加工場	岡山市中区国府市場32-3	味噌、豆腐
東部第1	西大寺手作り農産加工施設	岡山市東区西大寺中野377-1	味噌、もち、豆腐、ひしお、赤飯、寿司、菓子
東部第3	上道加工場	岡山市東区南古都110	味噌、豆腐
東部第3	長船支所加工室	瀬戸内市長船町福里142	味噌、豆腐、菓子（せんべい）
東部第4	むつみ農産加工場	瀬戸内市邑久町豊原101-1	豆腐、味噌、惣菜、弁当
南部第1	福田農産加工施設	岡山市南区古新田1069-1	味噌、ジャム
南部第1	吉備農産加工施設	岡山市北区平野904-4	味噌、寿司
南部第2	藤田農産加工施設	岡山市南区藤田441	味噌、豆腐、弁当、おこわ
南部第2	興除農産加工施設	岡山市南区中畦548	味噌、たれ
南部第3	灘崎農産加工施設	岡山市南区灘崎町片岡821	菓子（ようかん）、味噌、焼き肉のタレ、おこわ
南部第3	彦崎農産加工施設	岡山市南区灘崎町彦崎2798-5	テンペコロケ
南部第3	玉野農産加工施設	玉野市用吉1680-1	味噌、ジャム、もち
南部第3	備南農産物加工施設	岡山市南区灘崎町北七区61-1	味噌、漬物
西部第1	一宮果樹有館加工場	岡山市北区芳賀1288	桃、ぶどうの加工品
西部第1	津高農産加工施設	岡山市北区栢谷1057	味噌、豆腐、もち
西部第2	JA岡山パン工房	岡山市北区下足守3-1	お米パン
西部第2	足守手作り農産加工料理教室	岡山市北区大井2386-1	味噌
西部第2	西農産物加工施設	岡山市北区三手61-1	味噌、うどん、豆腐、甘酒、おこわ、たれ
北部第1	にこにこ教室	加賀郡吉備中央町下賀茂22-1	味噌、豆腐
北部第3	建部町JA農産物加工施設（建部上）	岡山市北区建部町建部上硯堂331-4	味噌
北部第3	建部町JA農産物加工施設（福渡）	岡山市北区建部町福渡804-6	味噌

10 JA岡山連絡先一覧

平成20年10月現在

事業所名	電話番号	事業所名	電話番号
本所（代表）	086-225-3251	営農生活部 営農経済センター	
監事事務局	086-225-3289	中部第1（浦安）	086-902-5007
監査室	086-225-3252	中部第2（高島）	086-207-6511
総合対策部		中部第3（沖田）	086-200-0150
総合対策課	086-225-3339	中部第4（小串）	086-269-9191
コンプライアンス対策課	086-225-3369	東部第1（西大寺）	086-944-6155
企画管理部		東部第2（山南）	086-946-9003
企画管理課	086-225-9845	東部第3（長船）	0869-26-9577
審査課	086-225-9852	東部第4（邑久）	0869-22-1212
情報システム課	086-225-9847	南部第1（吉備）	086-903-3010
広報課	086-225-9846	南部第2（藤田）	086-296-0037
総務部		南部第3（備南）	08636-3-5122
総務課	086-225-3251	西部第1（津高）	086-294-6004
経理課	086-225-9830	西部第2（高松）	086-905-0710
教育人事課	086-225-9848	北部第1（円城）	0867-34-9777
信用共済部		北部第2（野々口）	0867-24-2000
信用課	086-225-9835	北部第3（建部）	0867-22-9050
債権保全課	086-225-9881	東部第4営農経済センター 業務課	
共済課	086-225-9834	業務課	0869-22-2233
資金課	086-225-9888	邑久給油所	0869-22-0212
営業課	086-225-9960	裳掛給油所	0869-25-0103
農業会館出張所	086-234-5679	牛窓給油所	0869-34-2933
自動車事故損害査定センター	086-298-9292	オートパル瀬戸内	0869-22-0179
普及推進部		瀬戸内農機センター	0869-22-0274
推進企画課	086-225-9836	瀬戸内LPガスセンター	0869-22-0212
渉外課	086-225-9832	裳掛営業所	0869-25-0103
ローンセンター	086-225-9911	牛窓営業所	0869-34-2933
営農生活部		Aコープ牛窓	0869-34-4500
営農企画課	086-225-3224	玉津マーケット	0869-24-0331
指導課	農産担当	牛窓ミニスト	0869-34-5600
	園芸担当	牛窓マイマート	0869-34-3429
	生活担当	農業資材店	
	福祉担当（福祉ステーション）	農業資材高島店	086-275-0183
販売課		農業資材高松店	086-287-8926
	販売課食糧部門（福浜）	農業資材西大寺店	086-944-2888
購買課	086-296-0646	農業資材備南店	08636-2-2245
不動産開発課	086-225-9882	農業資材御津店	0867-24-5688
旅行センター	086-225-9866	農業資材加茂川店	0867-34-1012
その他		農業資材長船店	0869-26-4064
(株)ジェイエイ岡山	086-225-9857	農業資材邑久店	0869-22-2234
(株)JAアグリ岡山 事務局	086-225-3351	農業資材牛窓店	0869-34-2922
農事組合法人グリーンファーム岡山 事務局	086-225-3351	サブ資材店	
農産物直売所		一宮資材店	086-284-0511
農産物直売所 はなやか中央店	086-226-1077	津高資材店	086-294-2657
農産物直売所 はなやか西店	086-295-0235	足守資材店	086-295-0111
農産物直売所 はなやか津高店	086-294-2096	上建部資材店	0867-22-0733
フルーツ王国一宮直売所	086-286-0040	吉備資材店	086-903-3010
フルーツ王国一宮果樹有館	086-286-0041	興除資材店	086-298-9525
農産物直売所 はなやか南店	086-296-0507	荘内資材店	0863-71-1573
農産物直売所 はなやか東店	086-944-8788	銚立資材店	0863-66-5211
農産物直売所 はなやか北店	0867-24-1979	灘崎資材店	08636-2-4856
産直市場おく	0869-22-0714	上道資材店	086-297-3711
一本松直売所	0869-25-1900	福浜資材店	086-262-1165
黒井山直売所	0869-25-0895	裳掛資材店	0869-25-0101

平成20年10月現在

事業所名	電話番号	事業所名	電話番号
支 所		ライスセンター	
芳田支所	086-241-9705	桑野ライスセンター	086-276-1951
青江事業所	086-232-8213	桑野カントリーエレベーター	086-274-3210
今支所	086-241-5146	桑野新カントリーエレベーター	086-277-8067
白石支所	086-241-0344	足守ライスセンター	086-295-2066
大野支所	086-252-3165	吉備ライスセンター	086-293-5110
牧石支所	086-228-0211	藤田ライスセンター	086-296-2517
牧山事業所	086-228-0339	興除カントリーエレベーター	086-298-3180
牟佐事業所	086-229-2331	水門ライスセンター	086-946-1923
旭東支所	086-272-5245	松新カントリーエレベーター	086-943-7335
幡多支所	086-272-0801	高島ライスセンター	086-275-7091
財田支所	086-279-0518	高松ライスセンター	086-287-8927
古都事業所	086-279-0017	津高ライスセンター	086-255-3006
富山支所	086-277-7324	上道ライスセンター	086-297-4882
操陽事業所	086-277-7070	御津ライスセンター	0867-24-2433
操南支所(旧三幡支所)	086-277-7330	建部ライスセンター	0867-22-2170
平井事業所	086-277-1355	加茂川ライスセンター	0867-34-1599
甲浦支所	086-267-2341	備南ライスセンター	08636-2-1525
津島支所	086-254-8705	長船カントリーエレベーター	0869-26-2061
高島支所	086-275-0181	邑久カントリーエレベーター	0869-22-9135
一宮支所(旧檜津支所)	086-284-0511	裳掛ライスセンター	0869-25-1889
津高支所	086-294-2657	長浜ライスセンター	0869-34-4100
足守支所(旧足守中央支所)	086-295-0111	株式会社JA岡山 営業所名	
高松支所	086-287-2501	本社	086-944-0045
吉備支所	086-293-0606	岡山東LPガスセンター	086-943-4551
福田支所	086-282-1151	岡山中央LPガスセンター	086-209-0661
妹尾事業所	086-282-1195	岡山北LPガスセンター	086-209-0661
興除支所	086-298-2161	岡山北LPガスセンター 御津営業所	0867-24-0250
藤田支所	086-296-2211	岡山北LPガスセンター 加茂川営業所	0867-34-0210
西大寺支所	086-943-2972	益野給油所	086-943-4552
雄神事業所	086-943-2260	神崎給油所	086-946-0191
可知支所	086-943-2444	上道給油所	086-297-6447
豊支所	086-943-2218	高松給油所	086-287-3064
山南支所	086-946-8511	大井給油所	086-295-0271
上南支所(旧津田支所)	086-948-2030	福谷給油所	086-299-0003
光政事業所	086-948-3408	興除給油所	086-298-2164
九幡事業所	086-948-3301	三幡給油所	086-277-0823
金田事業所	086-948-2462	胸上給油所	0863-41-1978
上道支所	086-297-3711	備南給油所	08636-2-3115
御津支所	0867-24-0511	御津給油所	0867-24-0183
福渡支所	0867-22-0529	加茂川給油所	0867-34-0210
加茂川支所(旧津賀支所)	0867-34-1121	オートバル西大寺	086-944-2890
御北事業所	0867-35-1101	オートバル足守	086-295-1005
玉野支所	0863-71-1571	オートバル興除	086-298-2572
八浜事業所	0863-51-1501	オートバル備南	08636-2-3646
東児支所	0863-41-1577	オートバル御津	0867-24-0540
灘崎支所	08636-2-4881	オートバル加茂川	0867-34-1155
備南支所	08636-2-1521	中古車センター	086-944-2890
長船支所	0869-26-2003	西大寺農機センター	086-944-2895
福浜支所	086-262-1165	興除農機センター	086-298-9515
瀬戸内支所	0869-22-0211	岡山吉備農機センター	086-293-4088
邑久支所	0869-22-0002	加茂川農機センター	0867-34-1155
裳掛支所	0869-25-0101	Aコープ西大寺	086-943-1711
牛窓支所	0869-34-5801	Aコープたかまつ	086-287-6671
		Aコープ加茂川	0867-34-1122
		やすらぎ東営業所	086-944-2800
		やすらぎ西営業所	086-294-1165